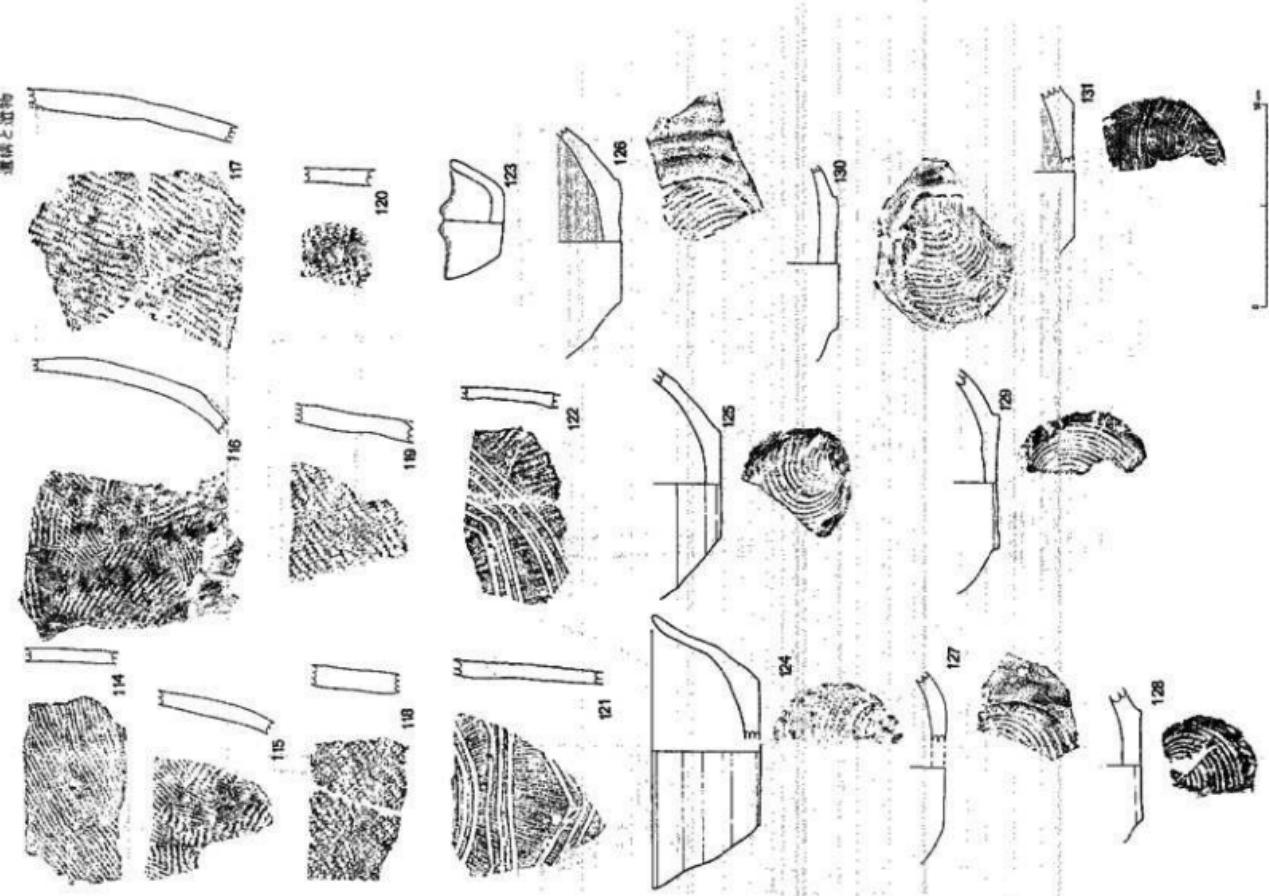
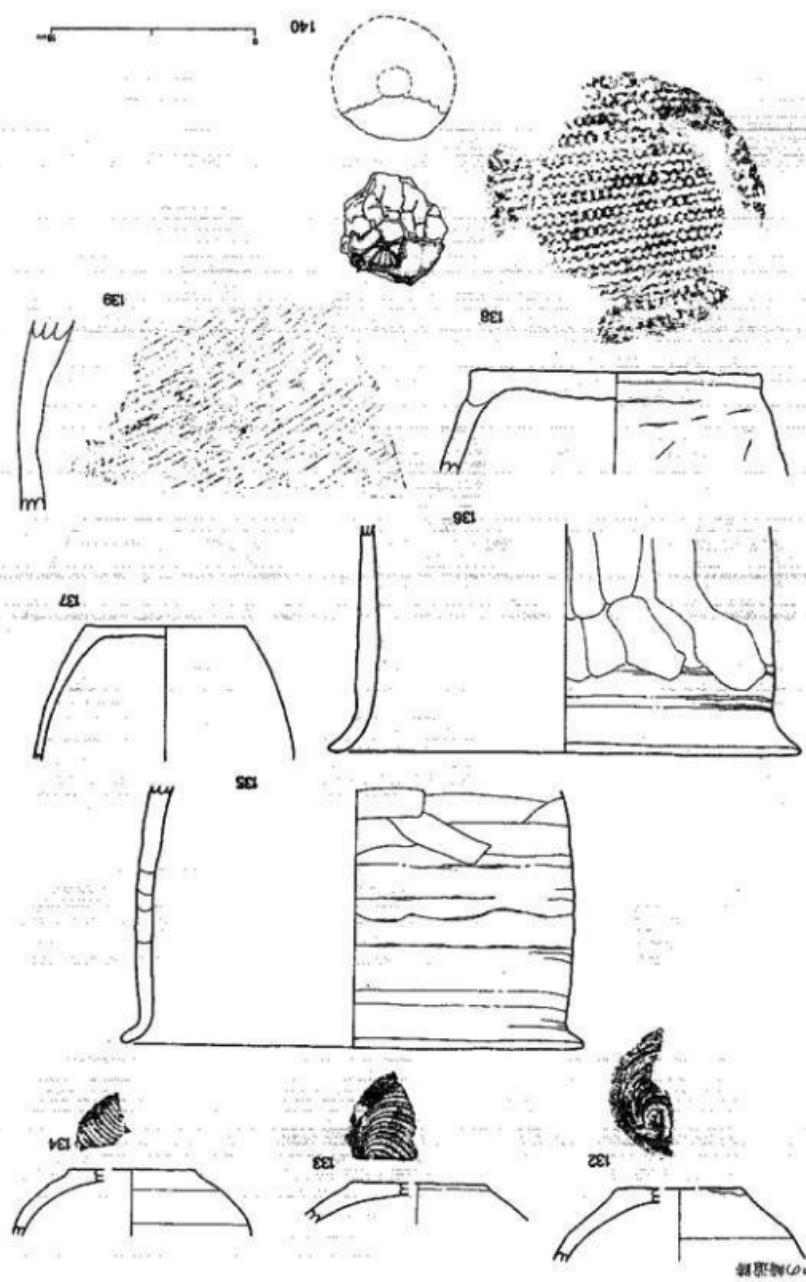


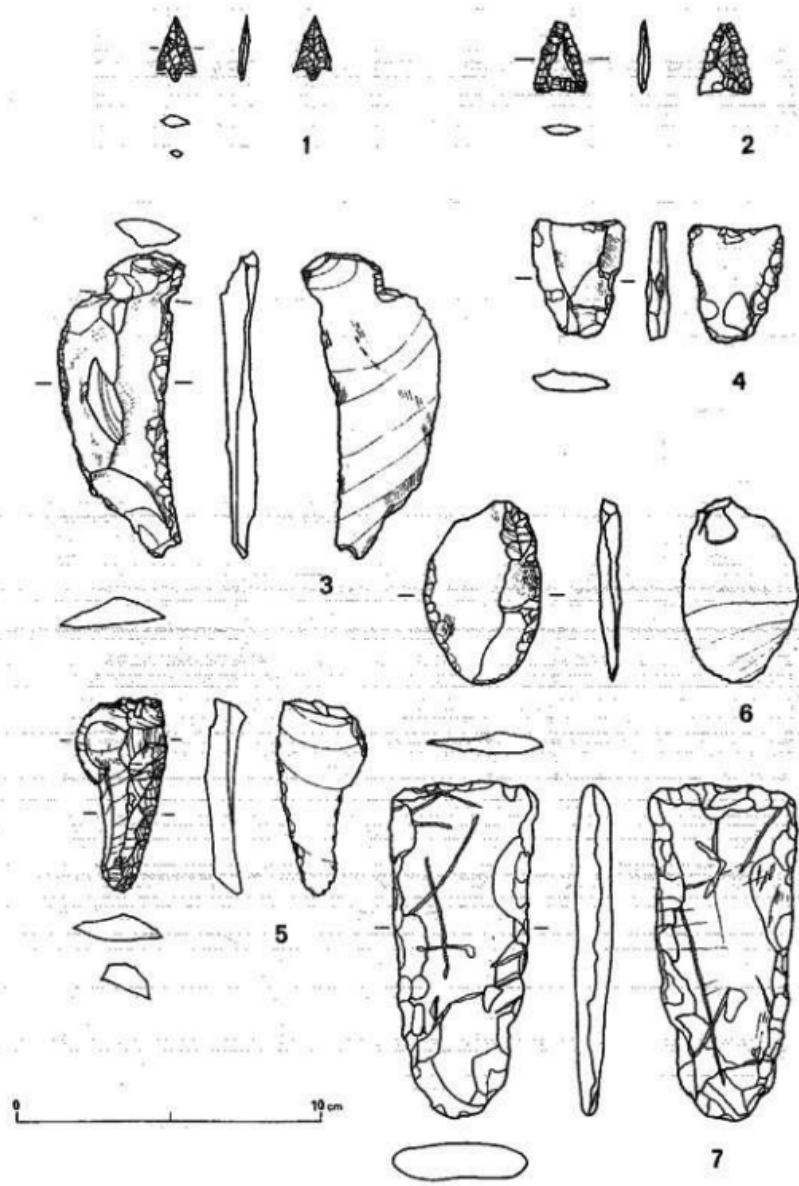
第128図 退釋出土遺物(6)

第129圖 遺標外出土遺物7



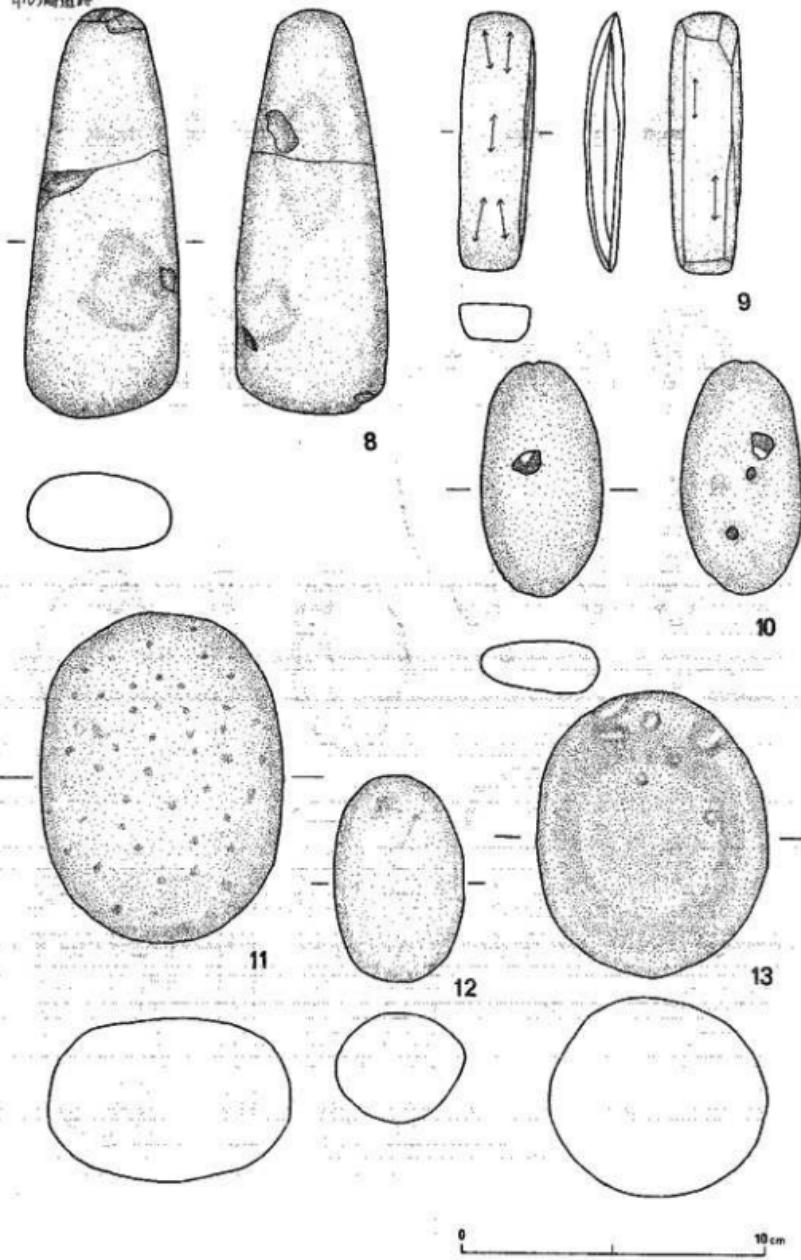
第130圖 遷都外出土遺物(8)



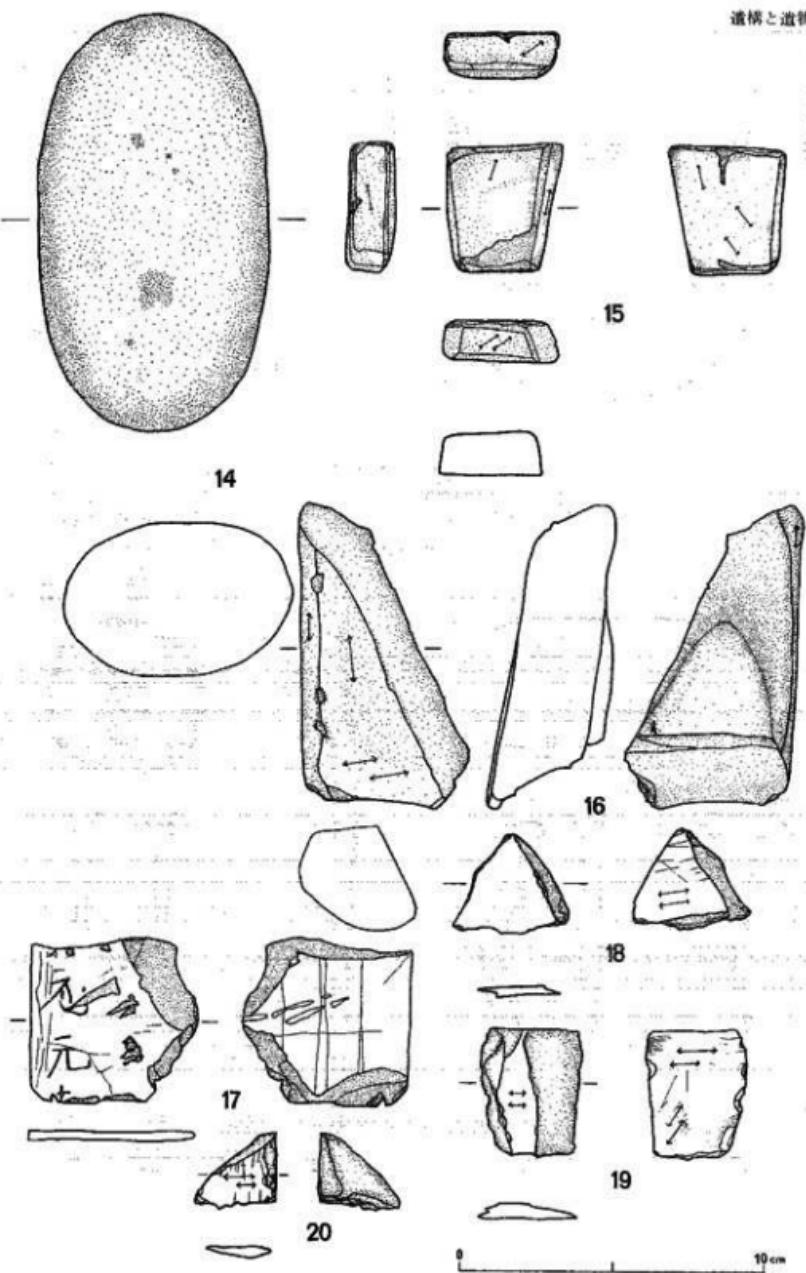


第131図 遺構外出土石器(1)

中の縦道跡

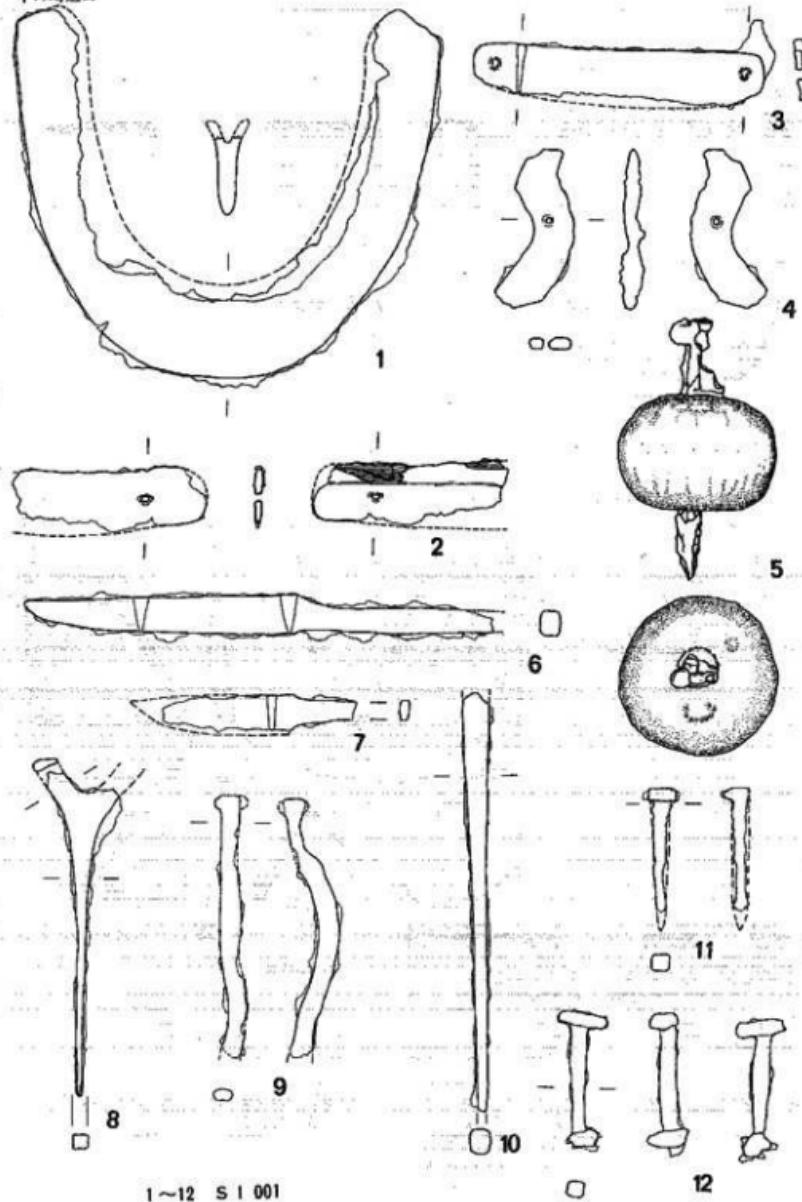


第132図 遺構外出土石器(2)



第133図 遺構外出土石器(3)

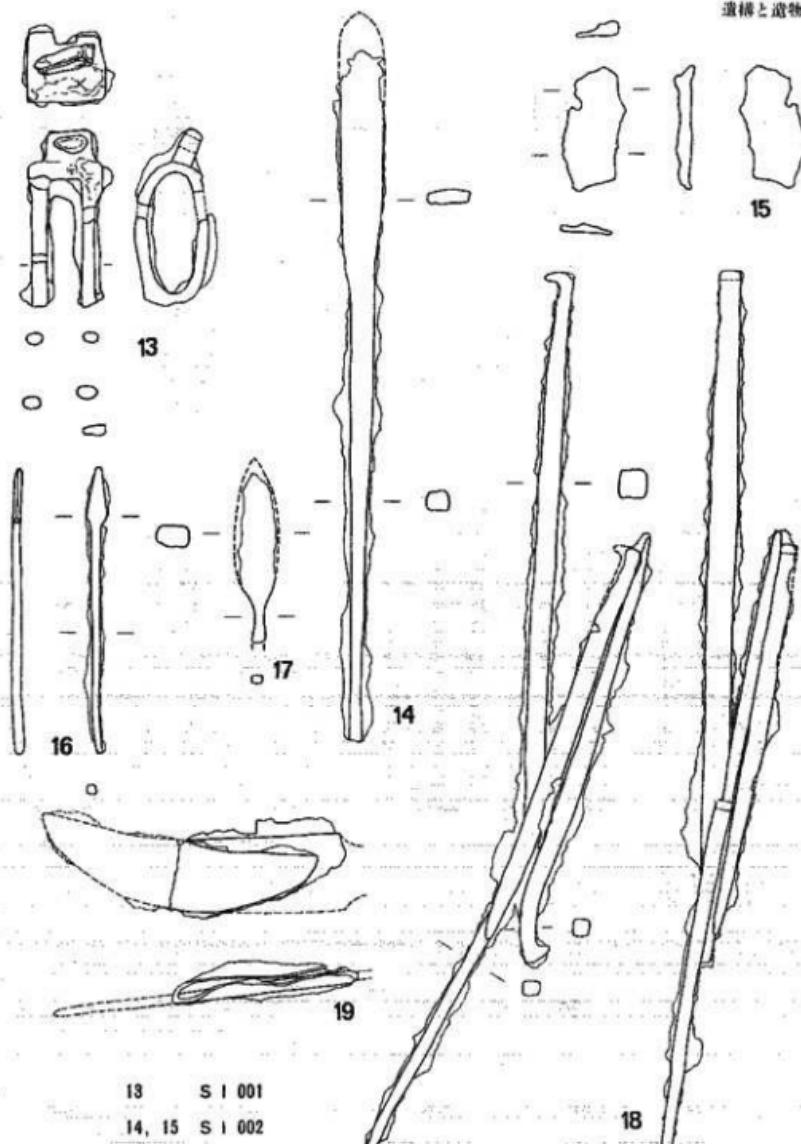
中の崎遺跡



1~12 S I 001

0 1 10cm

第134図 鉄器実測図(1)



13 S I 001

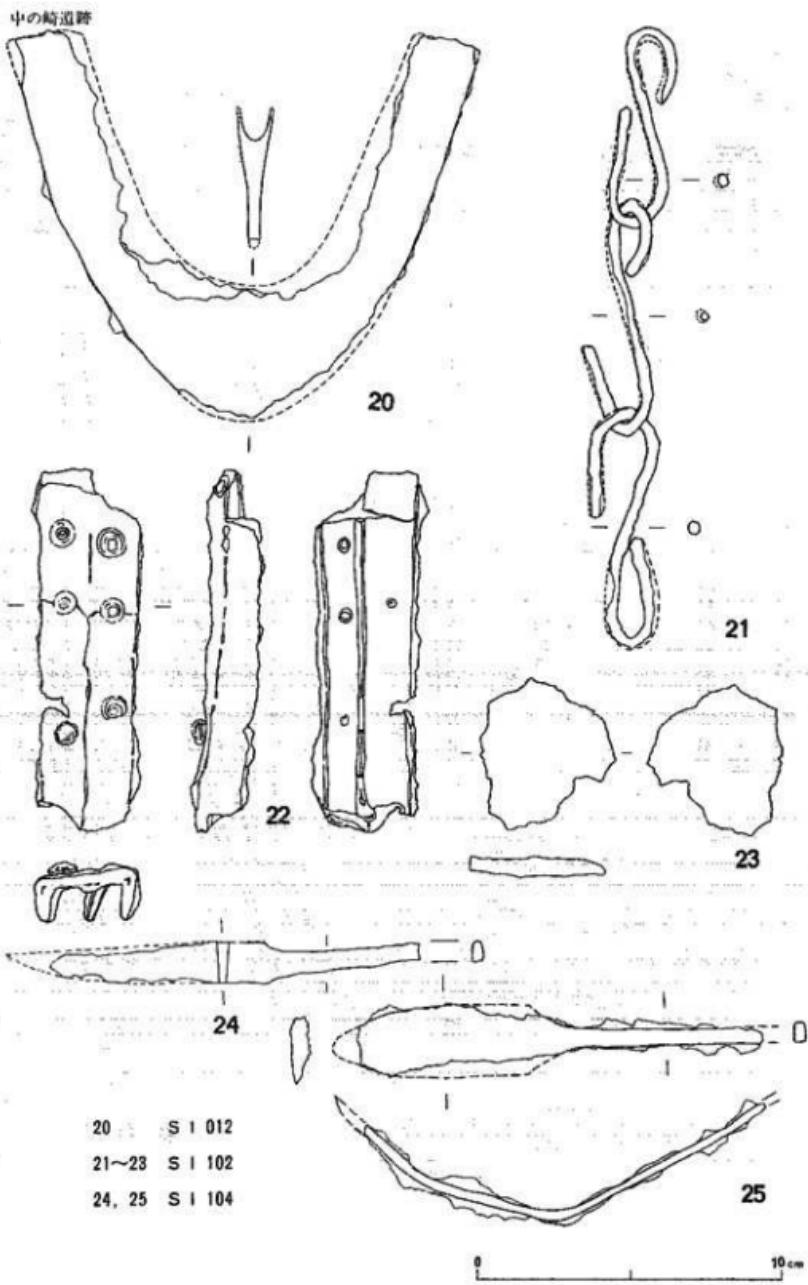
14, 15 S I 002

16~18 S I 003

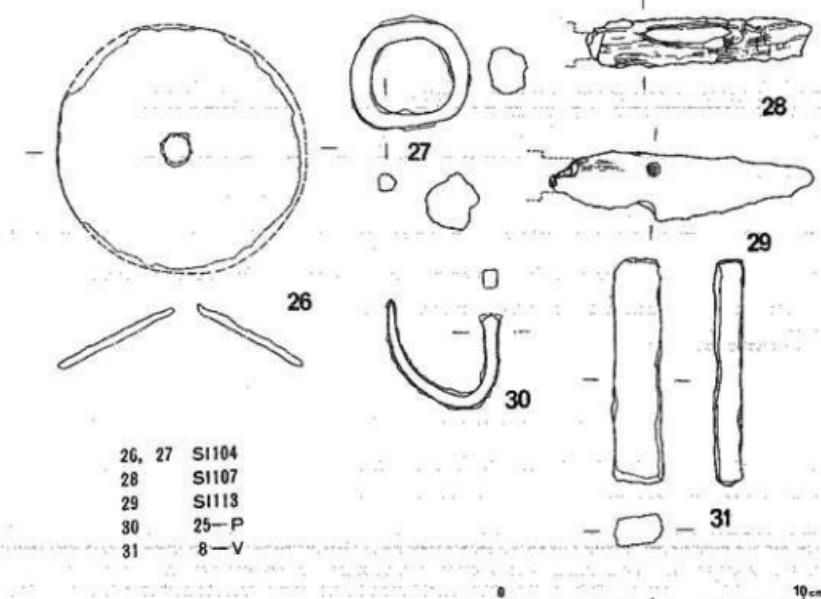
19 S I 009

0 1 10 cm

第135図 鉄器実測図(2)



第136図 鉄器実測図(3)



第137図 鉄器実測図(4)

もある。135～137は土師器裏で外面調整はヘラナデされている。139は須恵器裏の破片。140は輪羽口の破片で上部は強い火熱をうけ、鉄が付着している。

b. 石器 (第131～133図)

石器の出土点数は少なく、20点の出土にとどまった。1、2は石鋤で、1は有茎である。3は石匙。4～6は搔器で、刃部に細かい調整がなされる。1～6の石質は頁岩。7は石鎧で、石質は泥岩。8～9は磨製石斧で、石質は8が凝灰岩、9が緑色凝灰岩。10～14は磨石で、石質は11が花崗閃綠岩、その他は安山岩。15、16は砥石。石質は15が泥岩、16が緑色凝灰岩。18～20は石板で、17には「元」とおぼしき線刻がみられる。石質はいずれも粘板岩。

c. 鉄器 (第134～137図)

30・31を除いて、竪穴住居跡の床面から出土したものである。器種としては鍬(1・20)、手鎌(2・3)、紡錘車(5・26)、刀子(6・7・19・24・28・29)、釘(9・11・12・18・30)、鉄鎌(16・17・25)などが出土している。5ははずみ内盤部に丸い穴を用いる。

6. まとめ

中の崎遺跡で検出された遺構は縄文時代と思われるものは、竪穴住居跡1棟(I区)、プラスコ状ピット1基(II区)、Tピット1基(II区)、土壙1基(II区)、焼土遺構2基(I区)である。平安時代と思われるものは、竪穴住居跡20棟(I区8のうち排水溝もつもの3棟、II区11棟、III区1棟)、土壙5基(I区3、II区2)、合口櫛棺1基(I区)、中世と思われるものは掘立柱建物跡4棟(II区)、時期不明のものは土壙24基(I区11、II区13)、溝1条(II区)が検出された。

以下それぞれの遺構毎に若干の考察を付け加えたい。

竪穴住居跡について

竪穴住居跡は縄文時代のものが1棟、平安時代のものが20棟検出されている。縄文時代のものは石囲炉のみの検出であり、その時代を細かく定義づけることはできなかった。平安時代の竪穴住居跡のいくつかについては、次のような特徴がみられる。I区から検出されたS I 001、003、009竪穴住居跡は壁から低い方へと流れる排水溝らしきものを持っている。この排水溝は竪穴住居跡内のかまどの前まで掘り込まれており、かまど使用時の排水溝のようにもみられる。これに類似した例としては岩手県安代町の上の山^(註1)遺跡があるが、上の山^(註1)検出の竪穴住居跡内には湧水地点があり、この水を排水する用途をもつものと考えられる。これに対し、中の崎遺跡検出のものは湧水箇所がない。しかし、溝は確実に低い方に掘り進められており、排水溝としての役目を十分に持つものである。

S I 104・112竪穴住居跡からは堀とともに坪が多数出土している。S I 104竪穴住居跡出土の堀は調整も荒いのに対し、S I 112竪穴住居跡出土のものは口縁部がはっており、調整もていねいで、伴出遺物としての土師器甕もほとんどのものにロクロ使用が認められることなどから、S I 112竪穴住居跡の方が新しいものと思われる。

土壙について

土壙は32基検出されているが、遺物の出土する土壙は少なく、時代を確定づけられるものは少ない。形態をみても、平面不定形で浅いものが多く、これらの近似性もみられなかった。

プラスコ状ピットについて

プラスコ状ピットは1基のみ検出されており、遺物も出土しなかった。

Tピットについて

Tピットは1基のみの検出である。縱貫道路線上の検出例としては対の状態で検出されているものがあるが、中の崎遺跡のものは方向からみて、対の状態ではないと思われる。

合口櫛棺について

I区から主軸方向をほぼ北に向けて1基検出された。今まで秋田県内で合口櫛棺が検出され

(注3)たのは、秋田城跡に検出された1例のみである。これと比較してみると、中の崎遺跡検出のものは塘底に木炭などはないものの、主軸方位はN19°Wであり、北をある程度意識して構築したものと思われる。土師器裏面内からは炭化物が検出されており、これを¹⁴C分析したところ1150±60B.P.という値が出ている。また土壤の磷分析も行っており、その結果を付1第25表に示した。これをみると北側の壁内(B)と南側の壁内(A)の数値間に5倍以上の差があり、雨による磷分の流出等も考えられるが、南側の窓に埋葬した可能性が高い。

風倒木痕について

II区からは、土壤と近接していくつかの風倒木痕が検出されたが、これについては第3図遺構配置図に位置のみを記した。遺物を出土したものもなかった。

註1. 岩手県埋蔵文化財センター「上の山雅道跡現地説明会資料」1980年。

註2. 秋田県教育委員会「北の林I遺跡」東北縱貫自動車道発掘調査報告書Ⅱ、1981年。

註3. 秋田市教育委員会「秋田城跡第四次調査概報」1962年。

付1 土壤の磷酸分測定について

秋田県農業試験場

先般依頼された土壤の磷酸分の測定結果について別紙のように報告します。なお分析法は次のとおりです。

全リン酸：過塩素酸分解法。比色はモリブデン酸アンモニウム-スコルビン酸法を用い日立製光電光度計による。

Bray No.1 (0.03N-NH₄F可溶性) : 0.03N-NH₄Fと0.025NHClの混液を使用し1分間振盪浸出。比色は全リン酸の場合と同様。

第25表 土壤分析一覧表

単位(mg/100 g)

試料番号	試 料 名	試 料 状 況	全リン酸	0.03N-NH ₄ F可溶性リン酸
N-1	S X011埋土 A	合口壁内底部	54.3	0.18
N-2	S X011埋土 B	合口壁内底部	281.0	0.18
N-3	S X011外(下)	掘形底部	119.0	0.09
N-4	S X011外(側)	掘形側部	29.3	0.09
N-5	表 土	標準層位 I層	132.9	0.27
N-6	地表下 30cm	標準層位 II層	344.1	0.27
N-7	地表下 50cm	標準層位 III層	277.1	0.26
N-8	地表下 80cm	標準層位 V層	291.8	0.26
N-9	地表下 90cm	標準層位 VII層	562.1	0.09

付2 ^{14}C 年代測定結果

日本アイソトープ協会

昭和57年2月5日に受取りましたC-14試料7個の測定結果ができましたのでご報告します。

当方のコード	依頼者のコード	C-14年代
N-4438	TW16 S X011	1150±60y B.P. (1110±55y B.P.)
N-4439	TW16 S I 001床面	1130±75y B.P. (1100±70y B.P.)
N-4440	TW16 S I 107床面	1100±75y B.P. (1070±70y B.P.)
N-4441	TW16 S I 012床面	930±75y B.P. (905±70y B.P.)
N-4442	TW16 S I 301床面	1100±75y B.P. (1060±70y B.P.)
N-4443	TW16 S I 112床面	1130±60y B.P. (1100±60y B.P.)
N-4444	TW16 S I 104床面	1260±60y B.P. (1220±55y B.P.)

年代は ^{14}C の半減期5730年(カッコ内はL(bhy)の値5568年)にもつづいて計算され、西暦1950年よりさかのぼる年数(years B.P.)として示されています。付記された年代誤差は、放射線計数の統計誤差と、計数管のガス封入圧力および温度の読み取の誤差から計算されたもので、 ^{14}C 年代がこの範囲に含まれる確率は約70%です。この範囲を2倍に広げますと確率は約95%となります。なお ^{14}C 年代は必ずしも眞の年代とひとしくない事に御注意下さい。

発掘調査参加者（中の崎遺跡）

浅石清一、浅石林一郎、浅利雄造、阿部金太郎、阿部国松、阿部藤次郎、阿部安五郎、
 阿部理一、岩沢公則、大信田学、小田藤次郎、海沼仁太郎、川又吉弥、川又喜代治、
 木村省三郎、木村留吉、工藤伊代治、齊藤五十二、佐藤浩太郎、佐藤由成、関本芳雄、
 田中敬二、田中勇吉、田村勝弥、津江庄、奈良慶治、奈良正次郎、根元市藏、島山市助、
 山崎清助、山本寛志、吉村朋、秋本ミツ、秋本吉子、浅石イゾ、浅石キガ、浅石サキ、
 浅石サト、浅石シヅ、浅石ヒサ、浅石ミサ、浅石ミヨ、浅石幸枝、阿部キン、阿部恵子、
 阿部サグ、阿部好子、阿部弘子、安保ハルエ、安保ユキ子、安保ヨシ、石井イツ、石川一枝、
 大森栄子、海沼栄子、金沢良子、川又スエ、川又ヨリ、川又千代、川又リサ、神田フジエ、
 木村ソワ、木村ツギ、久慈チヤ、児玉ハツエ、児玉ミツエ、齊藤イエ、齊藤節子、齊藤久子、
 佐藤カン子、佐藤末子、佐藤スミ、佐藤正子、佐藤妙子、佐藤フミエ、佐藤ミツ、高田オホ、
 田中スミ、網木ミヨ、豊田コヨ、豊田スミ、豊田チキ、中野ヨシ子、奈良ミワ、成田ウメ、
 成田笑理子、成田ヒサ、根本キヌ、根本キワ、根本シエ、根本スエ、橋場トシ、島山サカエ、
 古家一子、古家カツ子、米田ノリ、前田エミ、松岡ヒサ、間藤美代、三ヶ田ツヨノ、
 宮沢イサエ、宮沢カヨ、柳沢照子、柳沢光子、山口チヨ子、山本エツヨ（50音順、敬称略）



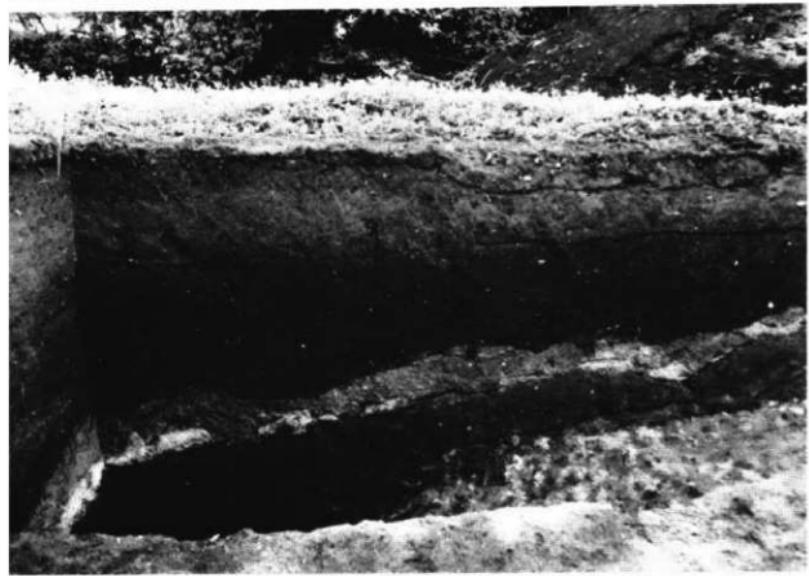
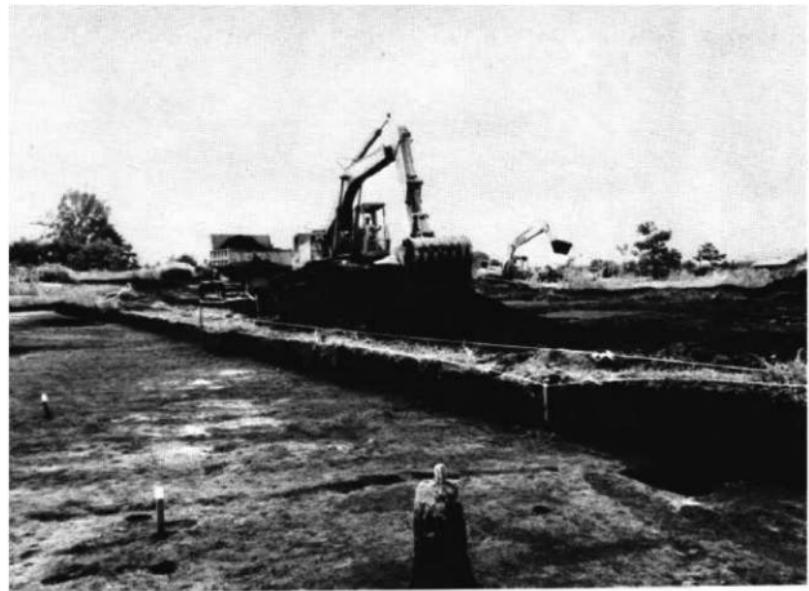
図版1 中の崎遭跡航空写真 (上が北)



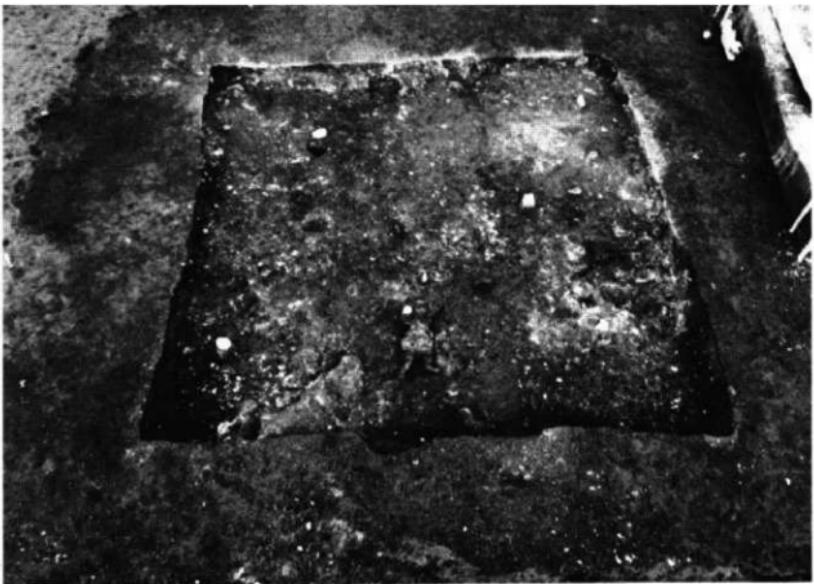
図版2 造跡遠景 (上) 発掘前 (西→東)
(下) 発掘後 (東→西)



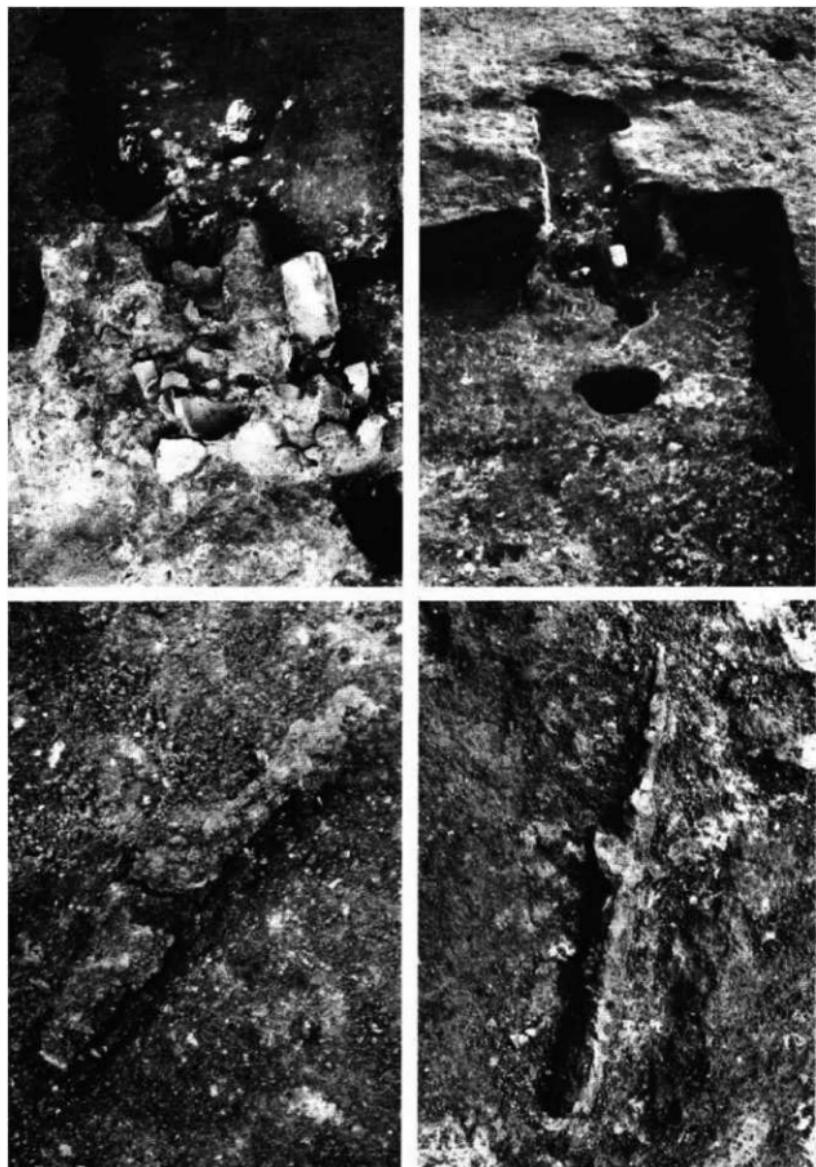
図版 3 (上) I区近景 (西▶東)
(下) II区近景 (東▶西)



図版4 {上} I区機械排土状況 (北東▶南西)
{下} I区土層状態 (西▶東)



図版 5 S I 001 穴住居跡 (上) 完整状態 (南▶北)
(下) SD 006付属溝 (西▶東)



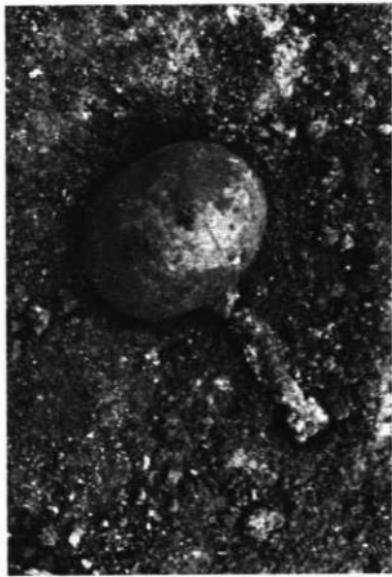
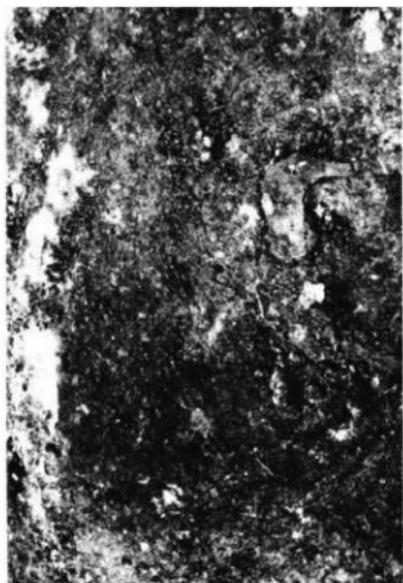
図版 6 S I 001 積穴住居跡

(左上)
 (右上)
 (左下)
 (右下)

カマド内土器出土状態
 カマド充填状態 (北▶南)

RM1

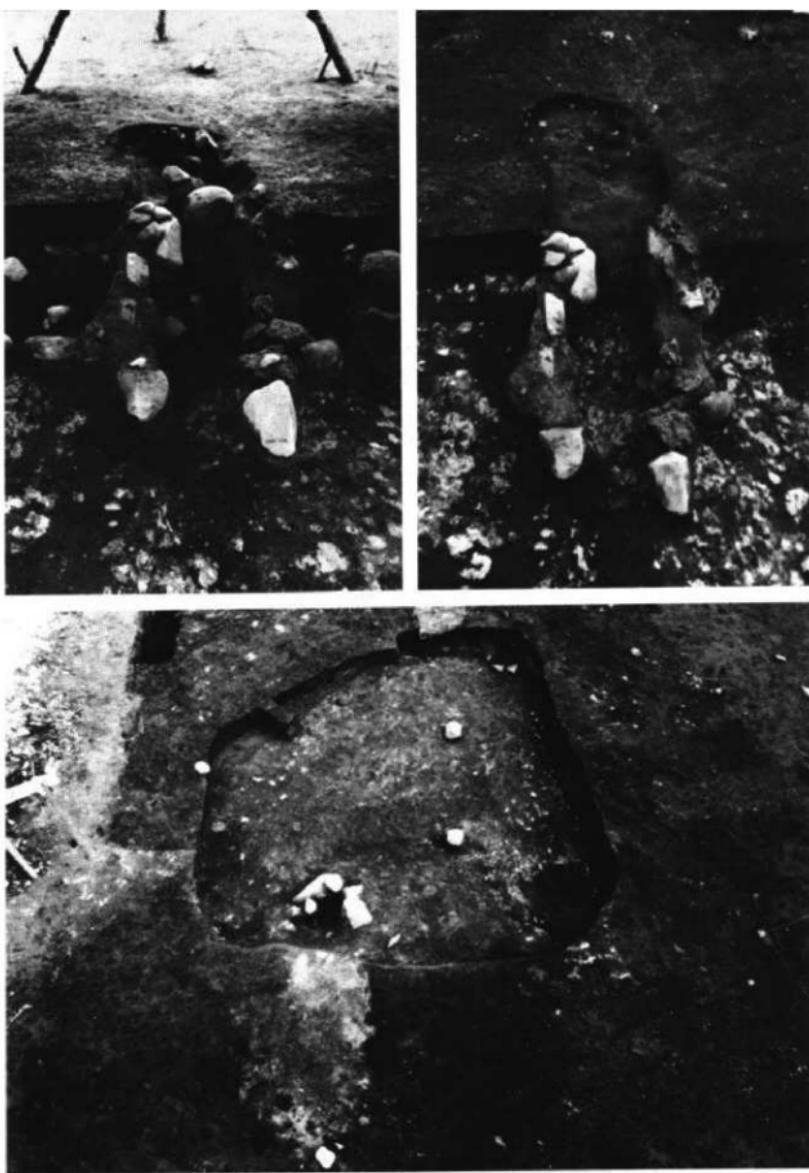
RM2



图版7 S I 001竖穴住居跡
(左上) RM2
(右上) RW2
(左下) RW1
(右下) RX1



図版8 S 1002竪穴住居跡 (上) 発掘中 (南北)
(下) 発掘状態 (北→南)



図版 9 (上) S-1 002 穹穴住居跡カマド (北▶南)
(下) S-1 003 穹穴住居跡 (南▶北)



圖版10
S I 003 竪穴住居跡
(上) 完整狀態 (南▶北)
(下) S D 004 竪穴
(西▶東)

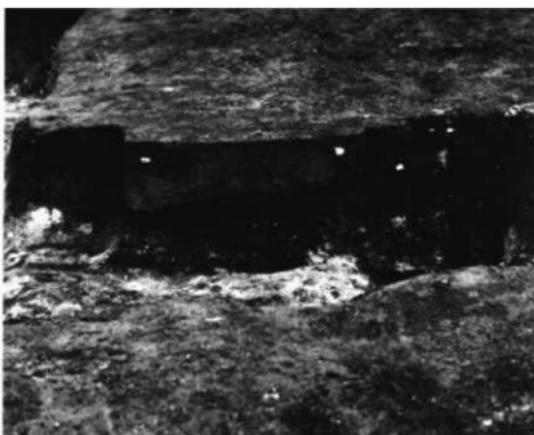


図版11 S I 003竪穴住居跡カマド

(左上) 発掘中 (北▶南)
(右上) 完成状態 (南▶北)
(左下) 土器出土出発
(右下) 土器出土状態



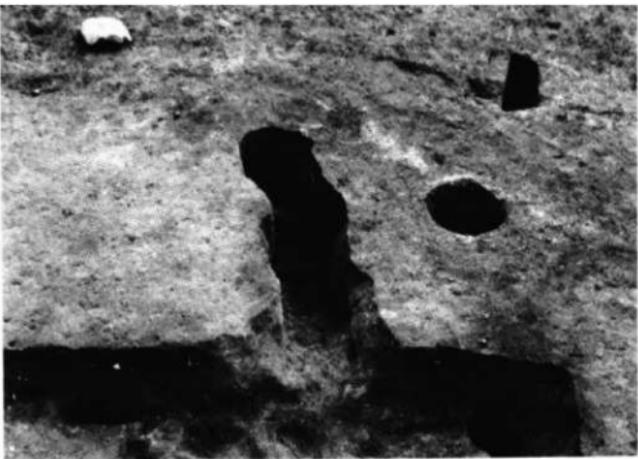
图版12 S I 008竖穴住居跡 (上) 挖掘中 (東▶西)
(下) 完整狀態 (西▶東)



図版13 (上) S I 008竪穴住居跡カマド 左右 (西▶東)
(南▶北)
(下) S I 009竪穴住居跡 (南▶北)

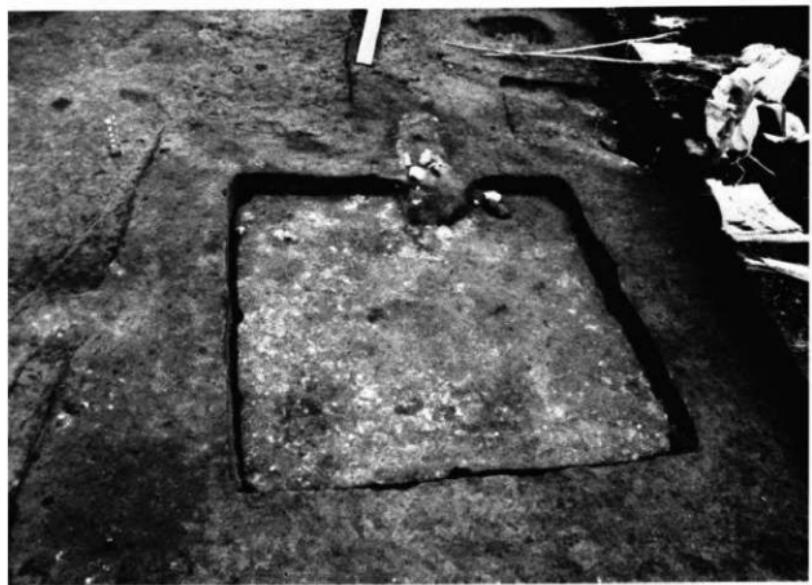


图版14
SI 009竖穴住居跡
SD 005付属溝
(上) 完掘狀態
(南▶北)
(下) 溝内遺物出土狀態



図版15

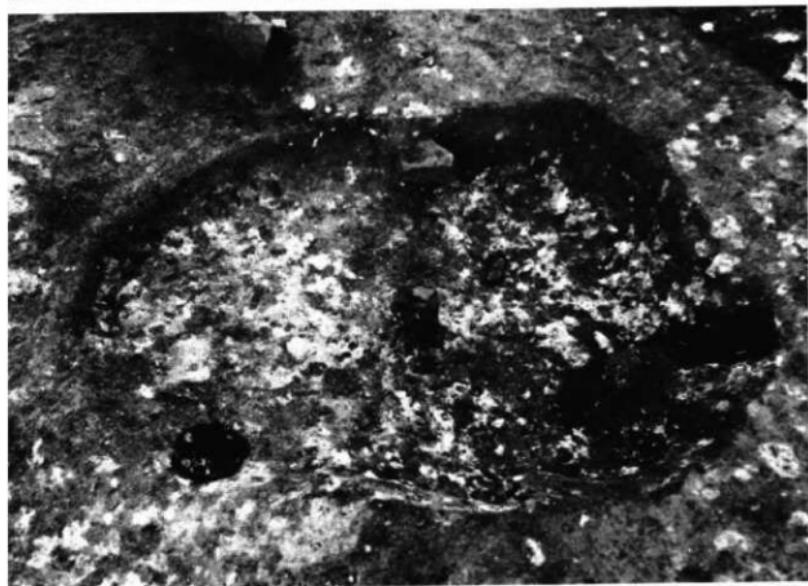
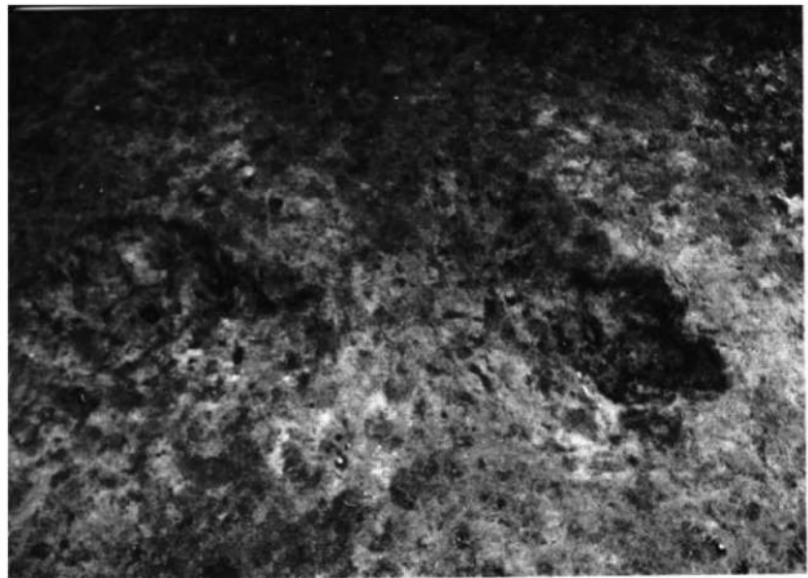
- (上) S I 009堅穴住居跡
カマド (北▶南)
- (中) S D 005付属溝断面
(北▶南)
- (下) S D 005, 006付属窓
断面 (南▶北)



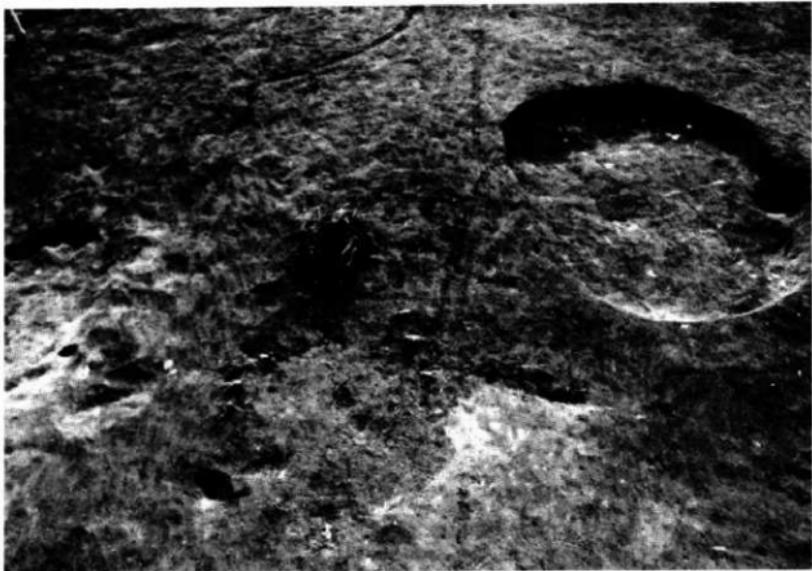
圖版16 S I 012 穹穴住居跡
（上）炭化材出土狀態（北▶南）
（下）床面積出狀態（北▶南）



図版17 S I 012竪穴住居跡
(上) 史跡状態 (北▶南)
(左下) カマド発掘中 (北▶南)
(右下) カマド発掘後 (北▶南)

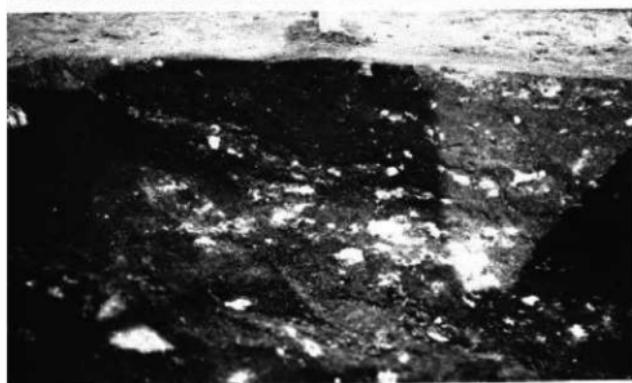
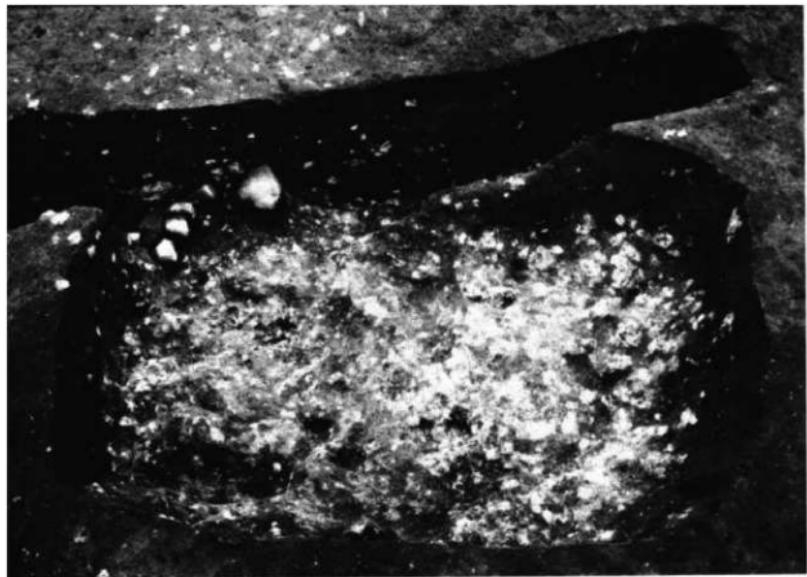


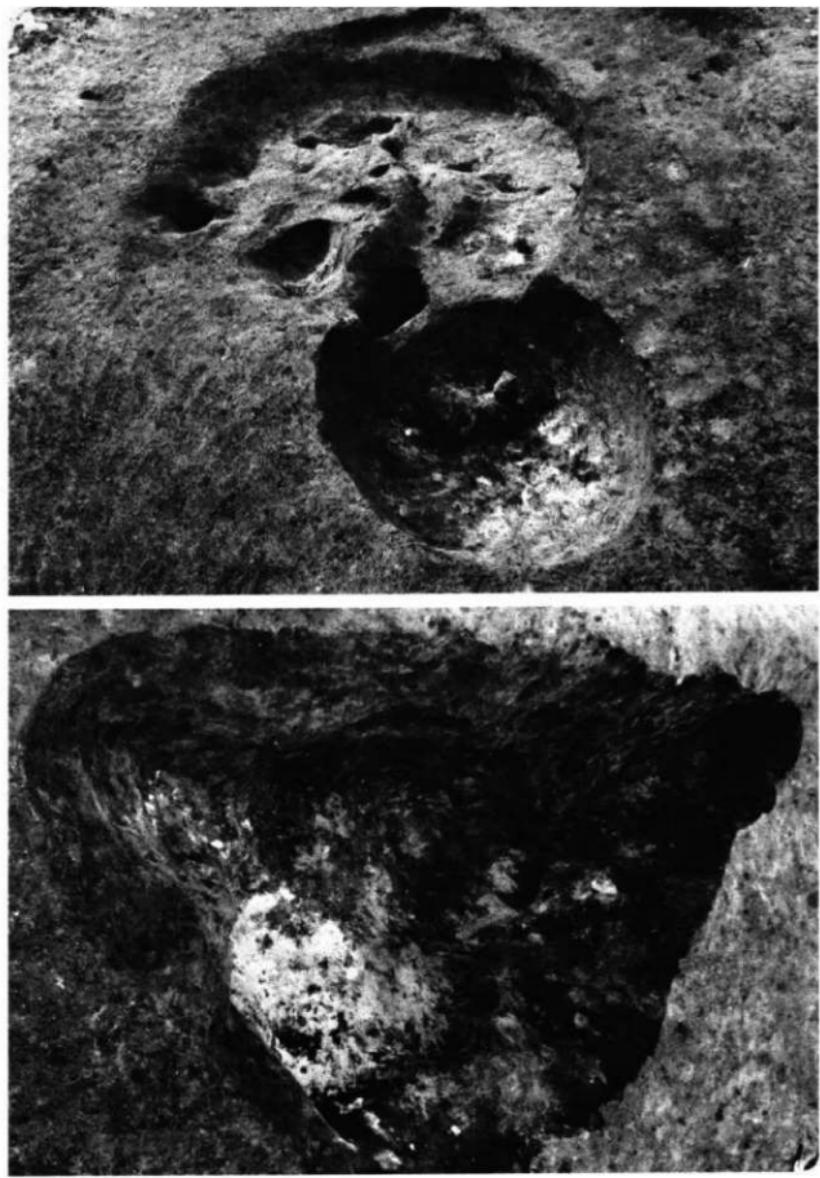
圖版18 (上) SK 016, 017土壤 (北►南)
(下) SK 021土壤 (北西►南東)



図版19 (上) SK 024土壤 (北▶南)
(下) SK 025、026土壤 (北▶南)

圖版20
SK 027土壤
(上) 完整狀態
(北▶南)
(中) 斷面
(南▶北)
(下) 斷面
(西▶東)

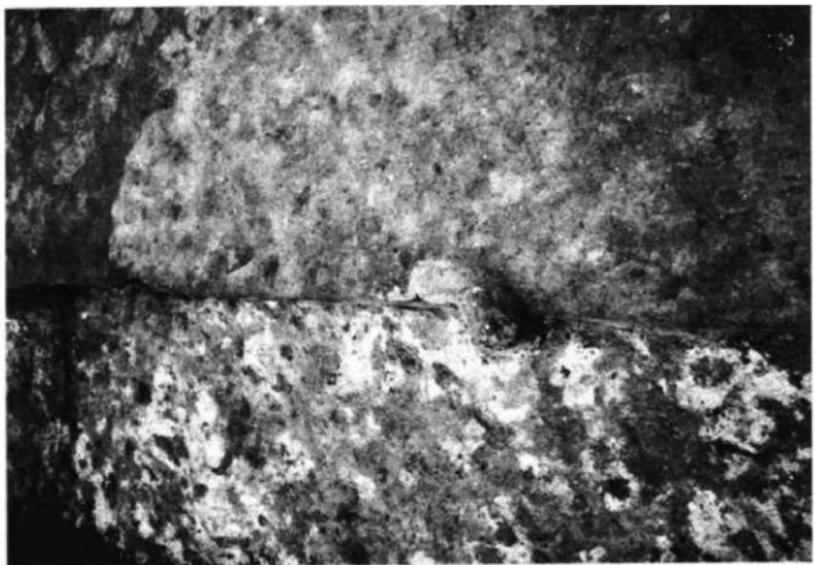




圖版21 (上) SK 029、030土壤 (北►南)
(下) SK 032土壤 (北►南)



图版22 S X 011合口壳馆
(上) 横断面
(下) 半敲状态



図版23

(上) S X F 035焼土造構
(南▶北)

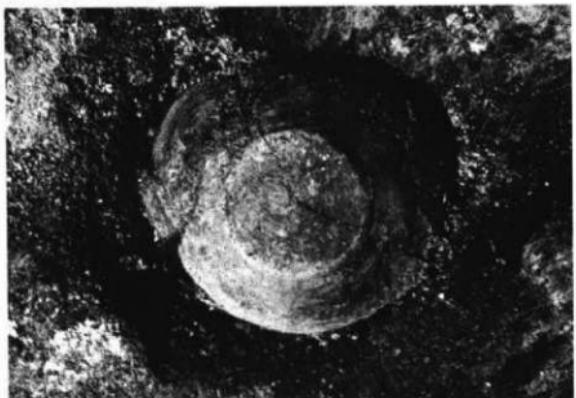
(下) SD 015溝跡
(北▶南)



図版24 I区遺構外遺物出土状態

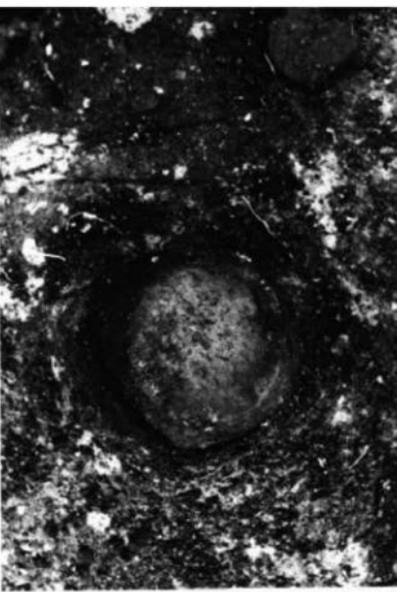
(左上) 6—S
(右上) 13—Y
(左下) 14—W
(右下) 15—W

图版25 S-101竖穴住居 (上) 完整状
RP1 (左下)
RP2 (右下)





図版26 S I 102竪穴住居跡 (上) 完整状態 (東→西)
(左下) RP 1
(右下) RP 2

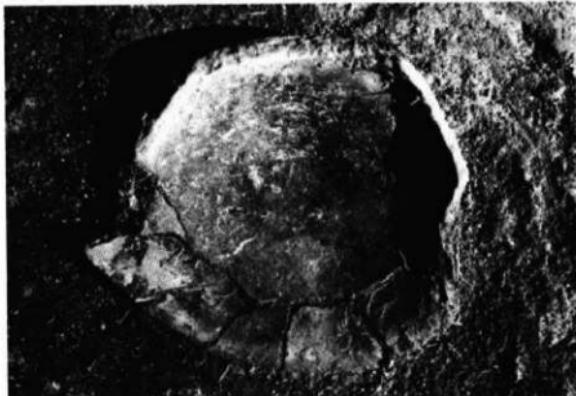
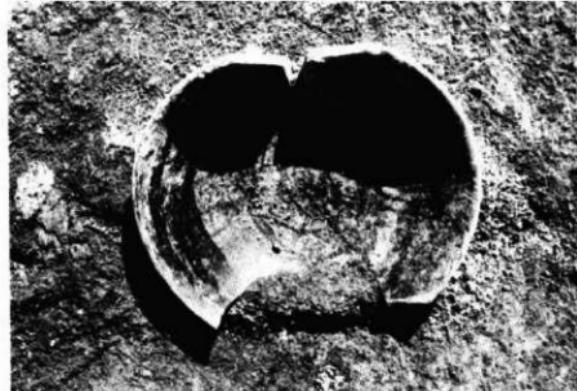


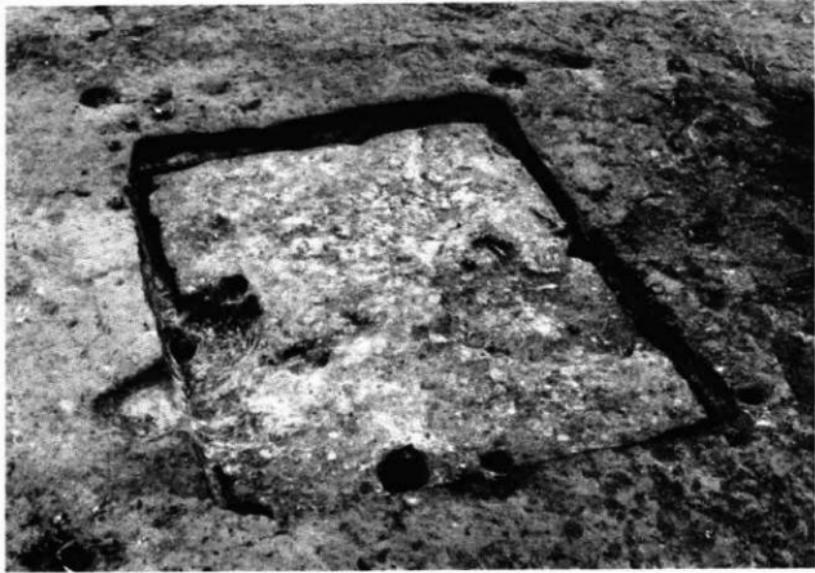
図版27 S I 102号穴住居跡

(左上) RP 3
(右上) RP 4
(左下) RM 1, 2, 3
(右下) 土器出土状態

圖版28 S I 103號穴住居跡

{上
名下
右下}

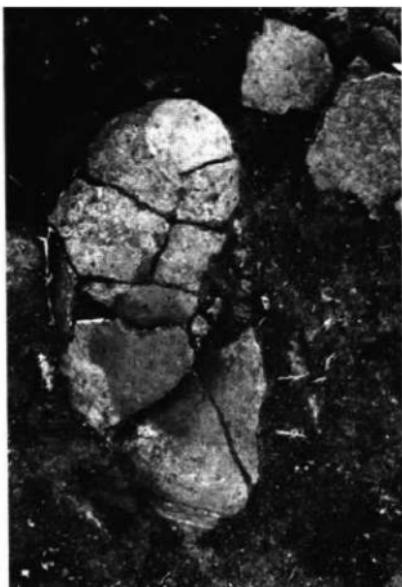




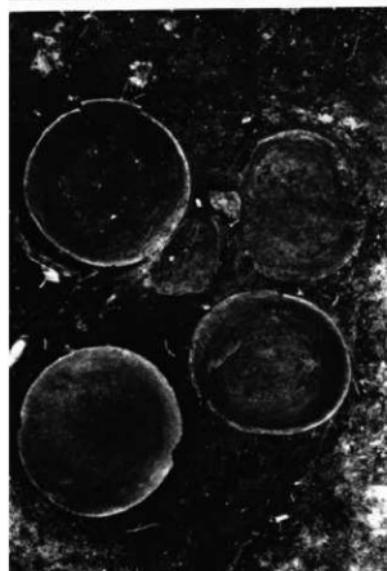
圖版29 (上) S I 103堅穴住居跡 (左) R P 3
(右) R P 5
(下) S I 104堅穴住居跡 (東>西)



図版30 S I 104 竪穴住居跡 (上) 遺物出土状態 数字は RP番号
(左下) RP 1
(右下) RP 2

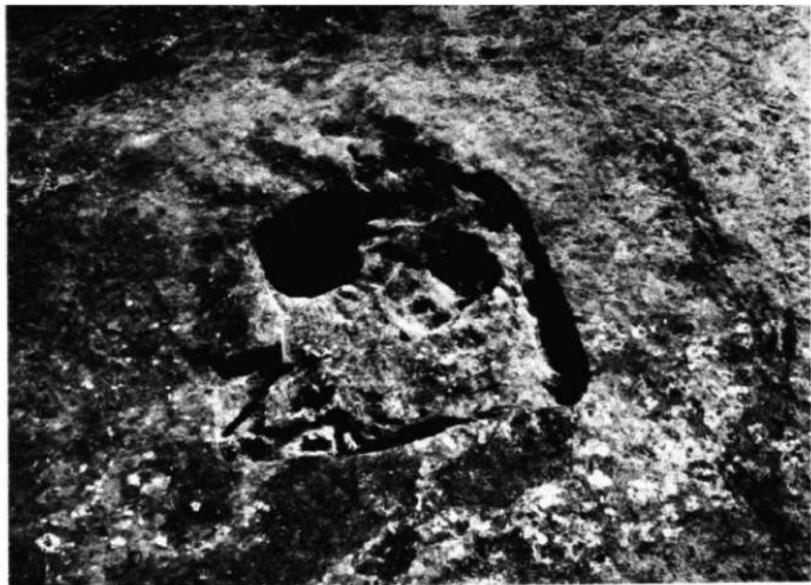


図版31 S I 104堅穴住居跡 (左上) RP 4
(右上) RP 5
(左下) RP 6
(右下) RP 7



図版32 S I 104堅穴住居跡

(左上) RP 8
(右上) RP 15
(左下) RP 16, 17, 18, 19
(右下) RP 20



図版33 S I 106堅穴住居跡 (上) 完掘後 (北→南)
(左下) RP 1
(右下) RP 2

圖版34 S-107 穹穴住居跡

{上}

炭化物出土狀態 (東→西)

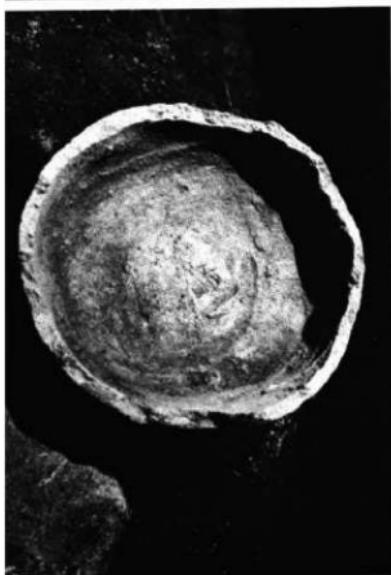




圖版35

S I 107 穹穴住居跡

(上) RP 1
(中) RP 2
(下) RW 1



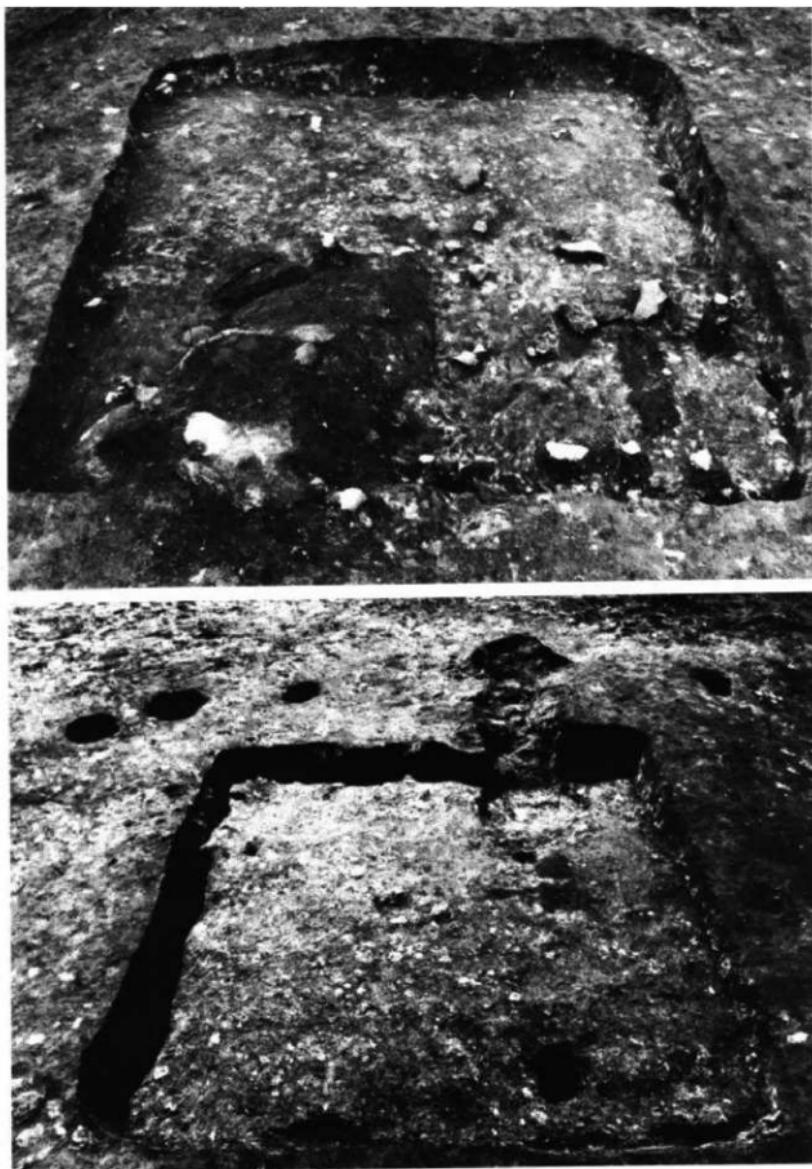
图版36 S I 108竖穴住居跡
(上) 先掘後 (西→東)
(左下) R P 1
(右下) R P 2



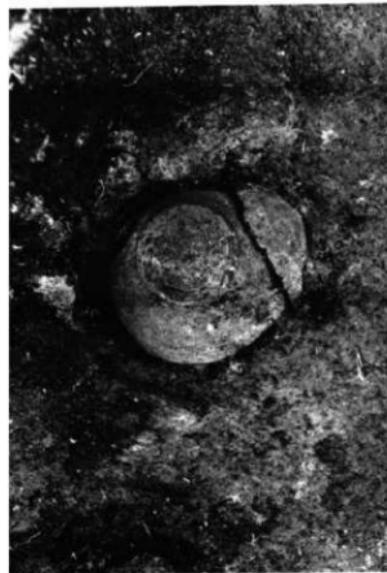
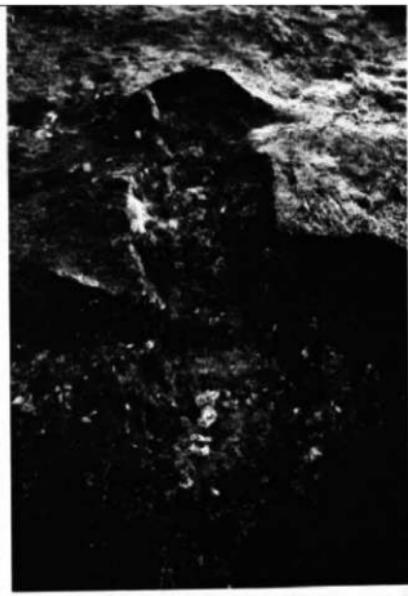
図版37 S I 112 竖穴住居跡 (上) 原始物出土状態 (西→東)
(下) 完備状態 (西→東)



図版38 S I 112 穫穴住跡
（左上） 第1カマド
（右上） 第2カマド
（下） RP 3

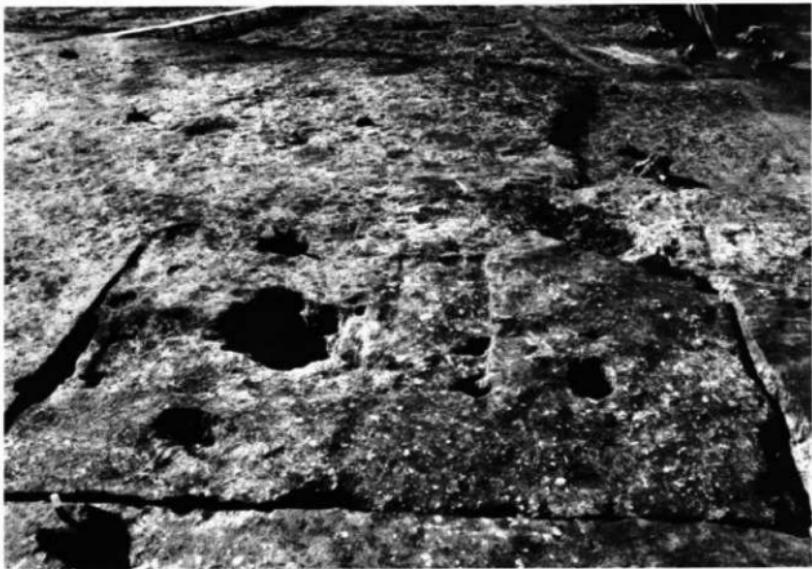
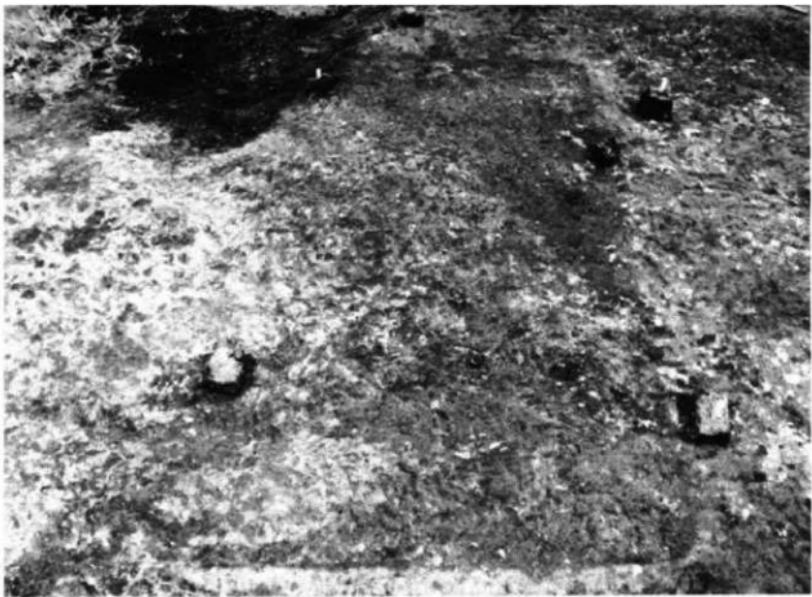


図版39 S I 113堅穴住居跡
(上) 墓化物出土状態 (南>北)
(下) 完整状態 (北>南)

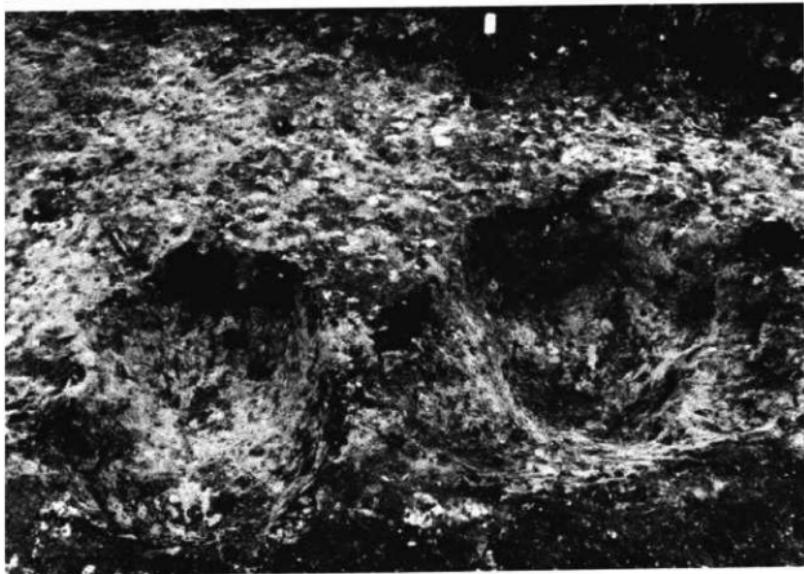
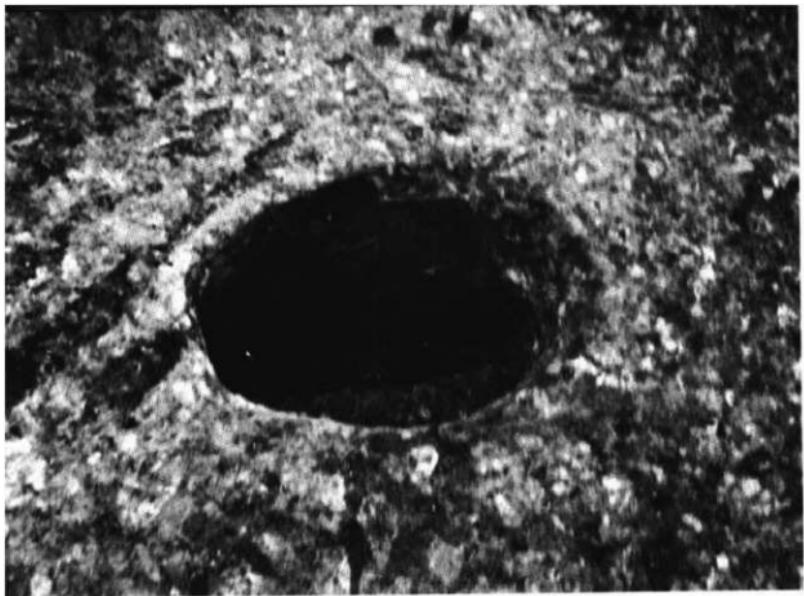


図版40 S-1-113 竪穴住居跡

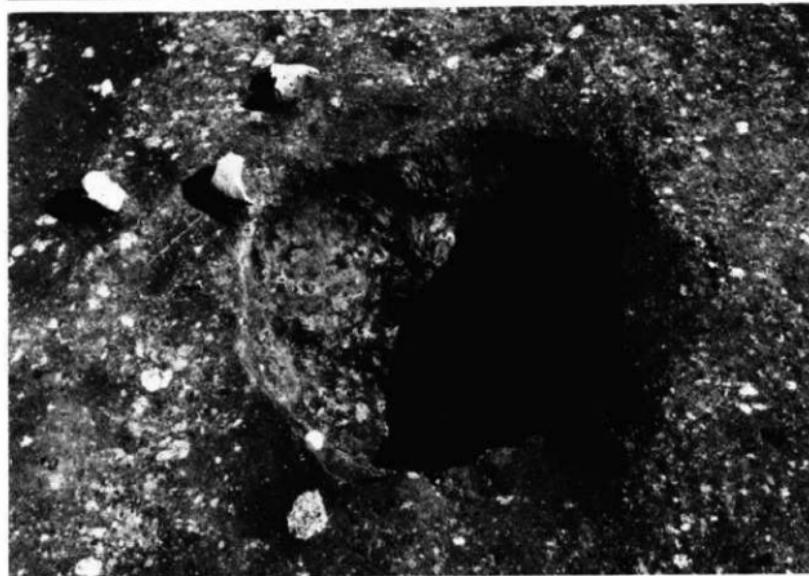
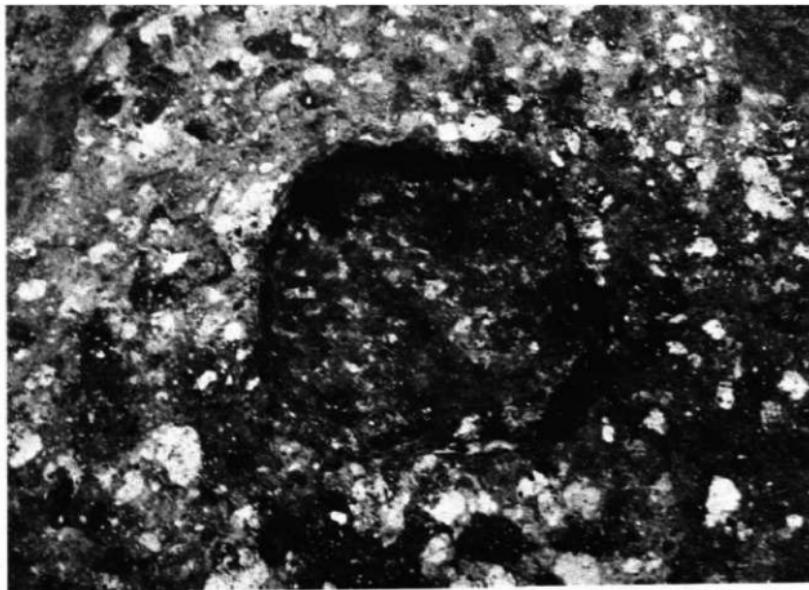
(左上) カマド (北▶南)
(右上) カマド完振状態 (北▶南)
(左下) R P I
(右下) R P 62. 63



図版41 S I 117, 117 穴住居跡 (上) 噴霧状態 (下) 実地状態 (東▶北)



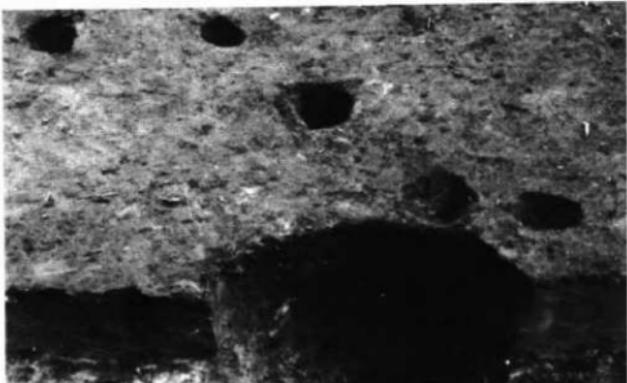
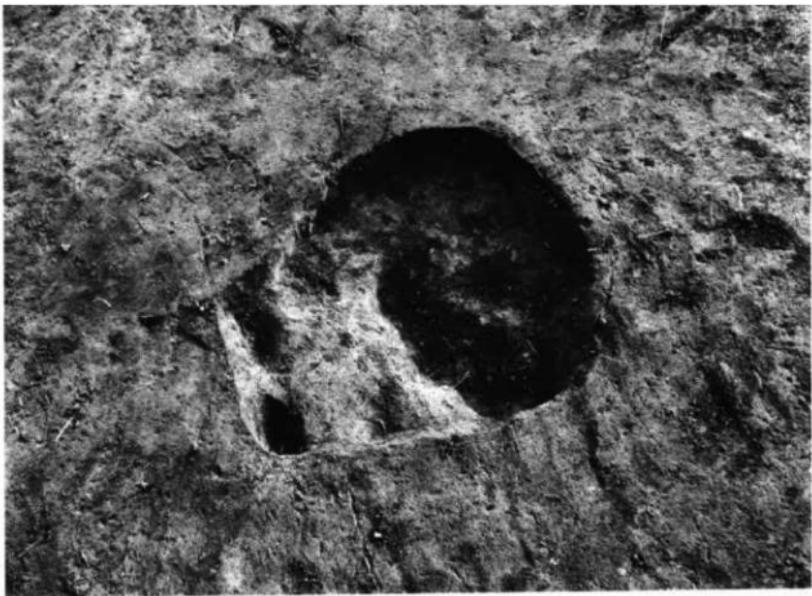
図版42 (上) SK 110土壤 (北京▶南西)
(下) SK 114, 115土壤 (西▶東)



図版43 (上) SK 116土壤 (東▶西)
(下) SK 119土壤 (西▶東)



図版44 (上) SK 131土壤 (西▶東)
(下) SK 132土壤 (西▶東)



図版45

(上) SK 133土壤

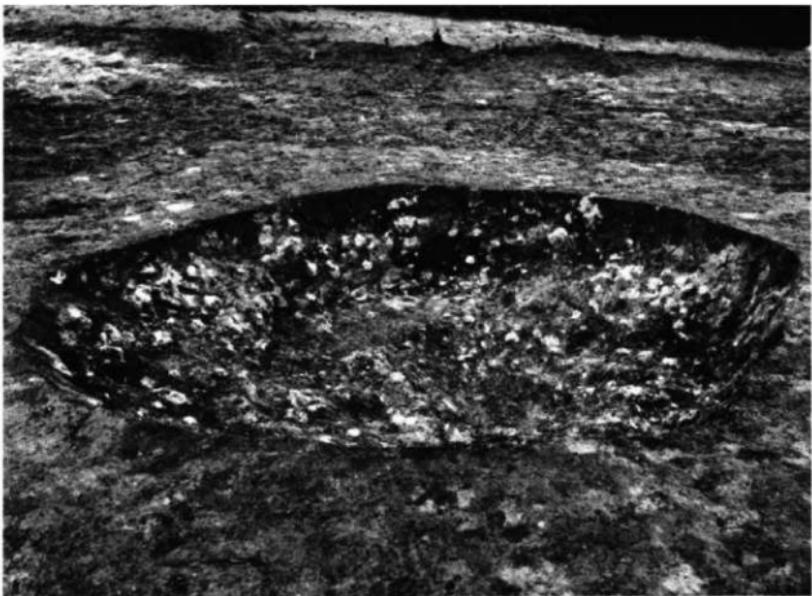
(北▶南)

(下) SK 134土壤

(北▶南)



圖版四
SK 10 (上層)
SK 11 (下層)
(T)
(F)



図版47

(上) SK 147土壤

(南▶北)

(下) II区ビット群

(北▶南)

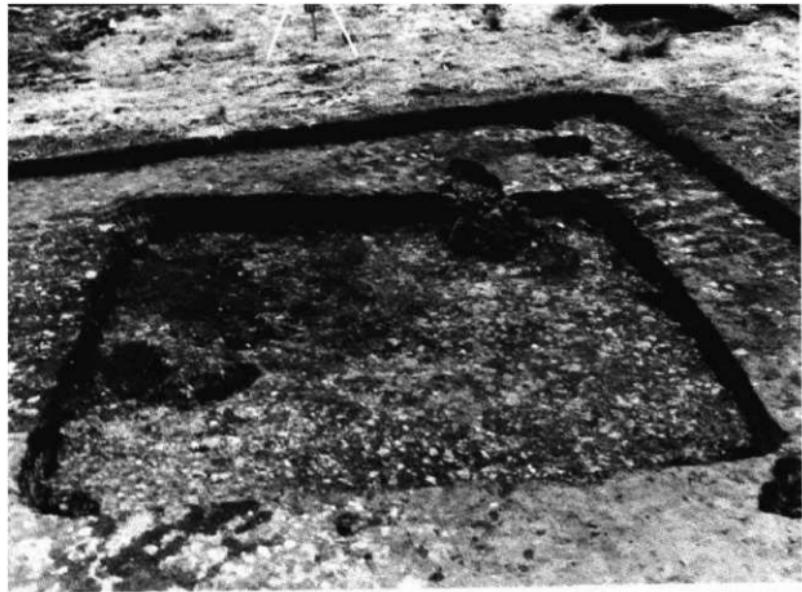


図版48 (上) SB 111 振立柱建物跡 (南▶北)
(下) SB 136 振立柱建物跡 (北▶南)

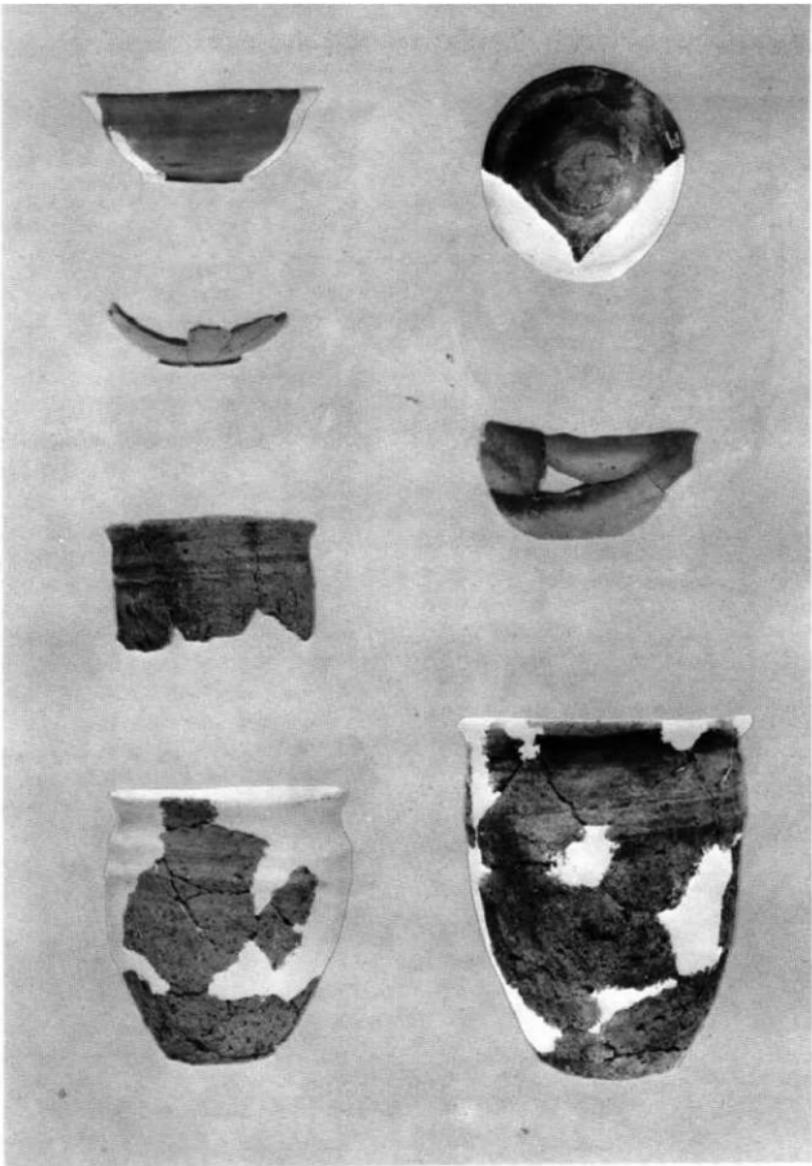


図版49 II区遺構外遺物出土状態

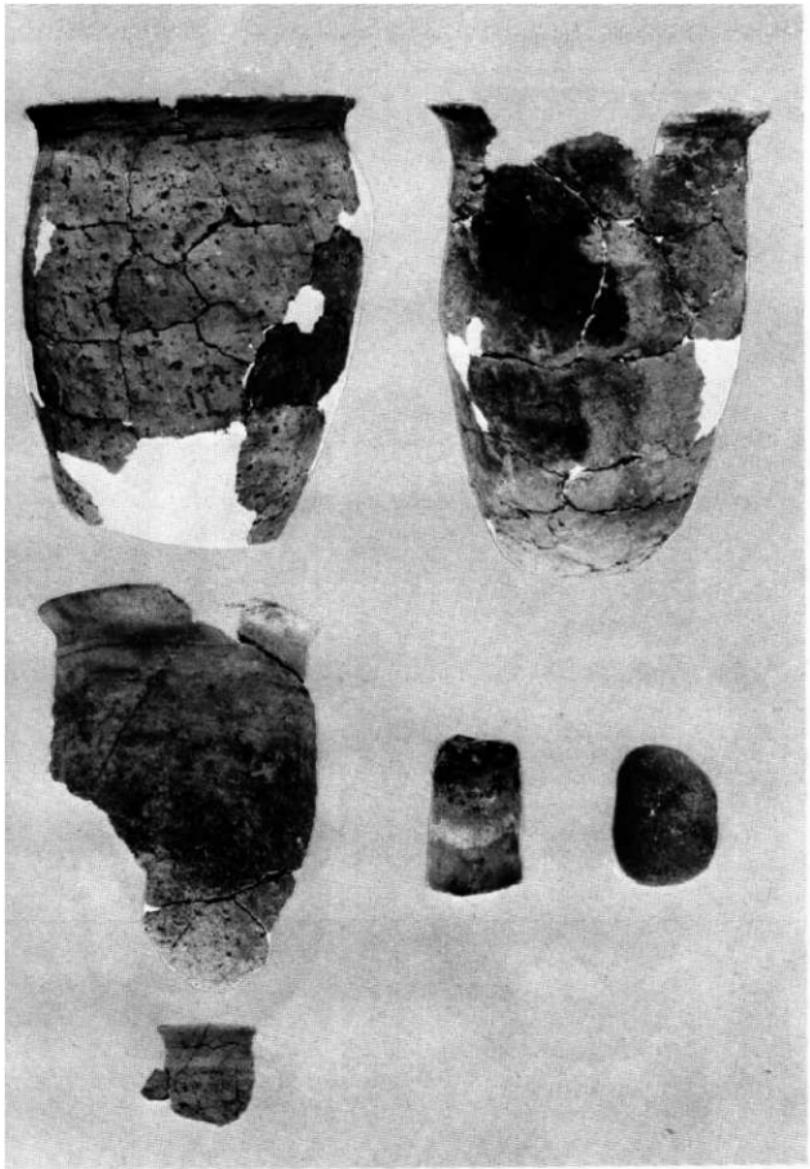
(左上) 25—F
(右上) 27—F
(左下) 33—F
(右下) 石矛



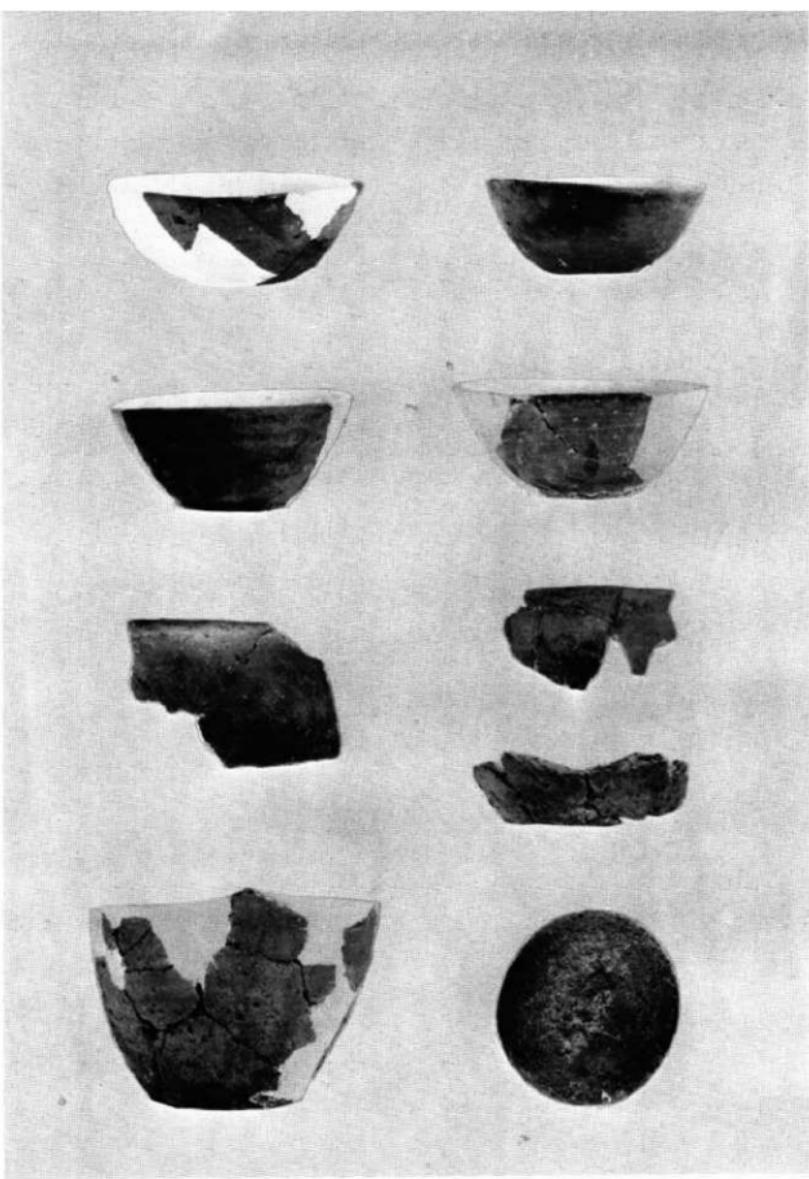
図版50 S 1 301竪穴住居跡 (上) 完掘状態 (北→南)
(左下) カマド (北→南)
(右下) カマド内土器出土状態



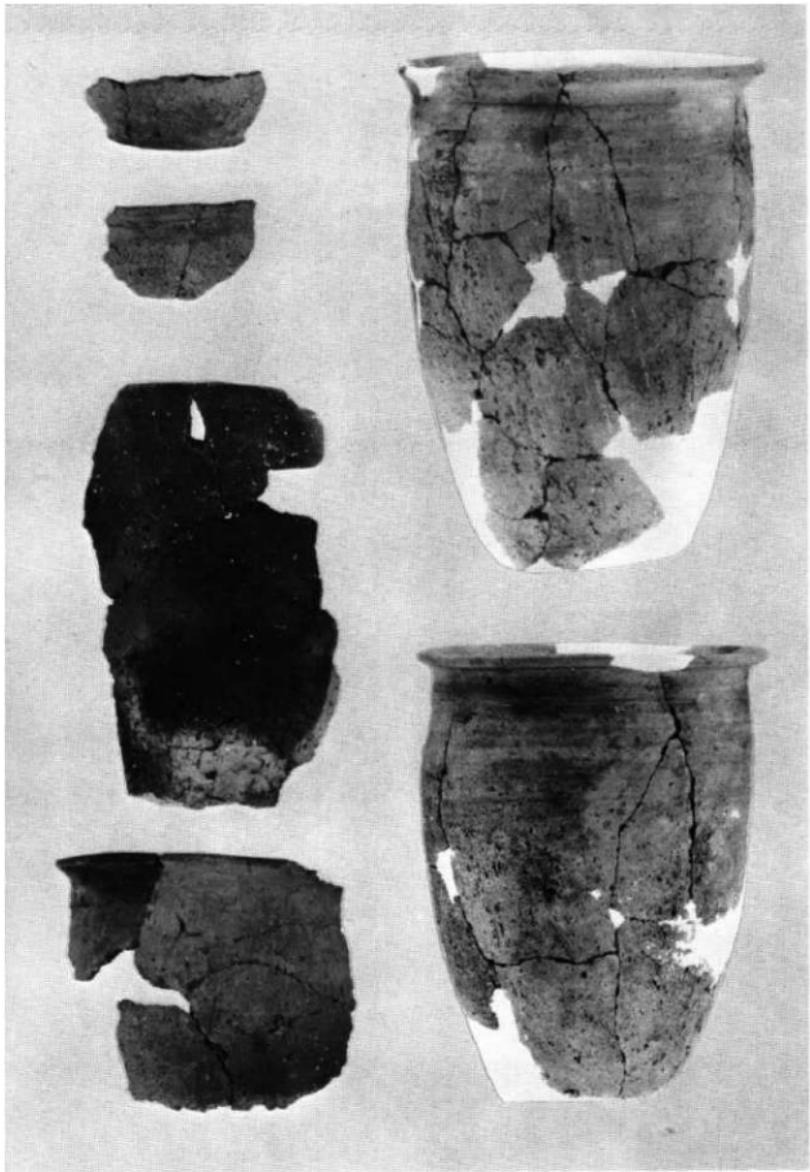
圖版51 S I 001 穹穴住居跡出土遺物(1)



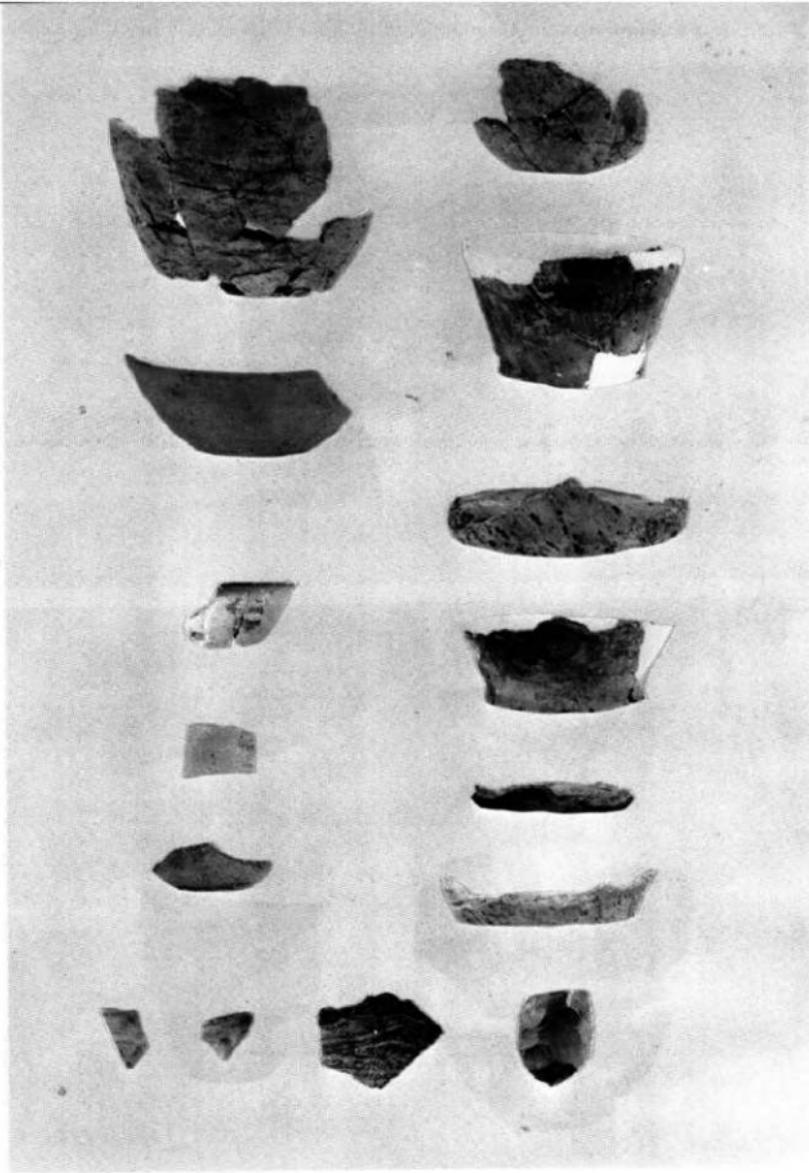
图版52 S 1 001竖穴住居跡出土遺物(2)



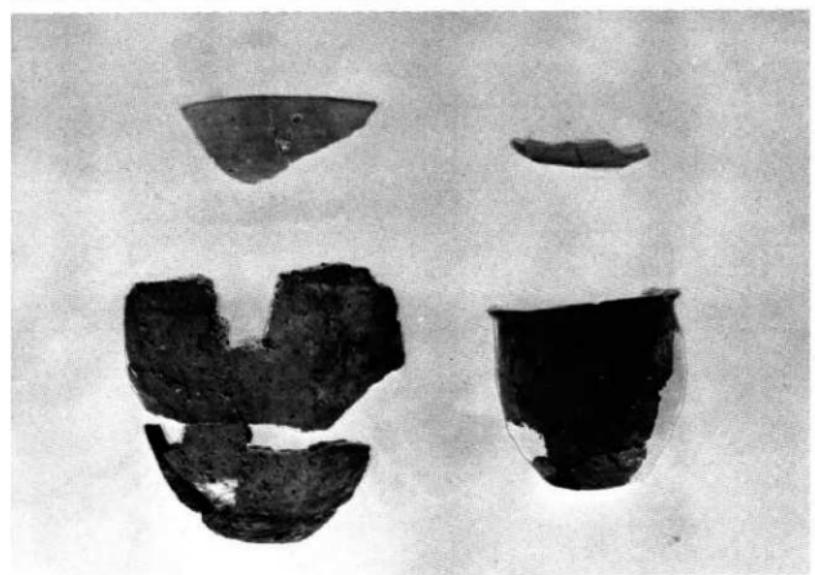
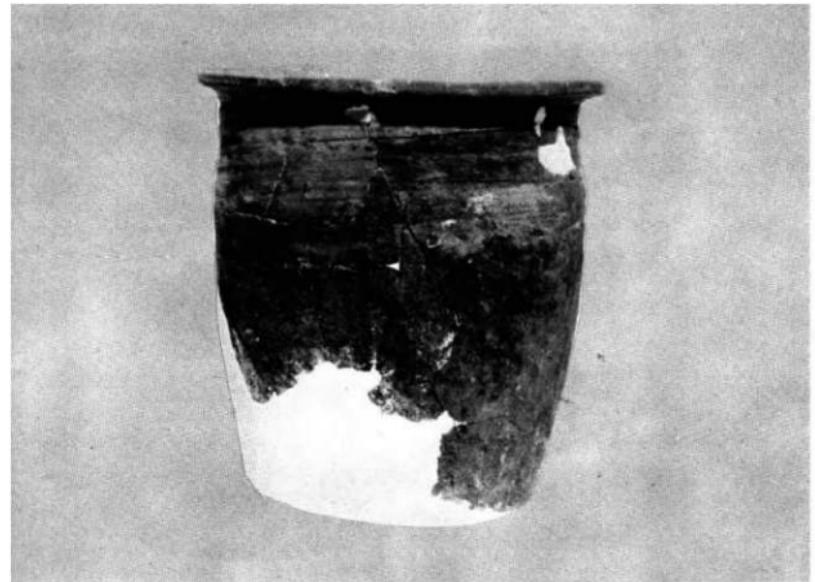
圖版53 S I 002 積穴住居跡出土遺物



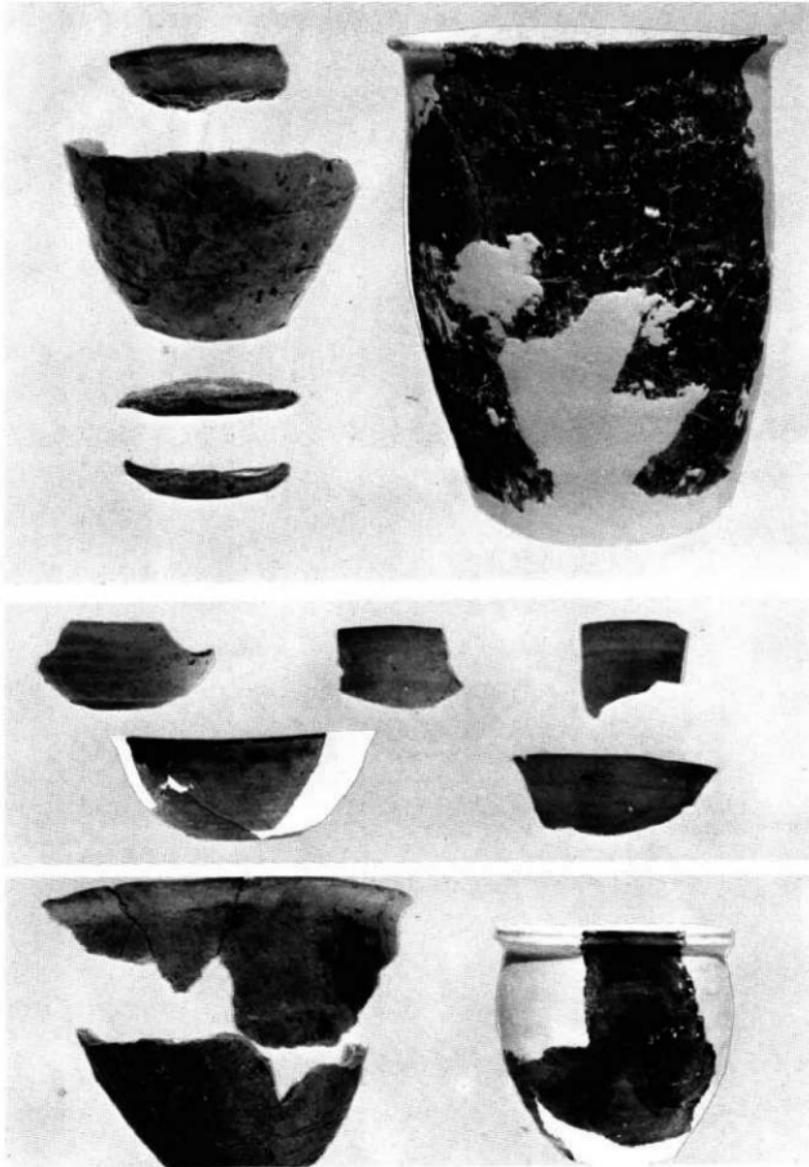
图版54 S I 003竖穴住居跡出土遺物(1)



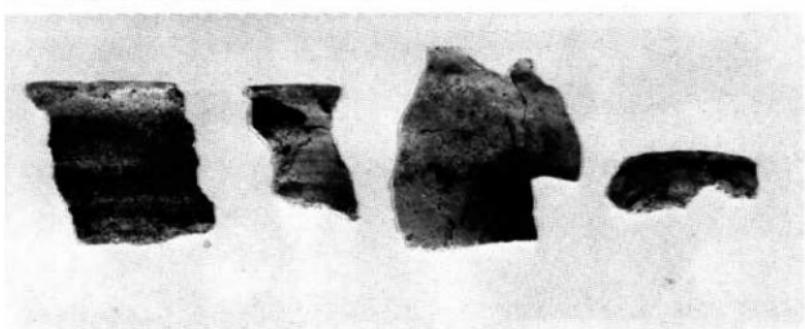
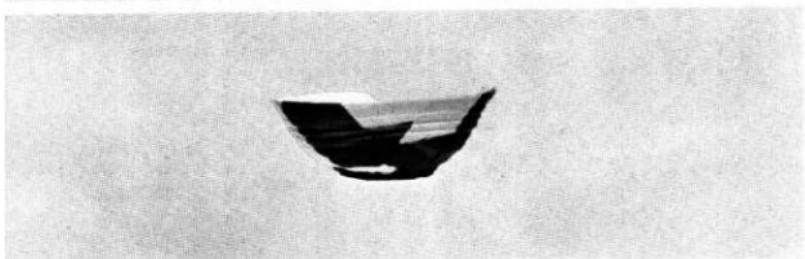
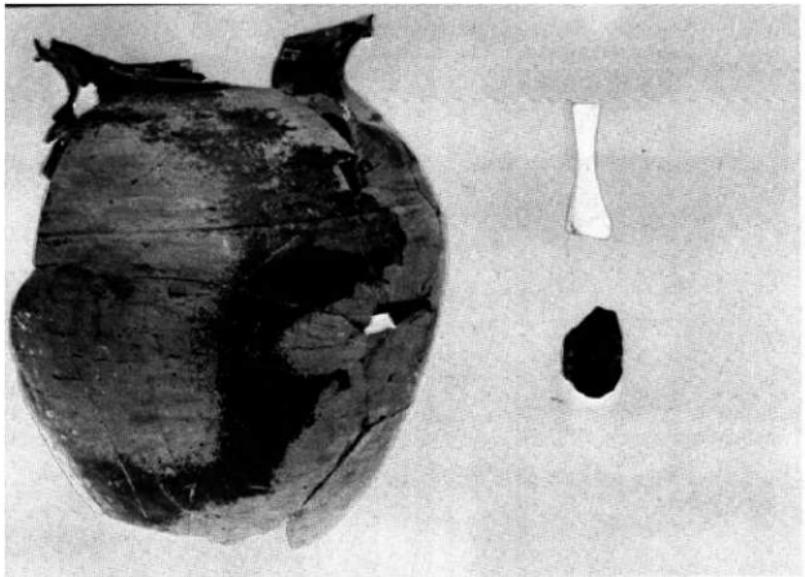
圖版55 S I 003堅穴住居跡出土遺物(2)



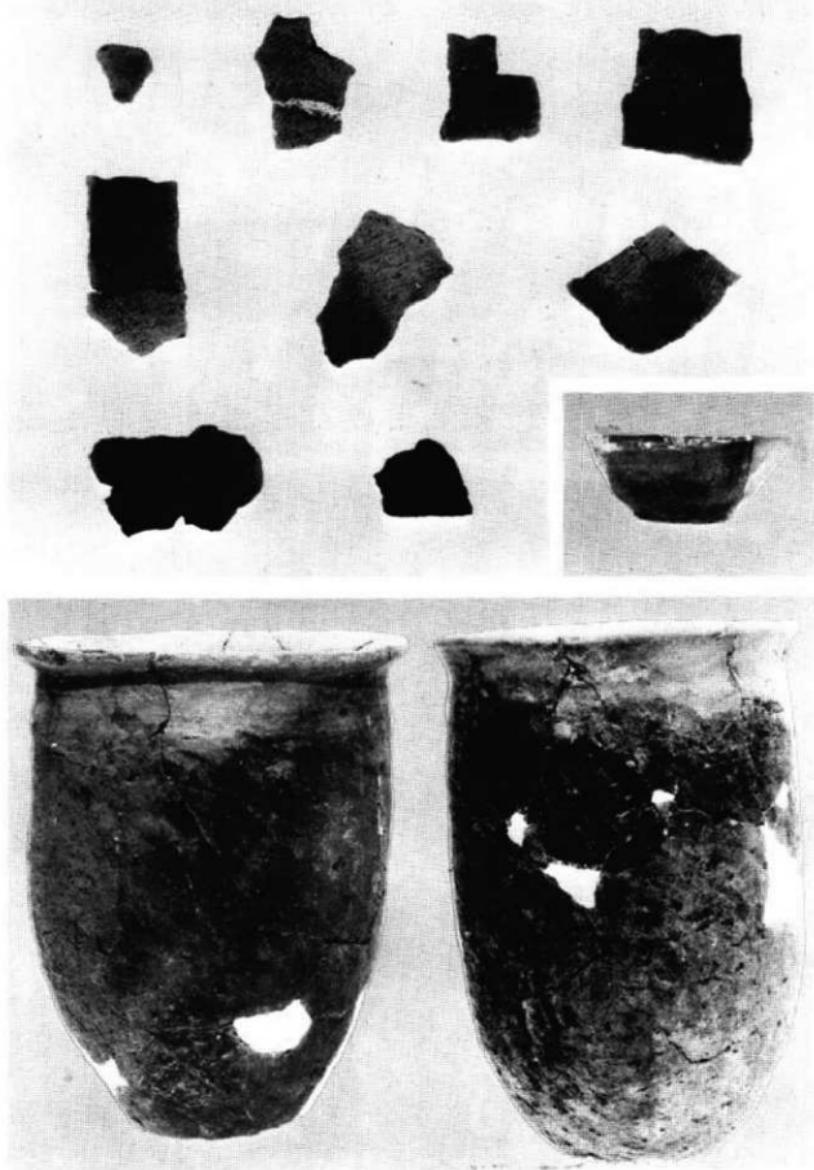
图版56 (上) S I 008 竖穴住居跡出土遺物
(下) S I 009 竖穴住居跡出土遺物



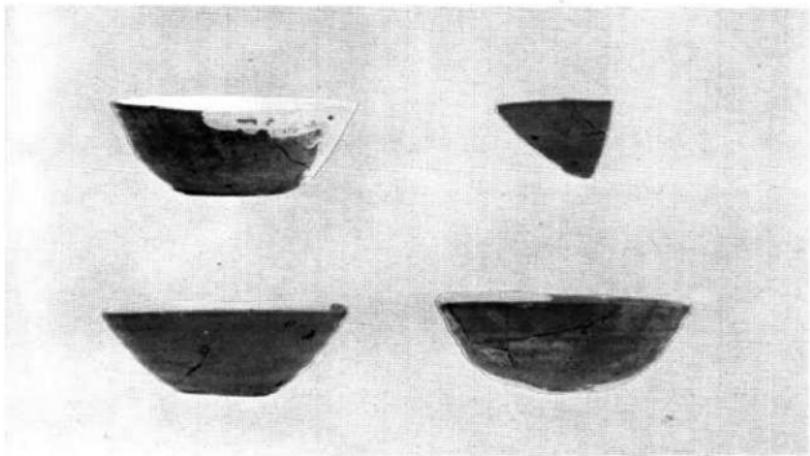
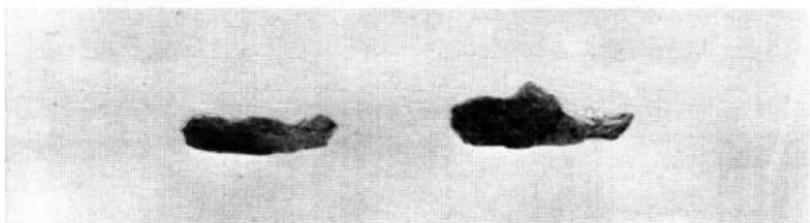
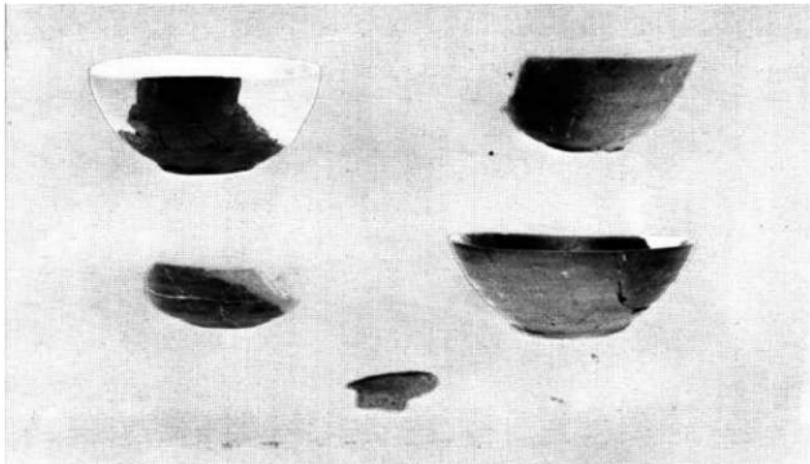
圖版57 〈上〉 SD 005溝狀遺構出土遺物
〈中〉 SI 012竪穴住居跡出土遺物(1)
〈下〉 SI 012竪穴住居跡出土遺物(2)



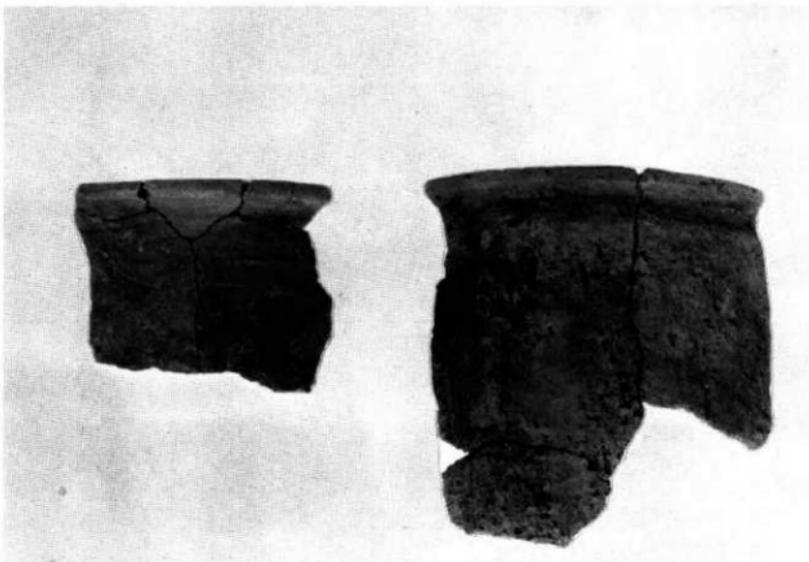
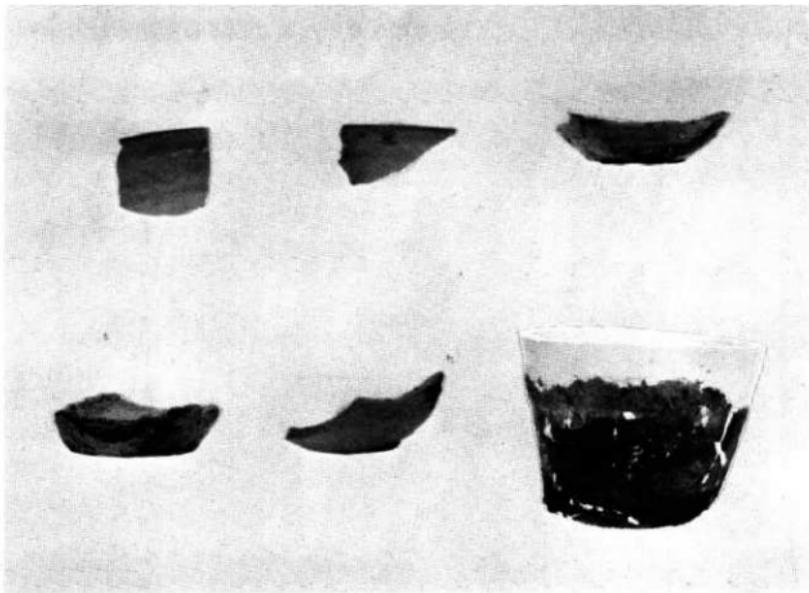
圖版58 (上) S I 012竖穴住居跡出土遺物(3)
(中) S I 018竖穴住居跡出土遺物
(下) S K 027土塙出土遺物



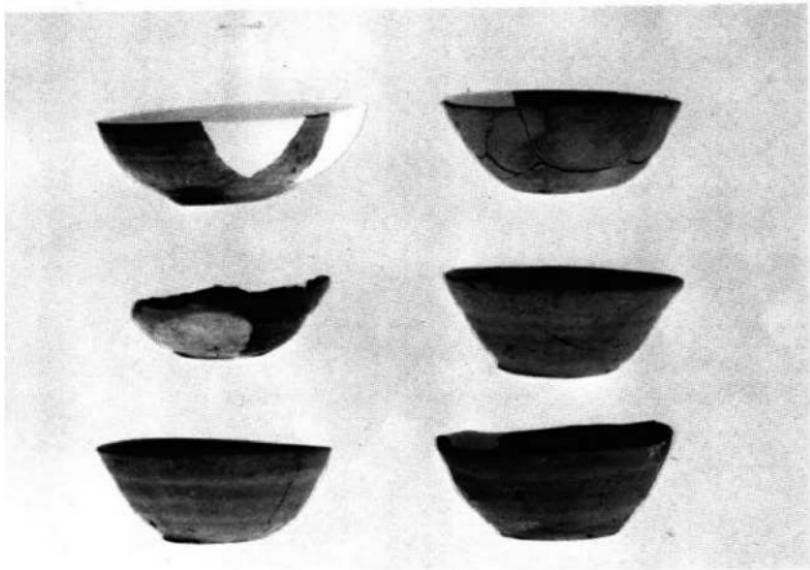
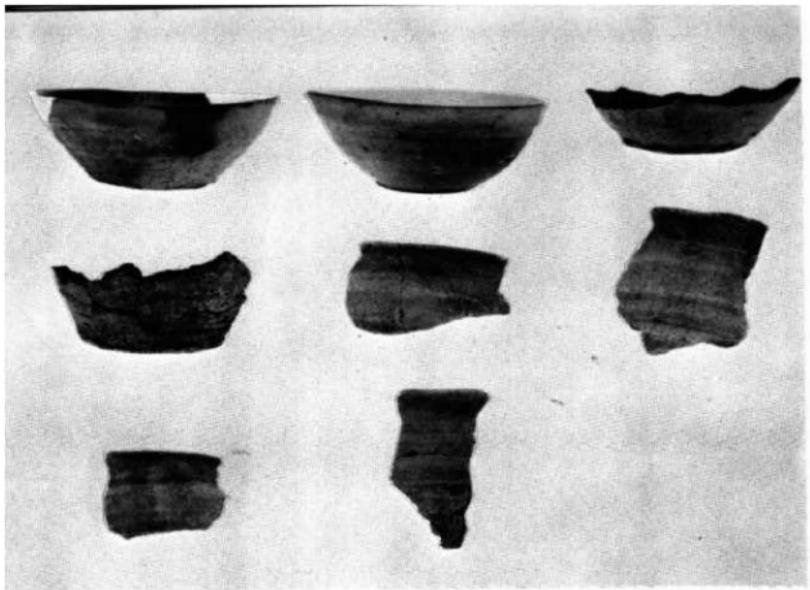
圖版59 (上) SK 032土壤出土遺物
(右中) SK 033土壤出土遺物
(下) SX 011合口壺棺



図版60 (上) S I 101竪穴住居跡出土遺物(1)
(中) S I 101竪穴住居跡出土遺物(2)
(下) S I 102竪穴住居跡出土遺物(1)

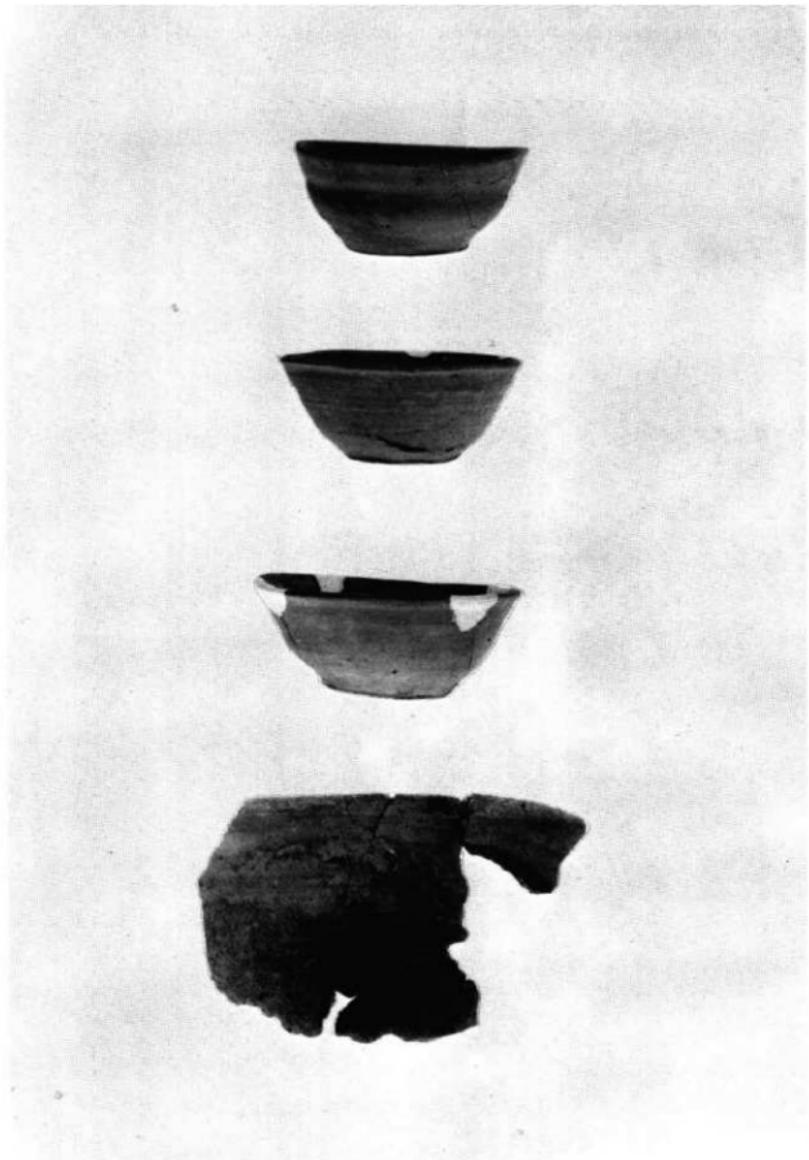


圖版61 {上} S I 102號穴住居跡出土遺物(2)
{下} S I 102號穴住居跡出土遺物(3)

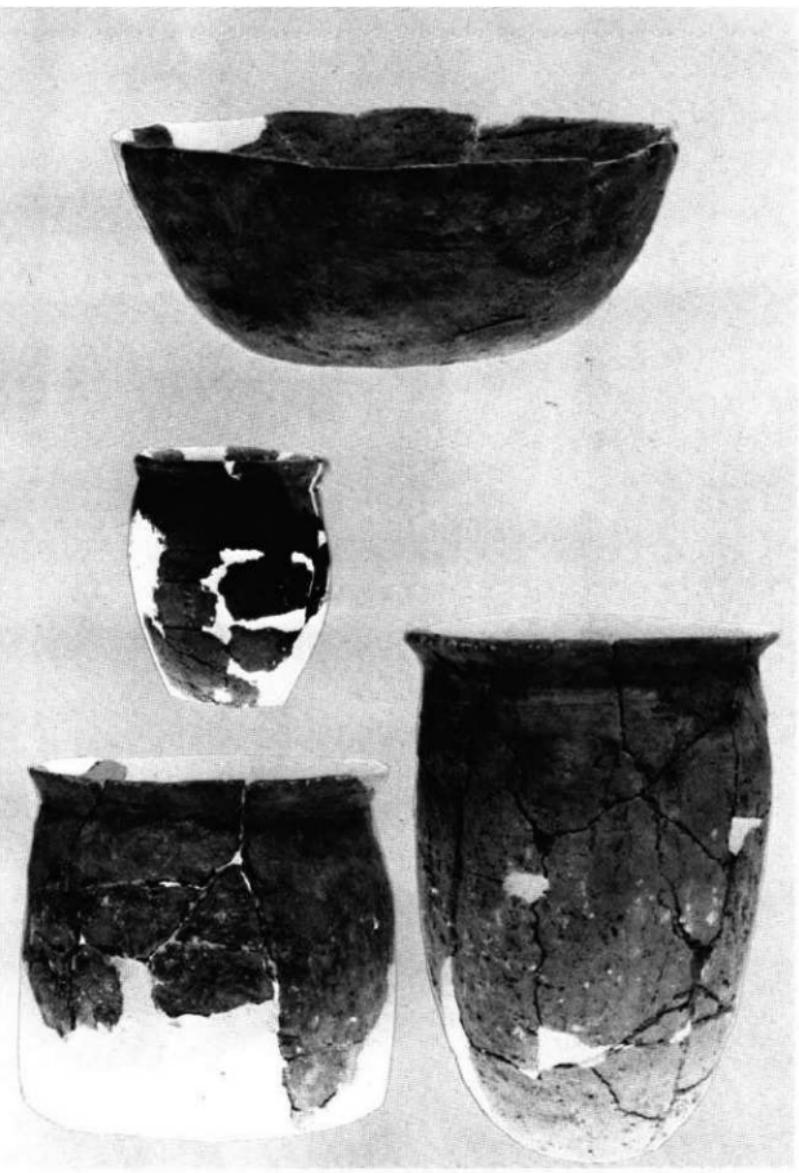


圖版62 (上) S I 103 穹穴住居跡出土遺物

(下) S I 104 穹穴住居跡出土遺物(1)



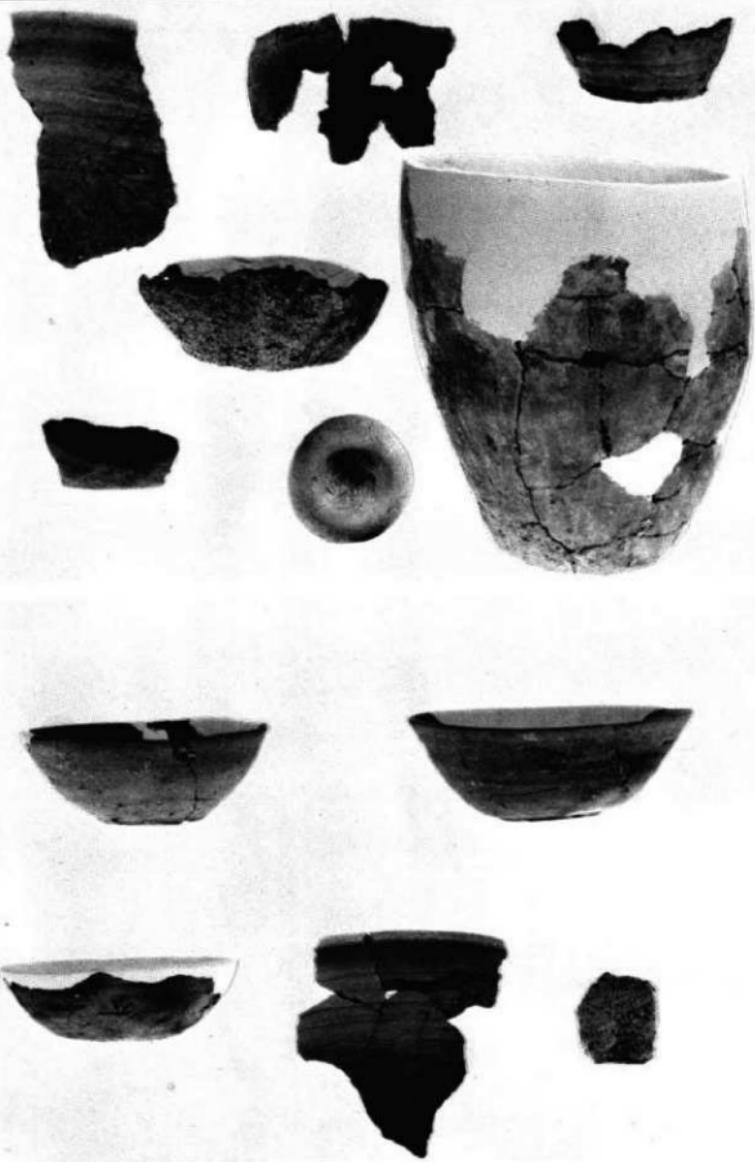
圖版63 S I 104堅穴住居跡出土遺物(2)



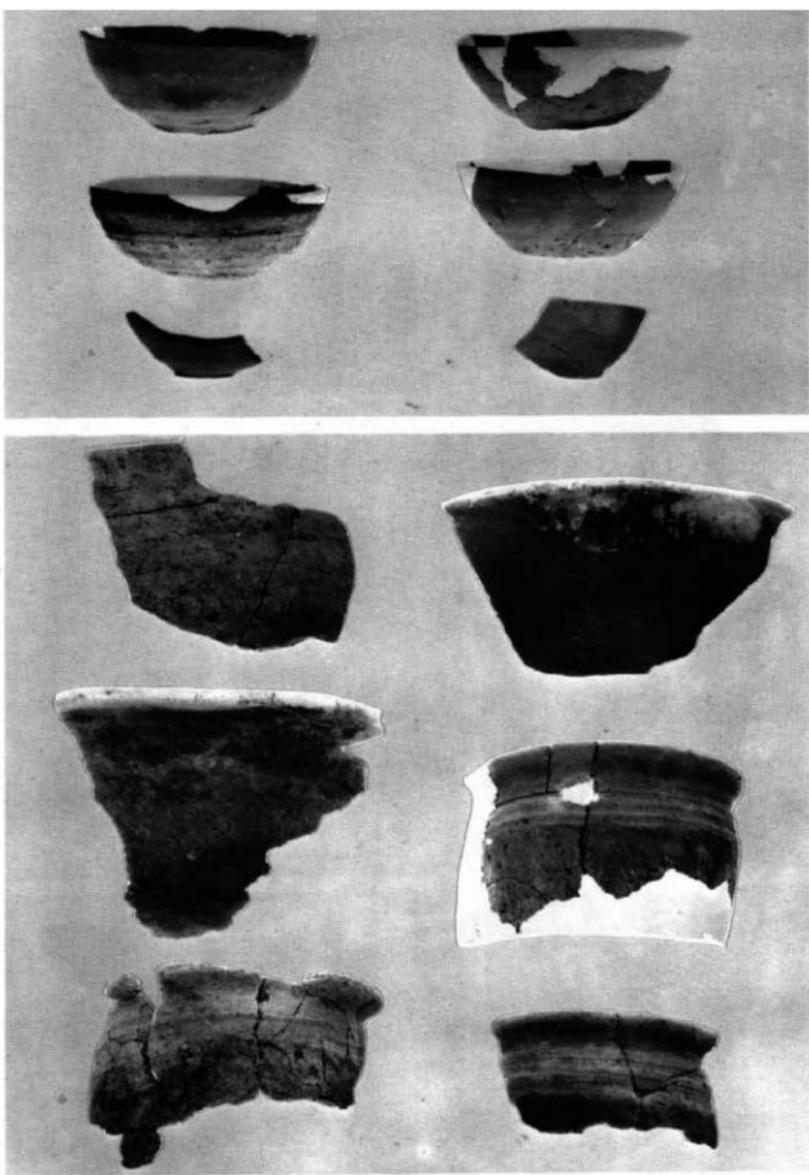
圖版64 S I 104號穴住居跡出土遺物(3)



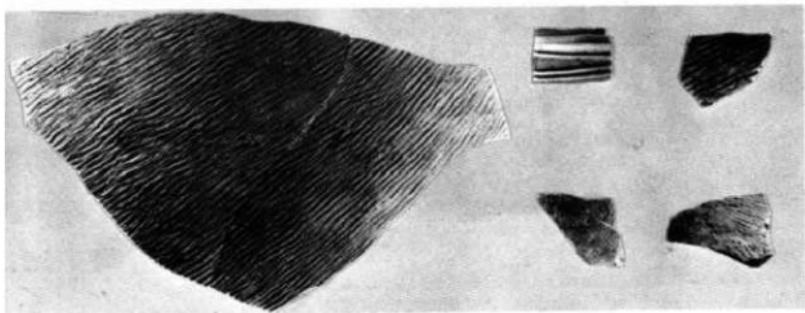
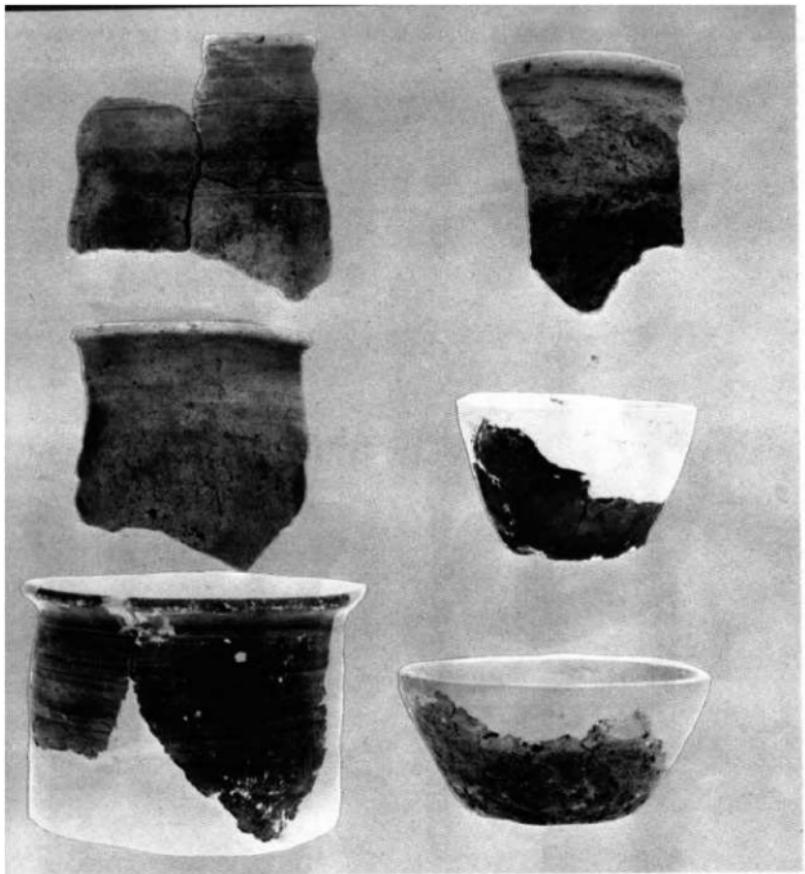
圖版65 S I 104號穴住居跡出土遺物(4)



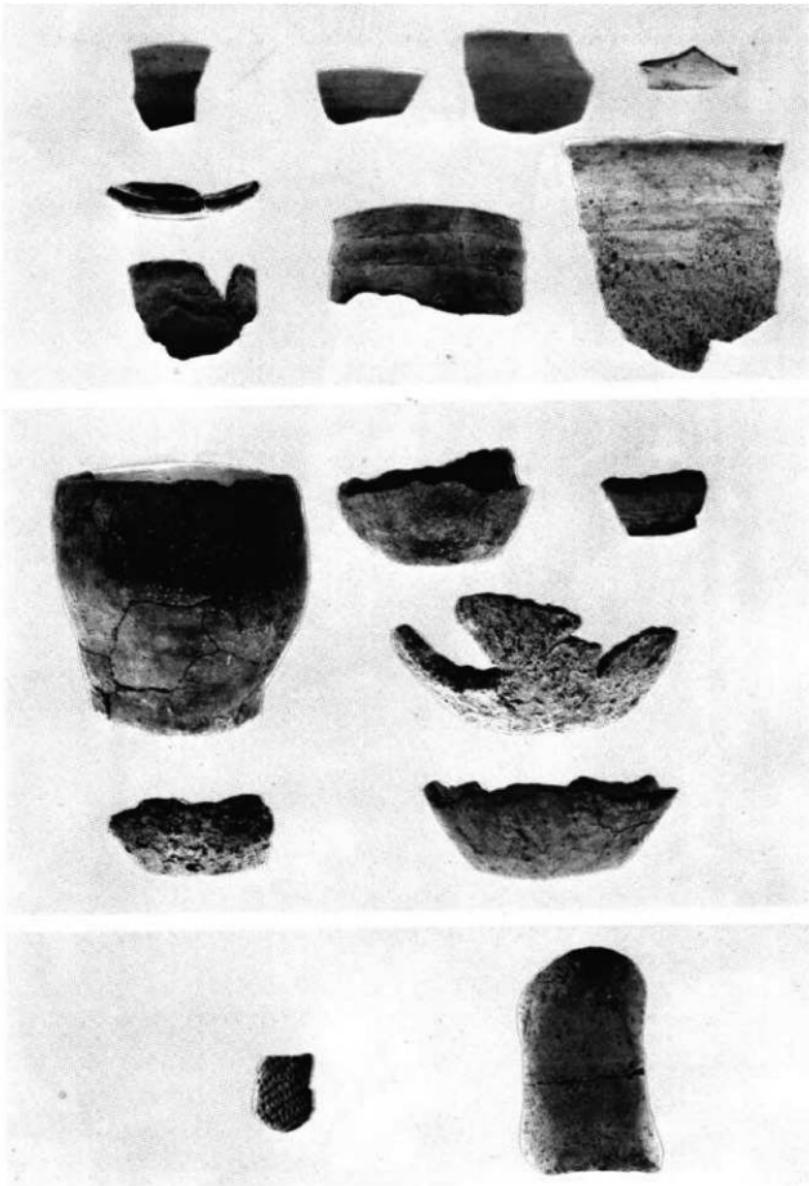
圖版66 (上) S I 104竪穴住居跡出土遺物(5)
(下) S I 106竪穴住居跡出土遺物



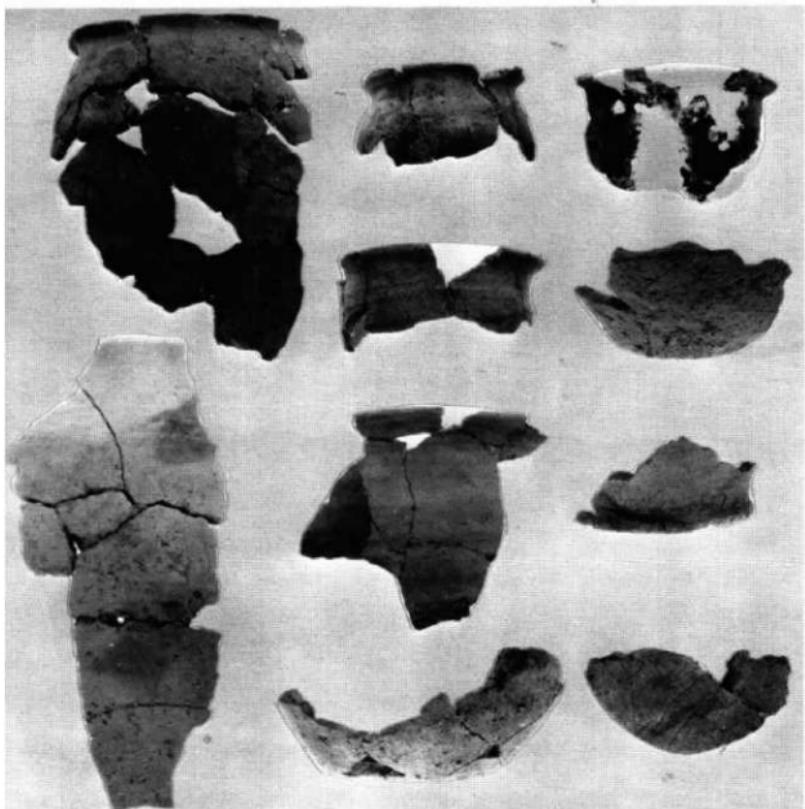
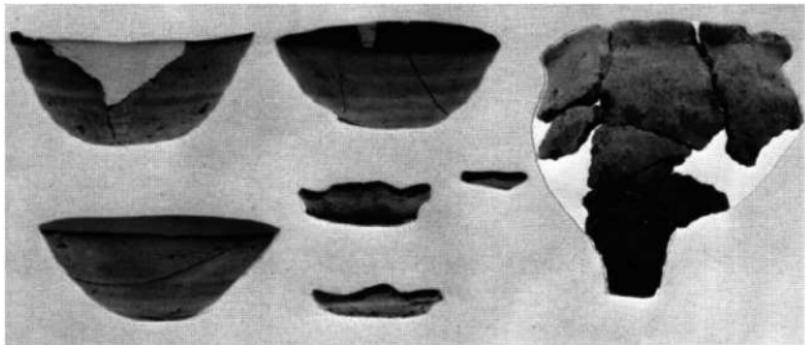
圖版67 〈上〉 S I 107 穹穴住居跡出土遺物(1)
〈下〉 S I 107 穹穴住居跡出土遺物(2)



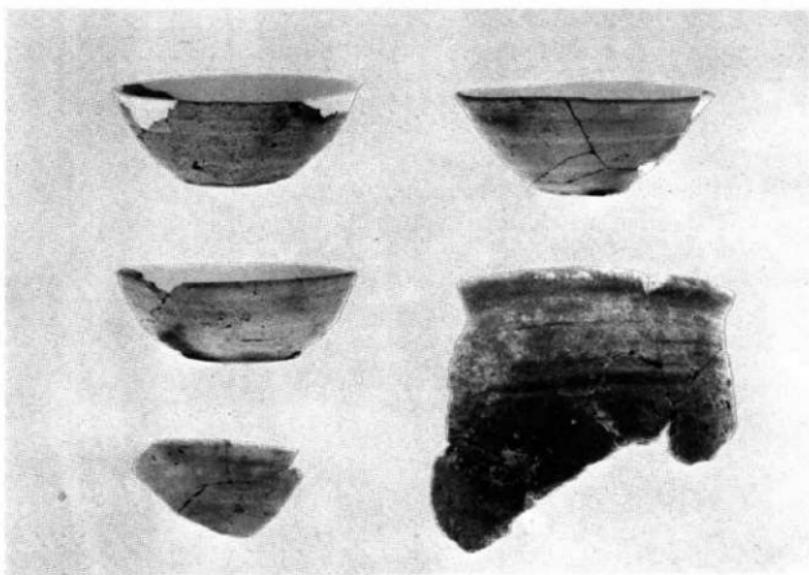
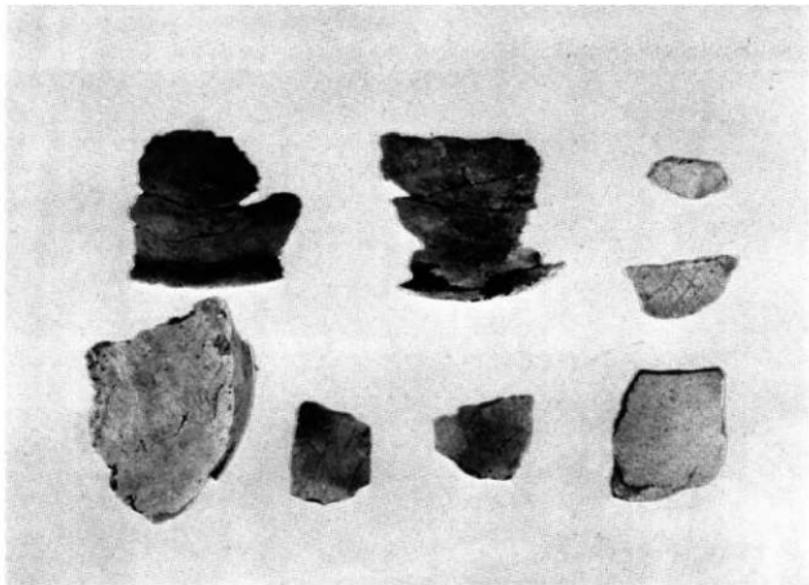
图版68 (上) S I 107号穴住居跡出土遺物(3)
(下) S I 107号穴住居跡出土遺物(4)



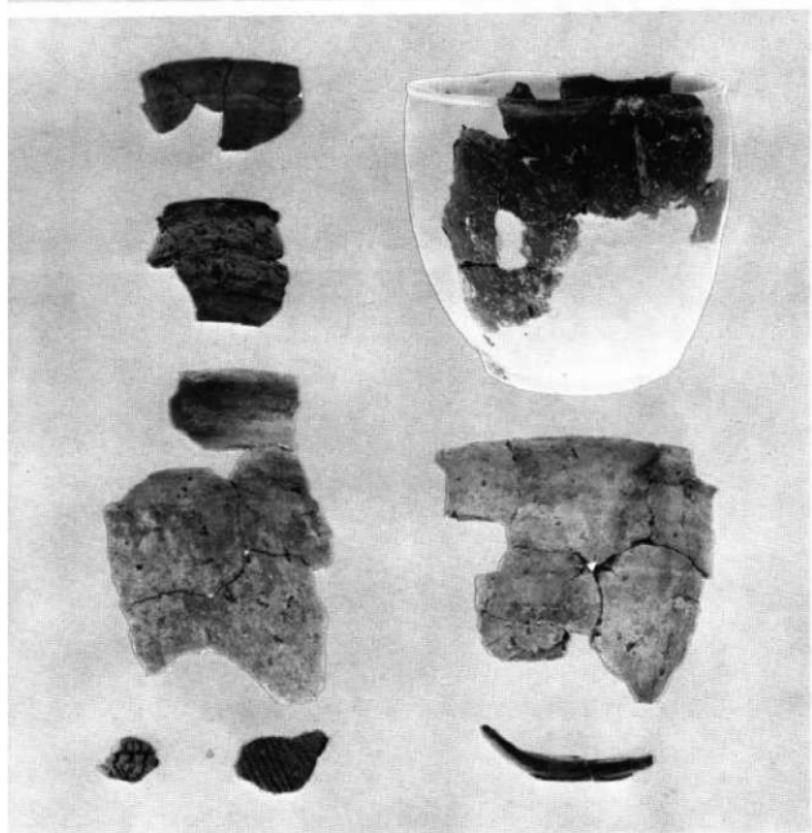
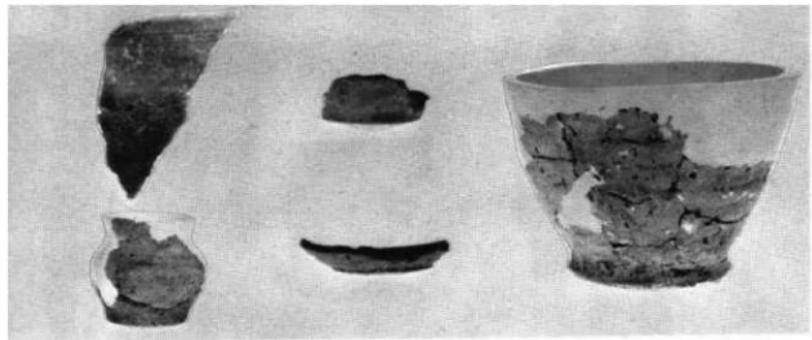
圖版69 (上) S I 108號穴住居跡出土遺物(1)
(中) S I 108號穴住居跡出土遺物(2)
(下) S I 108號穴住居跡出土遺物(3)



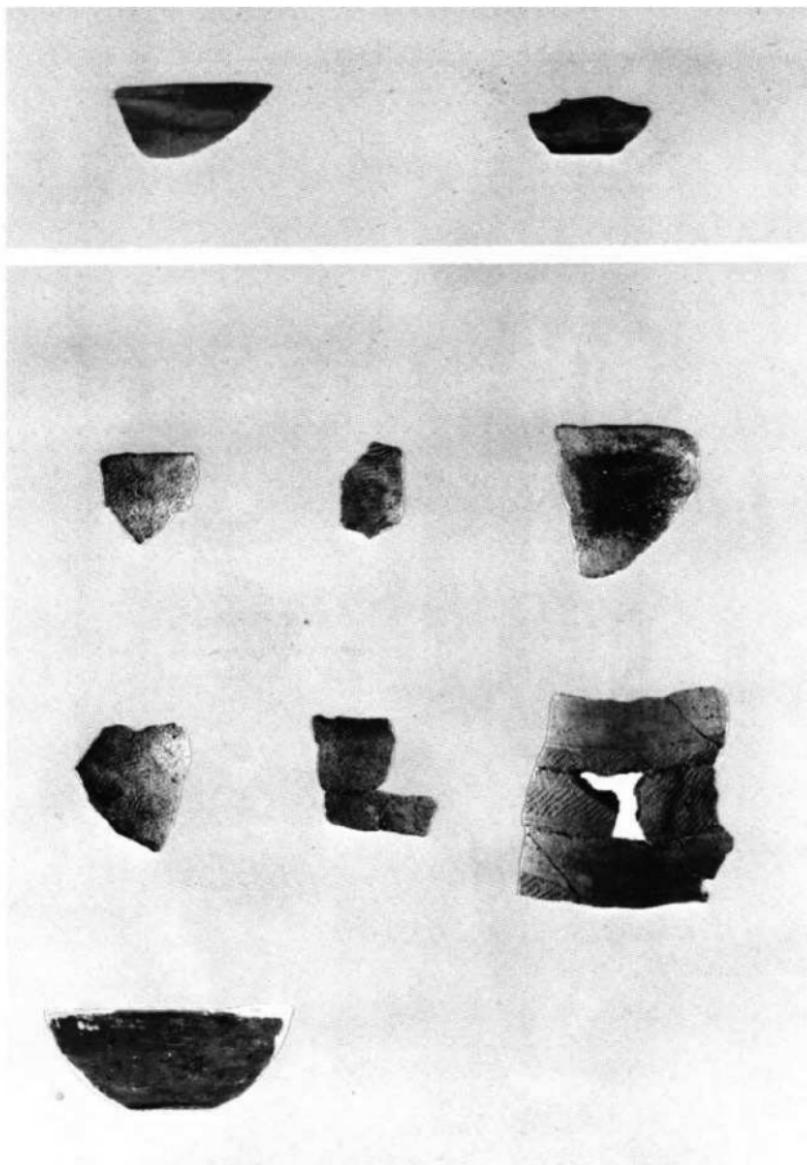
图版70 (上) S I 112竖穴住居跡出土遺物(1)
(下) S I 112竖穴住居跡出土遺物(2)



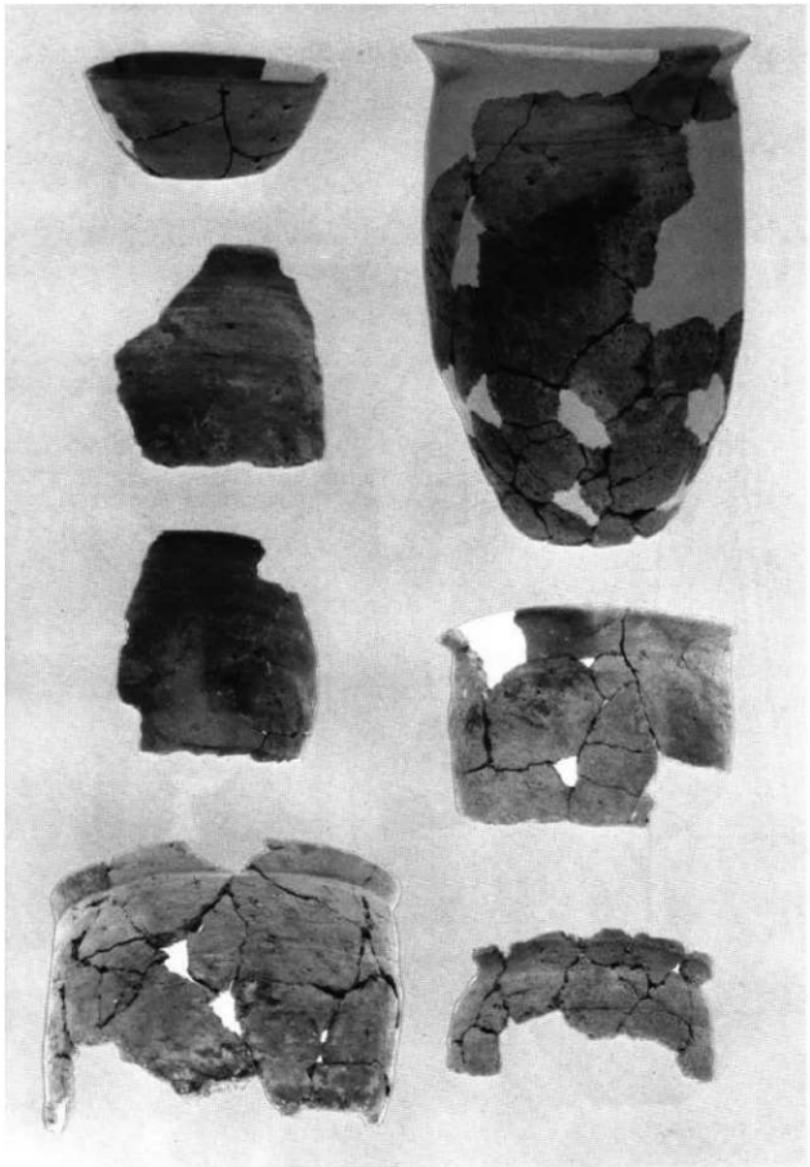
圖版71 (上) S I 112 穹穴住居跡出土遺物(3)
(下) S I 113 穹穴住居跡出土遺物(1)



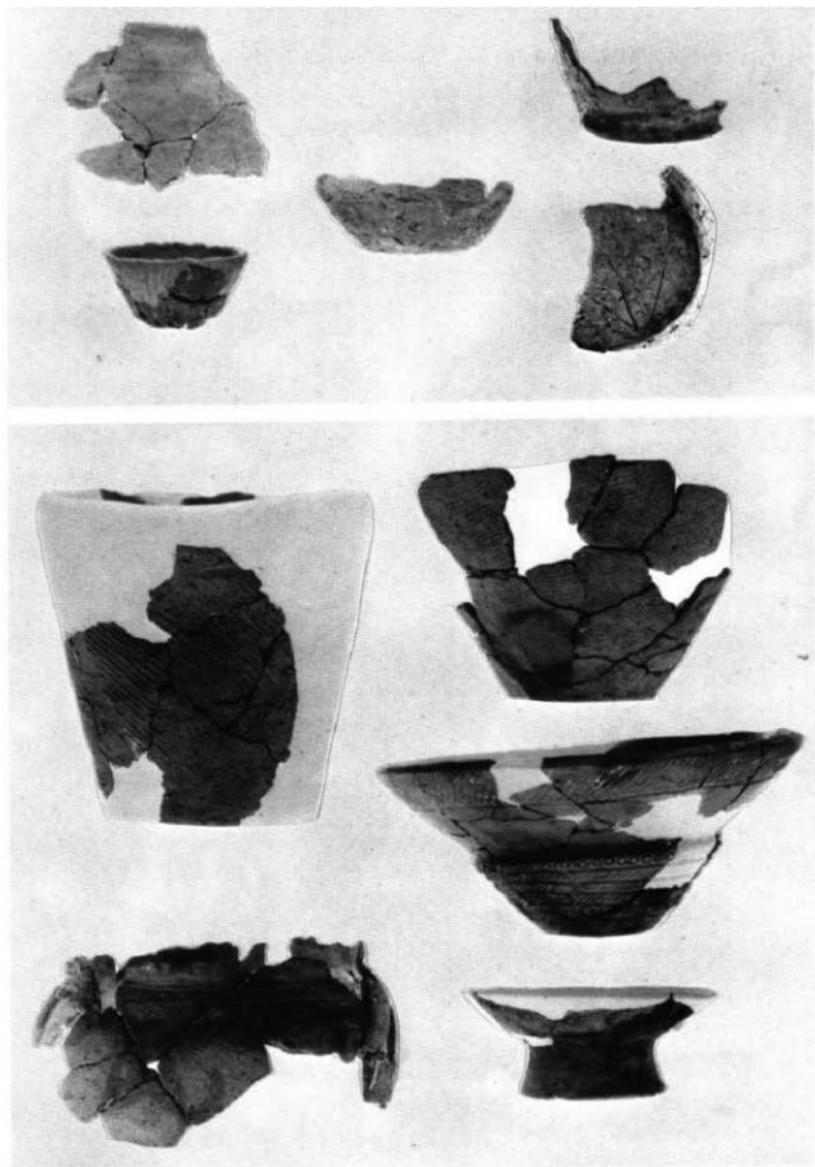
圖版72 (上) S I 113整穴住居跡出土遺物(2)
(下) S I 117 整穴住居跡出土遺物



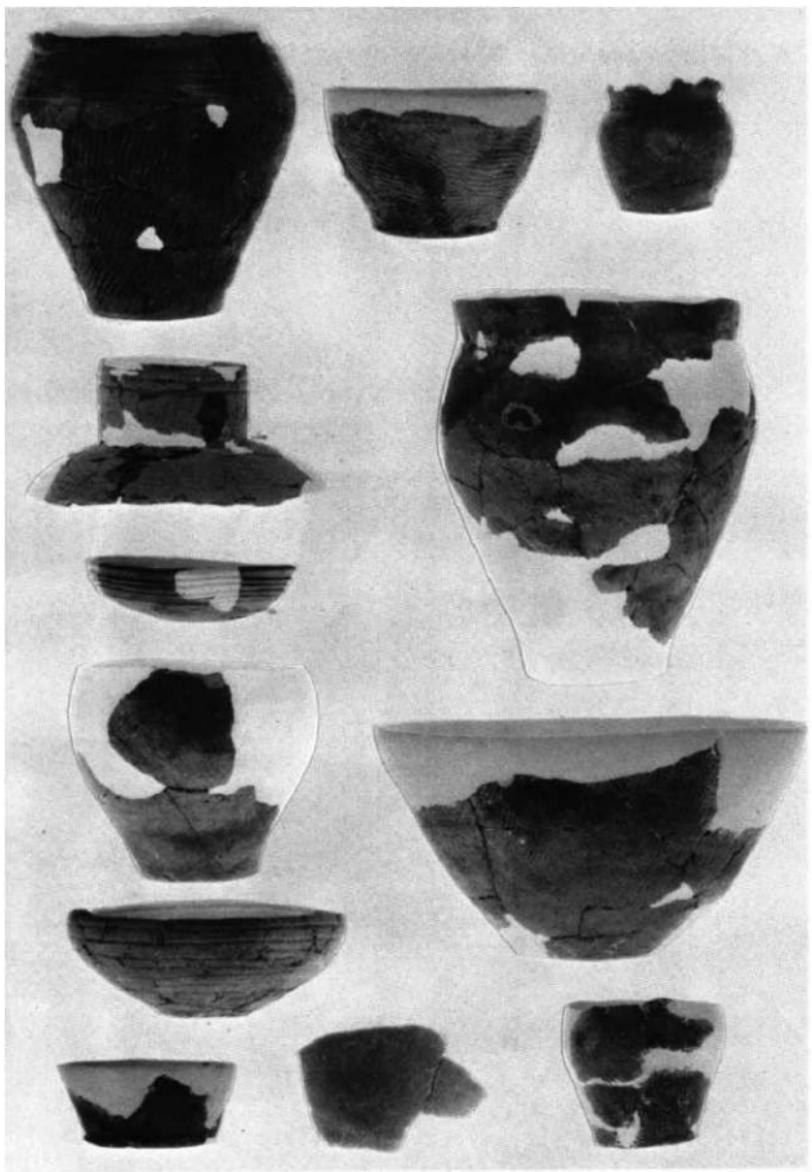
圖版73 (上) SK 118土壤出土遺物
(下) SK 131, 135土壤出土遺物



图版74 S I 301竖穴住居跡出土遺物(1)



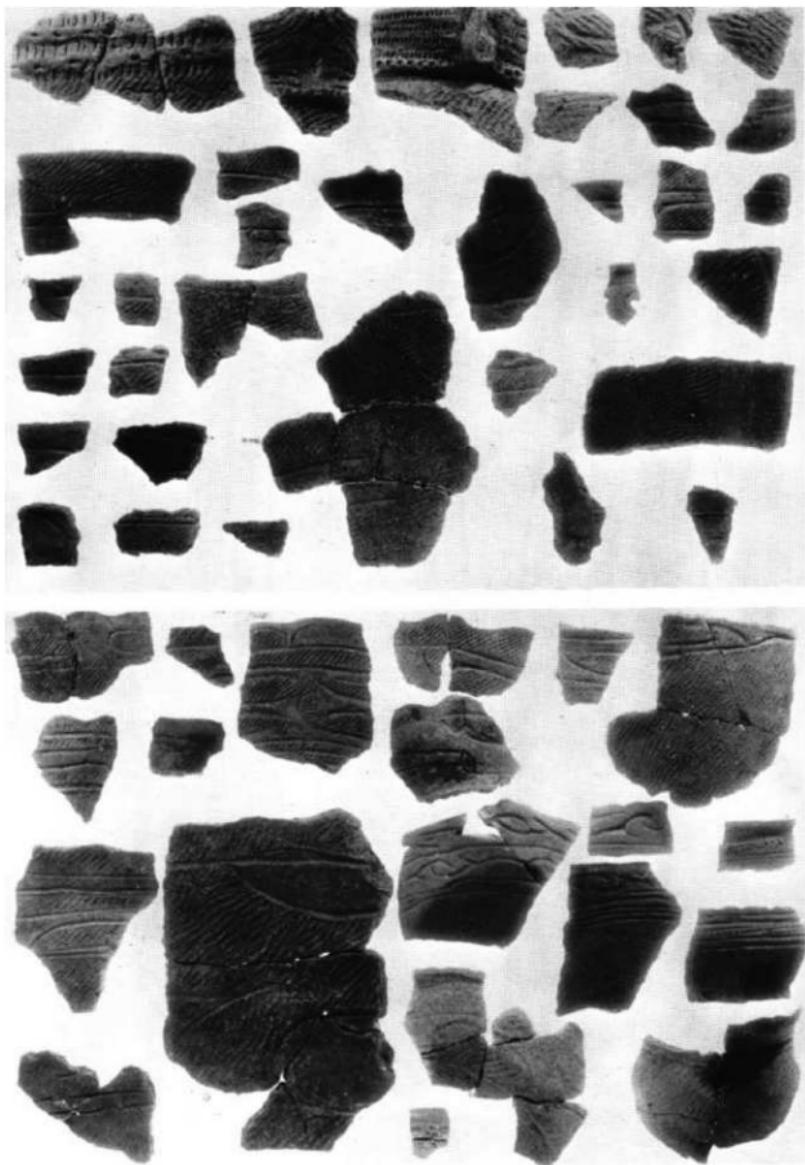
图版75 (上) S1 301竖穴住居跡出土遺物(2)
(下) 造構外出土土器(1)



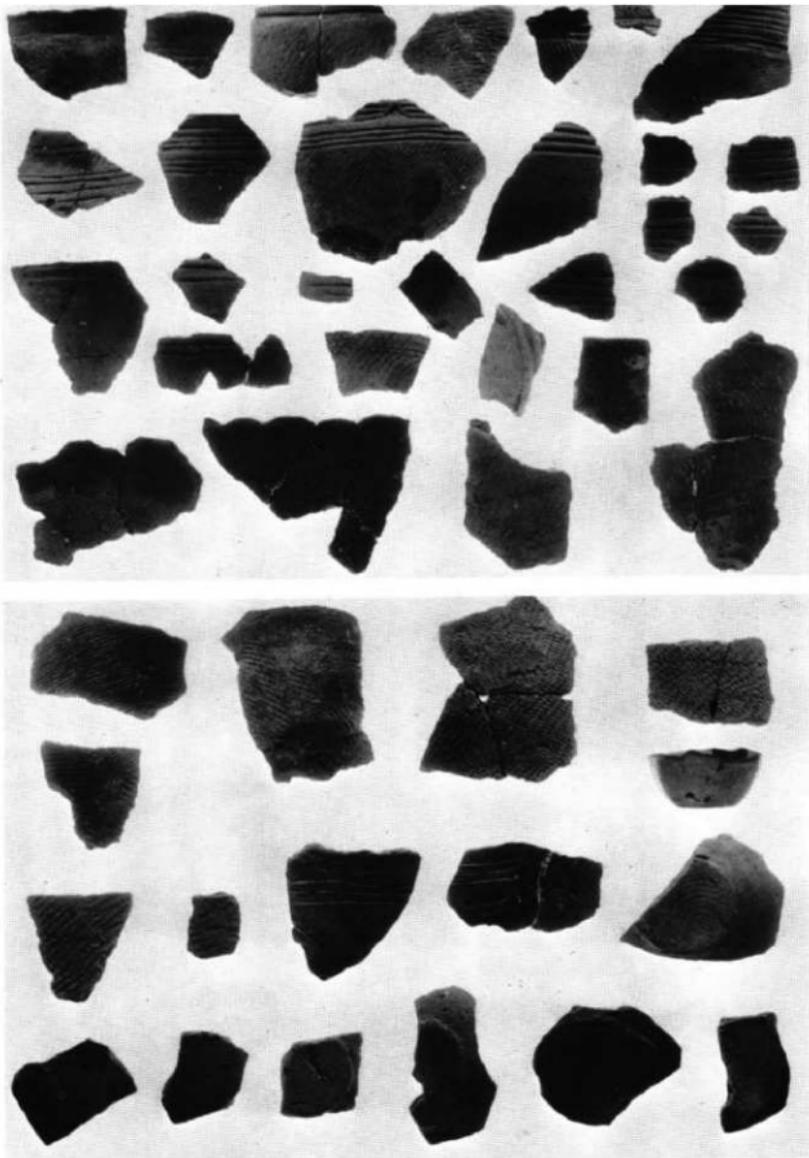
图版76 遗物外出土土器(2)



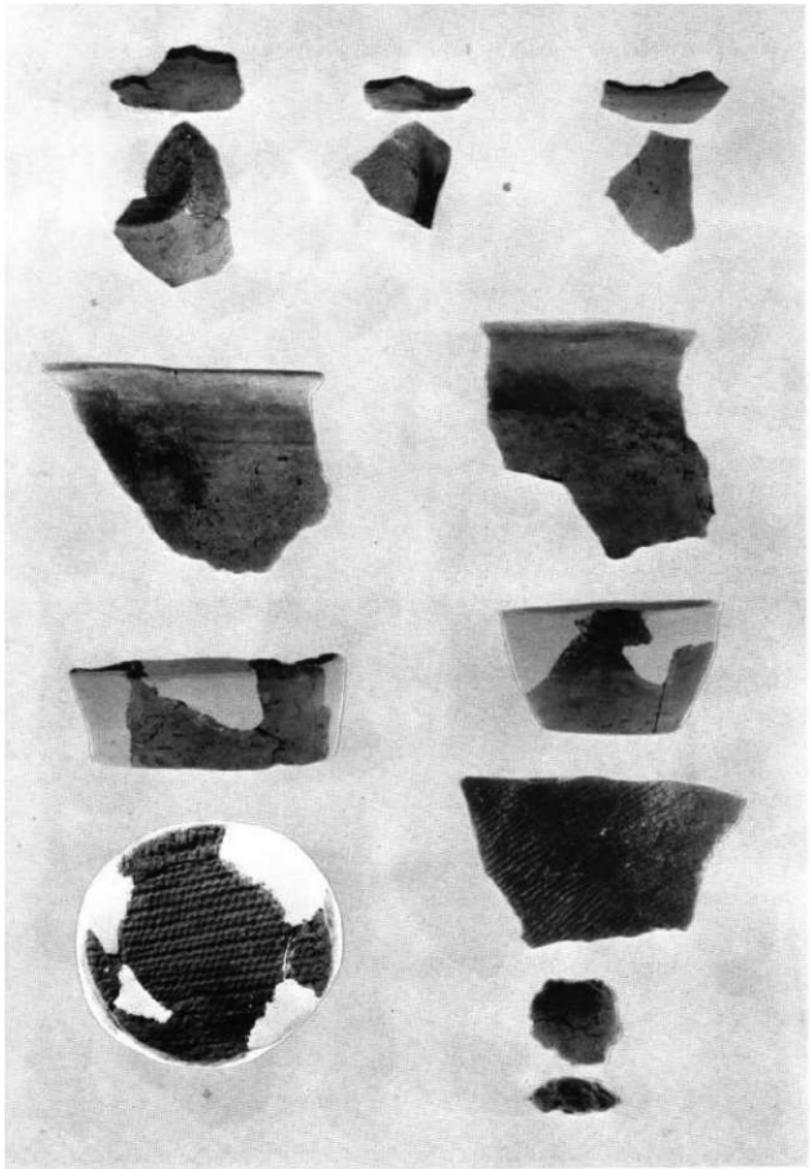
図版77 遺構外出土土器(3)



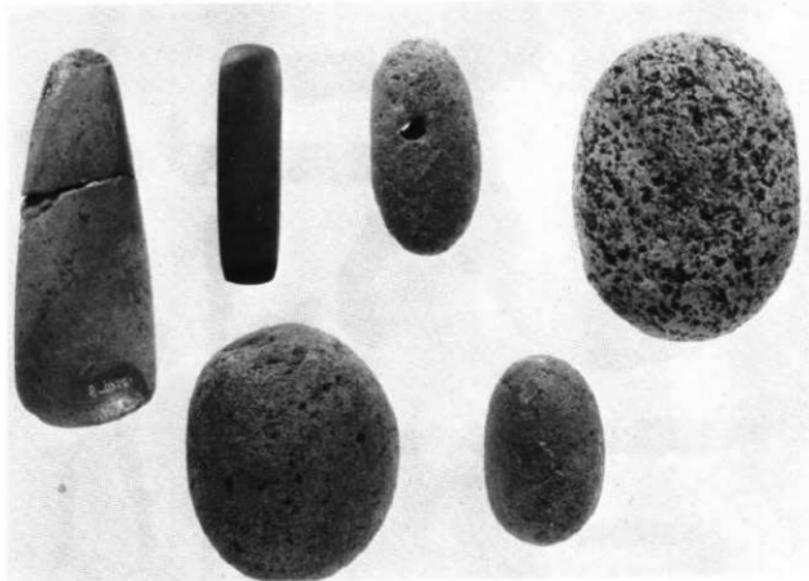
図版78 (上) 遺構外出土土器(4)
(下) 遺構外出土土器(5)



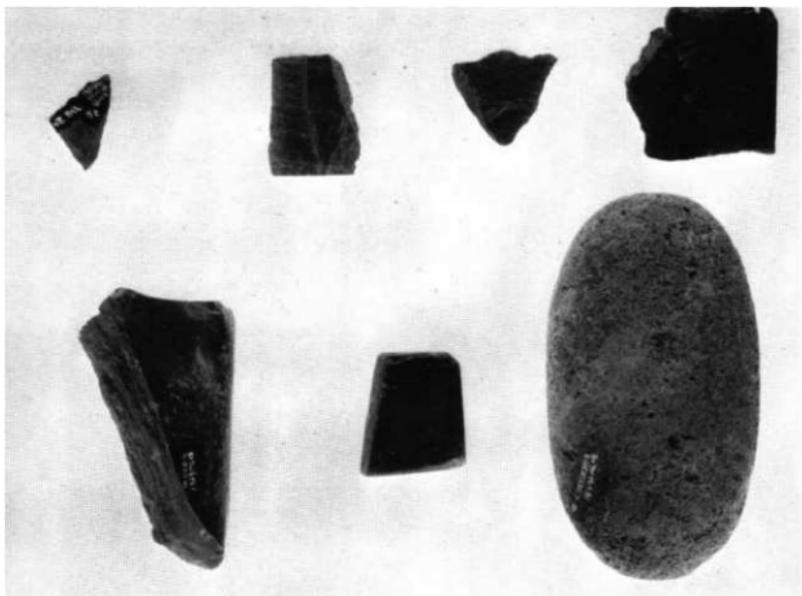
圖版79 (上) 造構外出土土器(6)
(下) 造構外出土土器(7)



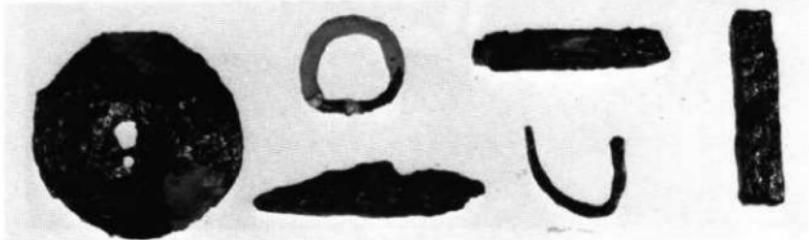
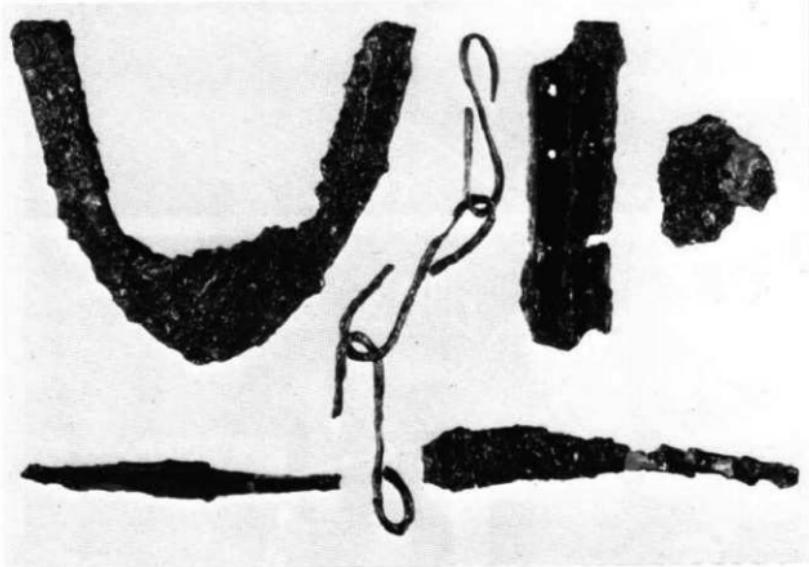
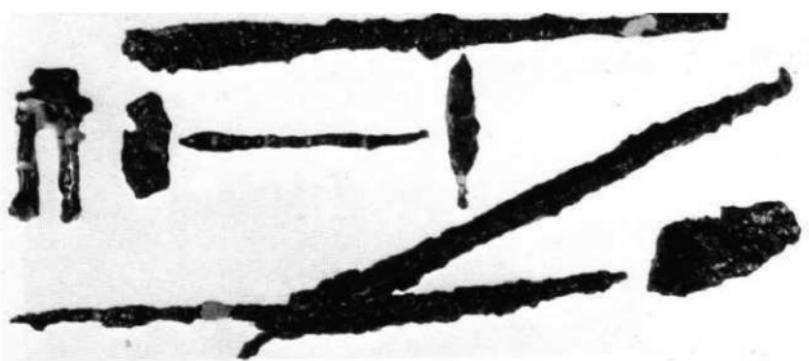
圖版80 通稱外出土土器(8)



圖版81 (上) 遺構外出土石器(1)
(下) 遺構外出土石器(2)



圖版82 (上) 遺構外出土石器(3)
(下) 出土鐵器(I)



圖版83 (上) 出土鐵器(2)
(中) 出土鐵器(3)
(下) 出土鐵器(4)



図版84 発掘調査風景 (上) I区 (下) II区

明 堂 長 根 遺 跡

遺 跡 番 号 No. 31
所 在 地 鹿角市花輪字明堂長根1番地地
調 査 期 間 昭和56年7月2日～9月18日
発 挖 調 査 予 定 面 積 5,194m²
発 挖 調 査 面 積 6,300m²

1. 遺跡の概観

明堂長根遺跡は、秋田県鹿角市花輪字明堂長根1番地他に所在し、同鉄花輪線陸中花輪駅の南東1.7km、北緯40°19'30"、東経140°48'10"の地点に存在する。標高210~219mの西に向いた緩斜面にあり、眺望よく北方に毛馬内方面の山々を遠望する。

遺跡の北側には、柏木森遺跡（遺跡番号No15）があり、明堂長根遺跡から発見された縄文時代晚期初頭のプラスコ状ヒットが検出されており、連続する一遺跡と考えられる。南側には、主として平安時代の堅穴住居跡、中世の堅穴造構などが検出された一本杉遺跡がある。

遺跡周辺は杉、アカシア等の林、水田、畠地あるいは荒地となっており、調査区域内も杉林または畠地であった。

2. 調査の方法

明堂長根遺跡は、緩斜面の東北縱貫自動車道建設予定地内を南東~北西方向に走る2本の市道に挟まれた区域が調査対象範囲であるため、この中の自動車道建設予定地内の中心杭STA119+00とSTA119+40を結ぶ線を南北の基線とし、この基線に対して直交するラインをもってグリッドを確定した。グリッドの東西ラインには南よりアラビア数字、また南北ラインには東からアルファベットを付し、両者を組み合わせて各グリッド東南隅の杭をグリッド呼称のために用いた（第1図）。

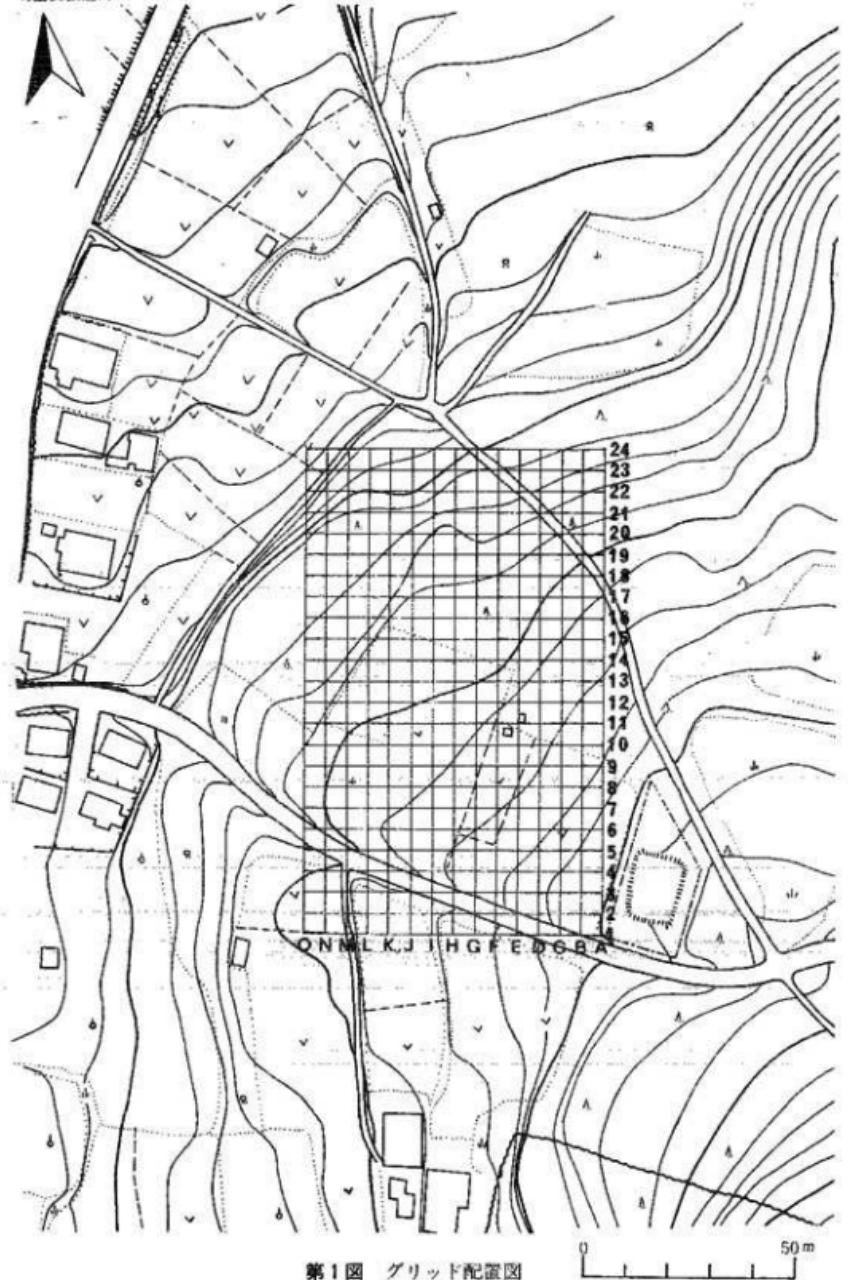
表土は部分的に2m近くに達する所があり、杉木立伐採後の抜根作業も含めて、表土の除去は重機を用いて行った。

遺物は調査以前の表面採集でも全く検出されず、また表土除去作業時においても皆無だったので、遺構、遺物の発見はほとんどないものと予想されたため、表土除去作業後はベルトコンベヤーを使用して地表面を検出しながら遺構の確認に努めた。

遺構等は、各グリッドの隅の杭を利用して、簡易造り方測量により実測した。また遺構の写真撮影は35ミリカメラを用い、モノクロ、カラーリバーサル写真を撮影した。最終的に遺跡全体を航空写真測量し、遺構配図を含めての地形図を作成した。

3. 調査の経過

調査は昭和56年7月2日から9月18日まで行ったが、8月11日までは乳牛平遺跡の調査と並行した。調査経過の概略は以下のとおりである。



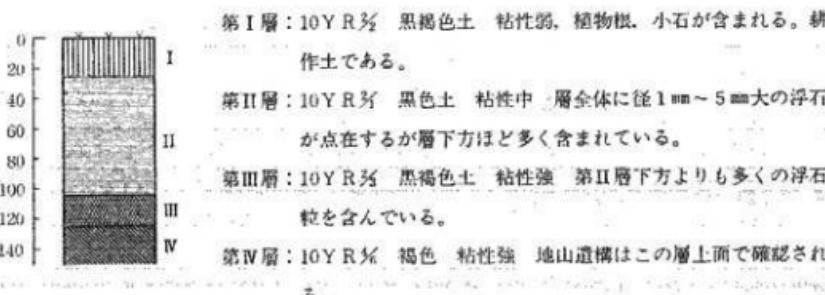
第1図 グリッド配置図

- 7月2日 調査開始、表土除去作業
 7月17日 フラスコ状ピット検出
 7月22日 重機による除土作業終了、以後、遺構検出、精査
 9月18日 調査終了
 10月22日 航空写真撮影、航空測量

4. 遺跡の層序

本遺跡の表土除去は、重機を用いて行ったが、道路センター杭周辺を残して土層観察を行った。土層は遺跡全体に単純な様相を示すが、第II層の層厚が地点によってかなりの開きが見られる。遺構は第IV層地山上面で確認された。

S T A 119 + 80における層序は以下の通りである。



第2図 土層柱状図

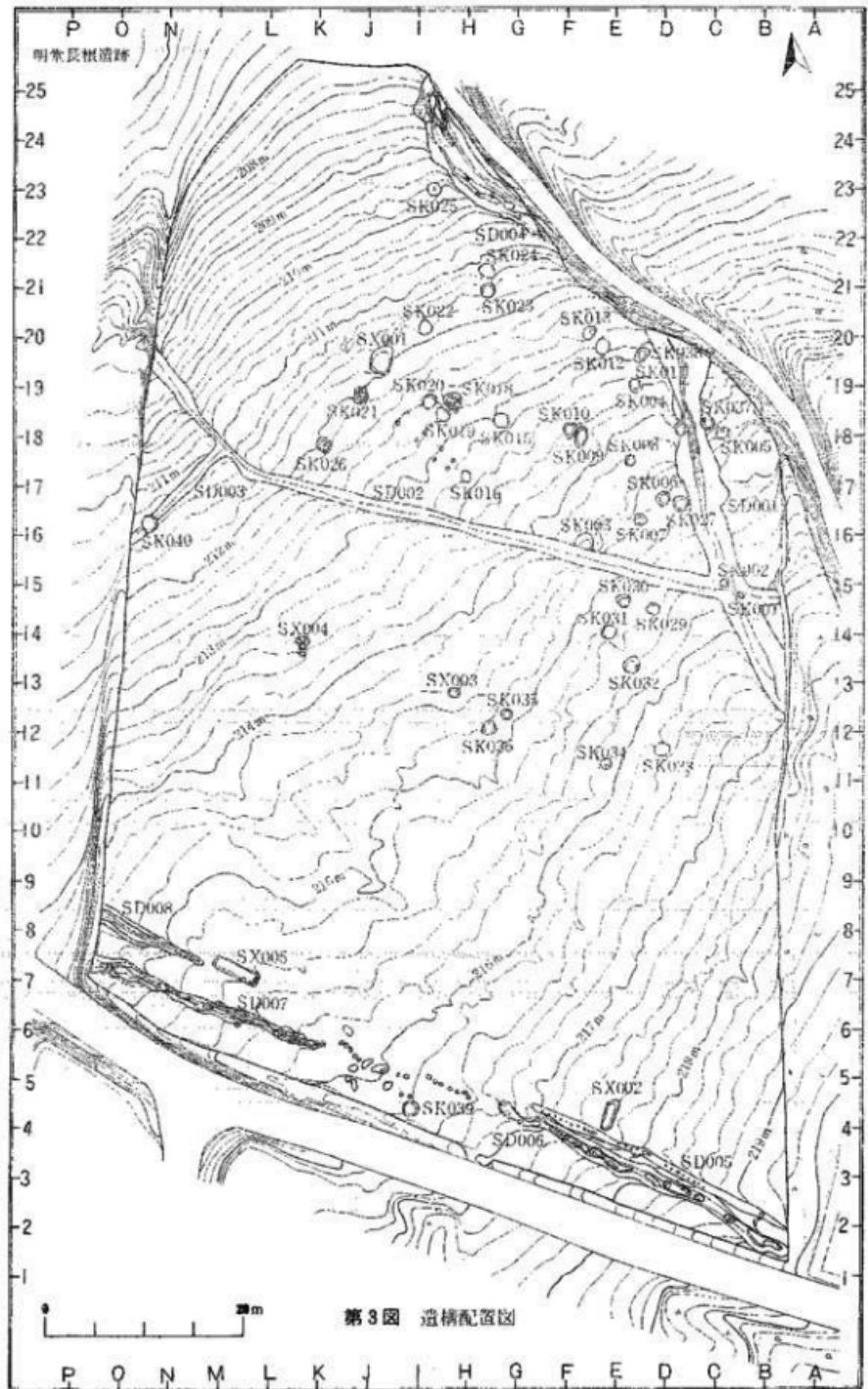
5. 遺構と遺物

(1) 遺構

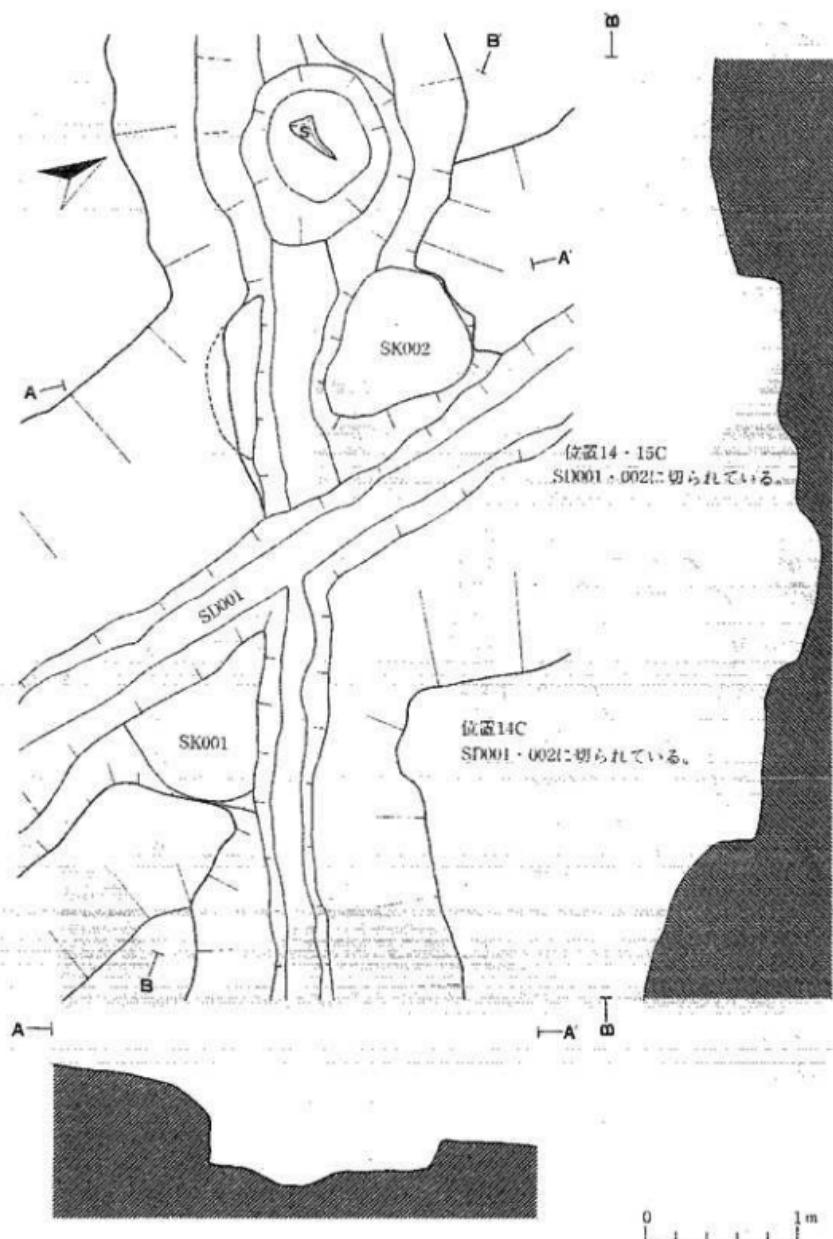
明瞭長根遺跡で検出された遺構は、土壙37基、溝8条、掘立柱建物跡1棟、その他の遺構5基である。

① 土 壙 (第4~16図 図版2~26, 33)

主として遺跡北半に集中的に分布し、南端のSK039は例外的存在である。北西端の急斜面には構築されていない。遺物はSK015底部からほぼ完形の台付深鉢形土器が2個体出土したが、他は土器破片のみか、あるいは全く検出されない。北方に連続する柏木森遺跡との関連が考えられる。

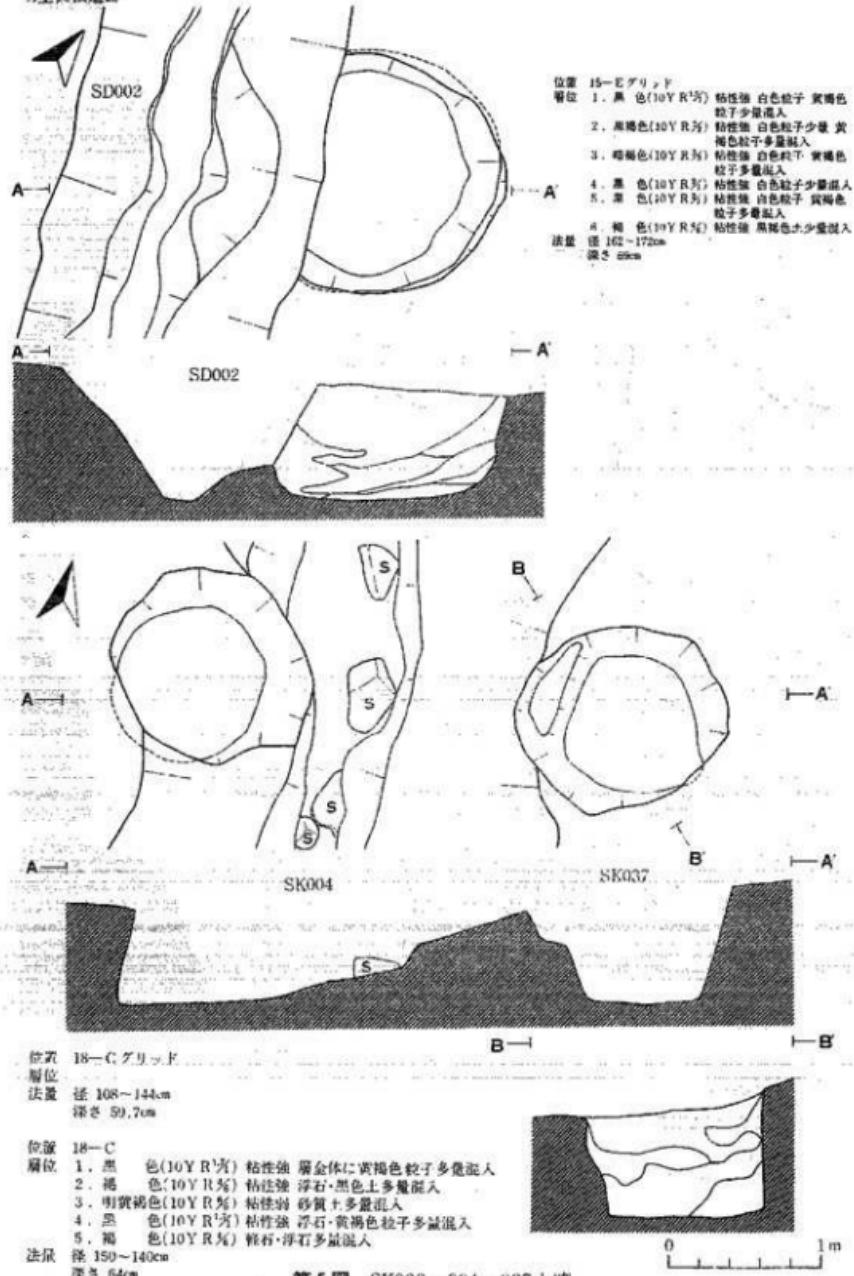


第3図 遺構配置図

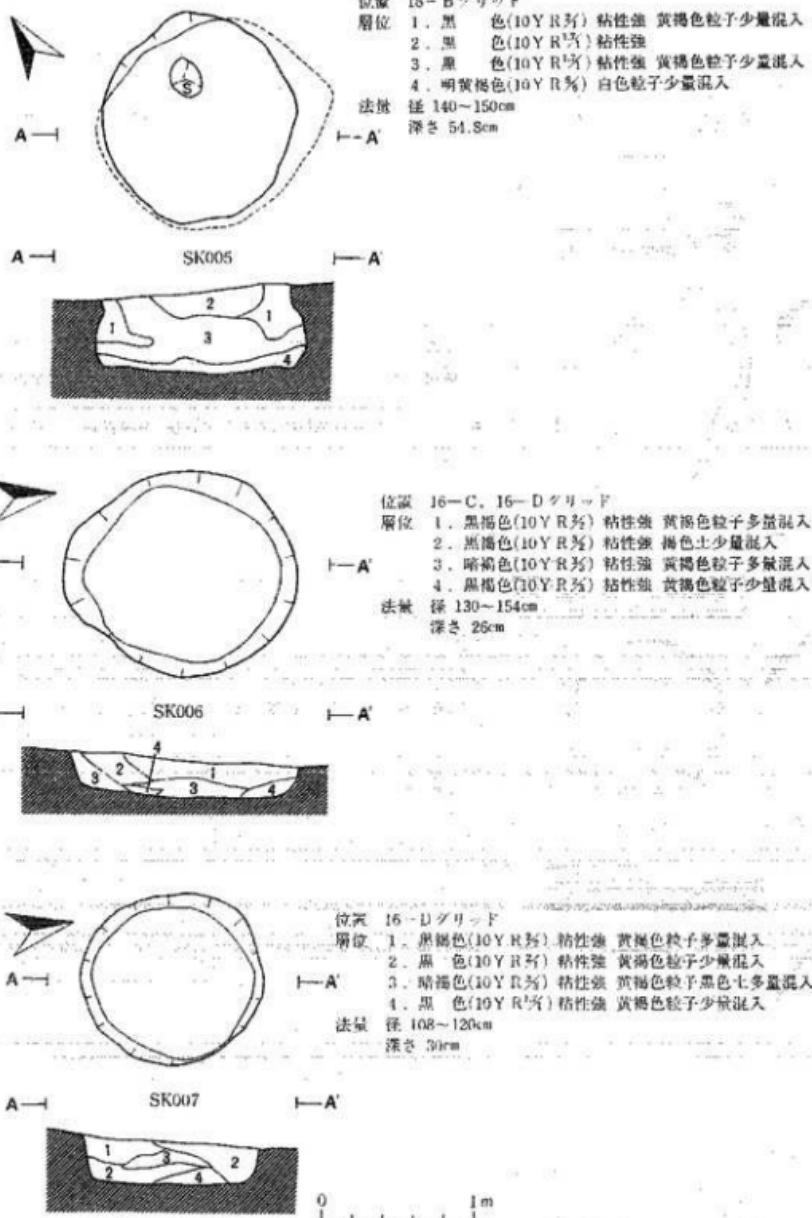


第4図 SK001・002土壤

明堂長根遺跡

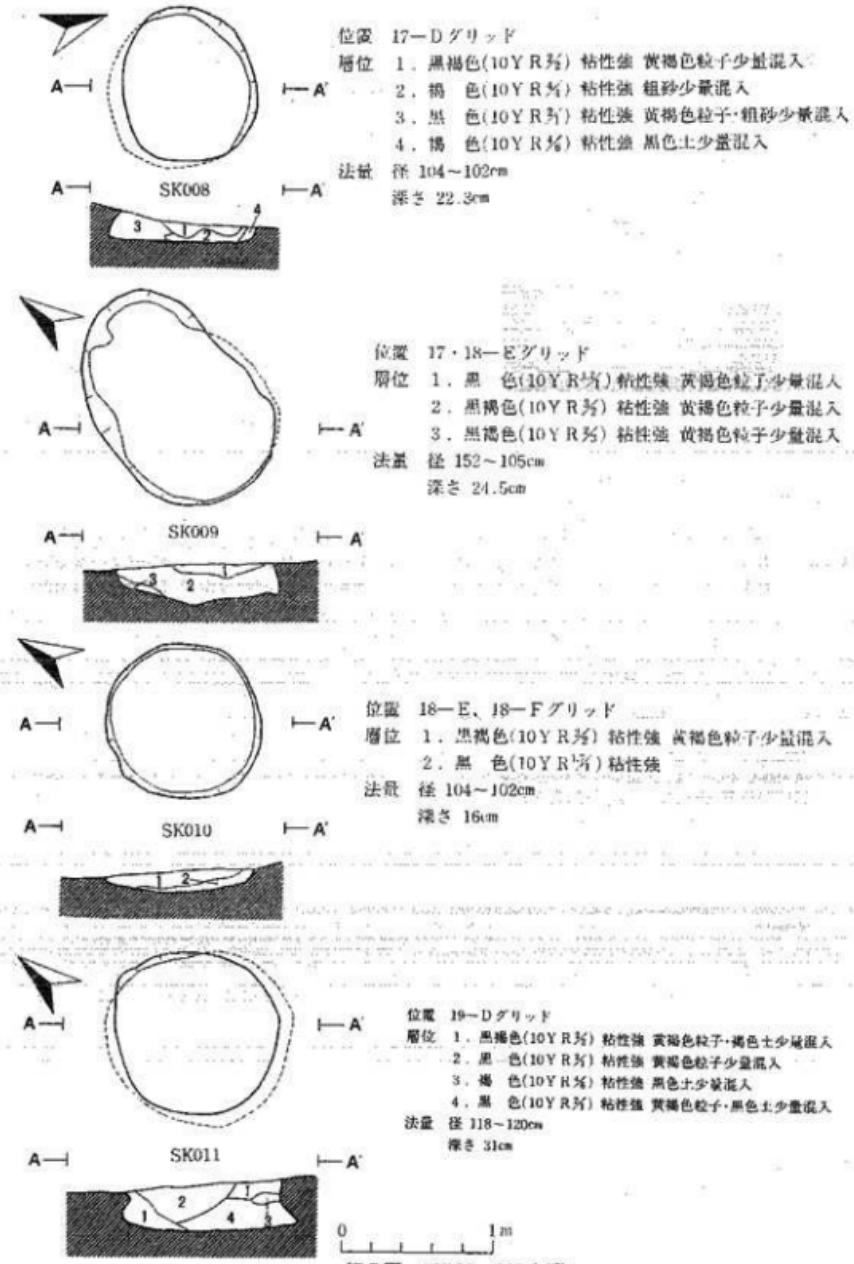


遺構と遺物

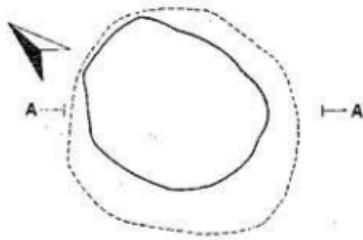


第6図 SK005~007土壤

明堂長根遺跡



第7図 SK008~011土壤

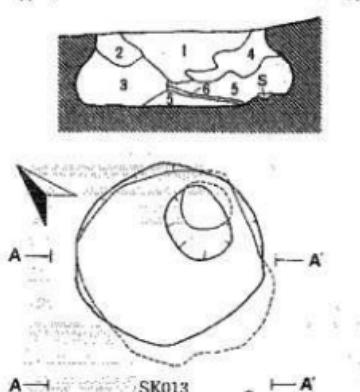


位置 19+20-E グリッド

- 層位
1. 黒色(10Y R 3') 粘性強 褐色土微量混入
2. 黑褐色(10Y R 5') 粘性強
3. 暗褐色(10Y R 5') シルト状褐色土微量混入
4. 黑褐色(7.5Y R 5') 黄褐色粒子多量混入
5. 黑色(10Y R 3') 粘性強
6. 明黃褐色(10Y R 5') 粘性弱

法量 径 125~160cm

深さ 49.4cm

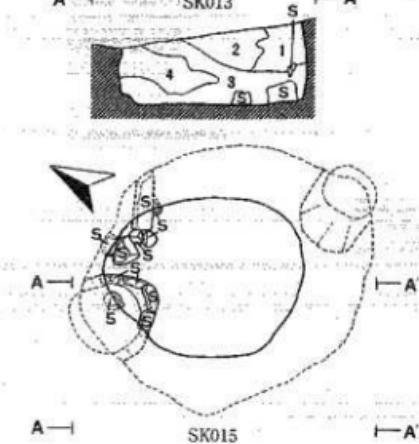


位置 20-E グリッド

- 層位
1. 黑色(10Y R 5') 粘性弱 褐色土僅少量混入
2. 暗褐色(10Y R 5') 灰化物微量混入
3. 黑褐色(10Y R 5') 黄褐色粒子微量混入
4. 黑色(10Y R 5') 粘性強 黄褐色粒子微量混入

法量 径 124~134cm

深さ 55.5cm

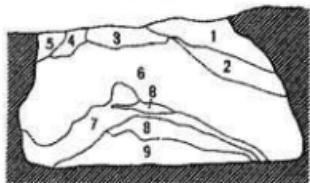


位置 18-G グリッド

- 層位
1. 黑色(10Y R 5') 粘性強 白色粒子・鈣石少量混入
2. 暗褐色(10Y R 5') 粘性強 白色粒子多量・鈣石少量混入
3. 黄褐色(10Y R 5') 粘性強 黑色土多量混入
4. 明褐色(7.5Y R 5') 粘性強 粘土質
5. 黑褐色(10Y R 5') 粘性強 黄褐色粒子多量混入
6. 明黄褐色(10Y R 5') 白色粒子多量混入
7. 暗褐色(10Y R 5') 粘性強 白色粒子・黄褐色粒子多量混入
8. 黑色(10Y R 5') 粘性強 白色粒子・黄褐色粒子多量混入
9. 黑色(10Y R 5') 粘性強 白色粒子・鈣石多量混入

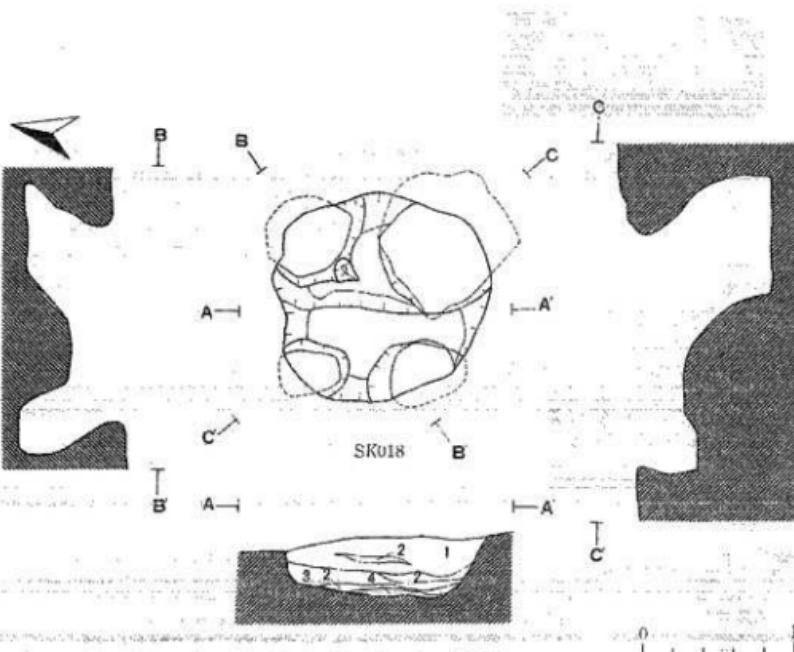
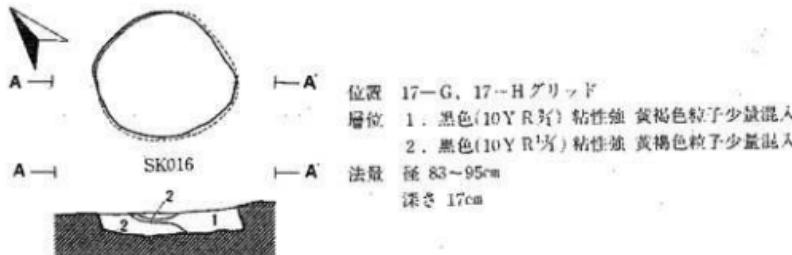
法量 径 132~205cm

深さ 97.5cm

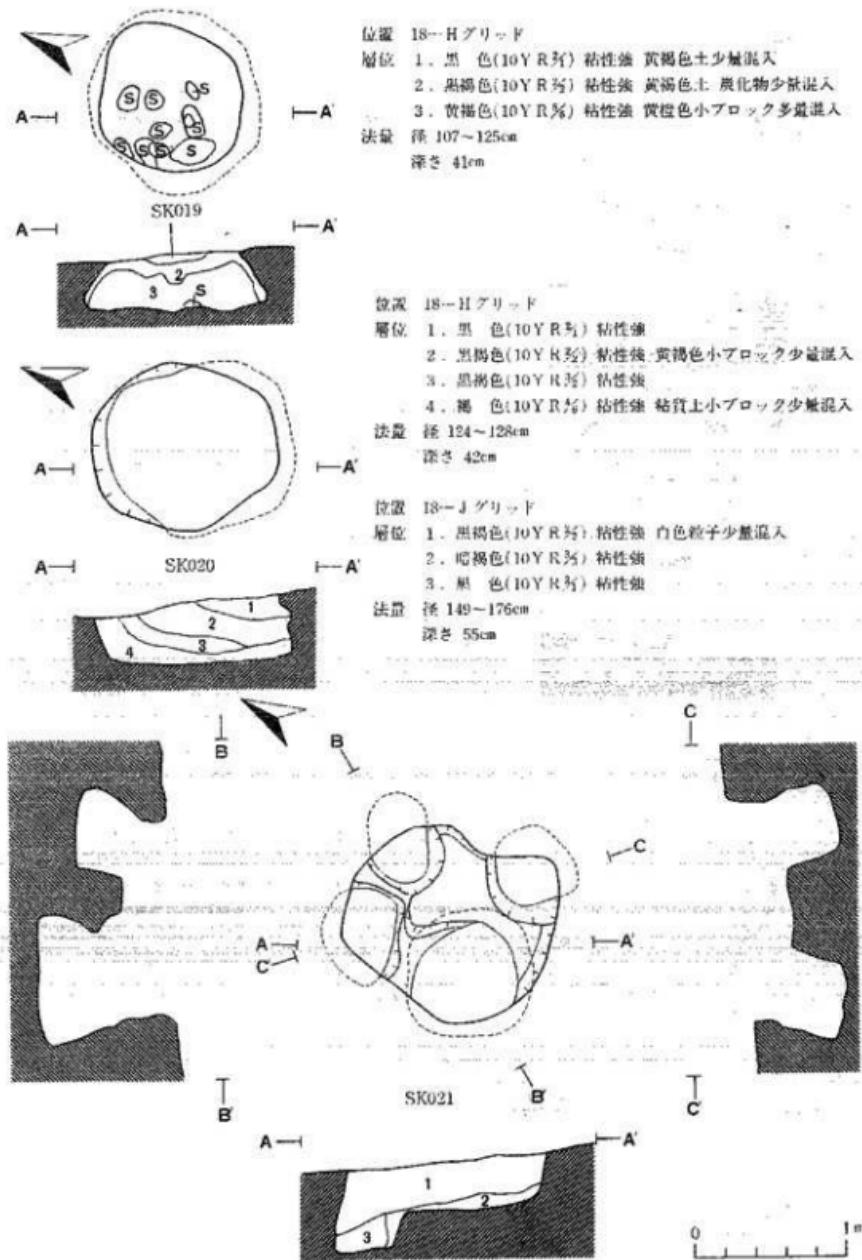


第8図 SK012・013・015土壤

明堂長根遺跡

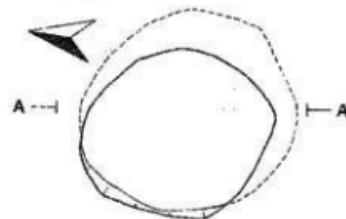


第9図 SK016・018土壤



第10図 SK019~021土壤

明堂長根遺跡

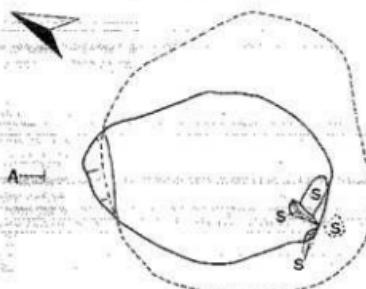
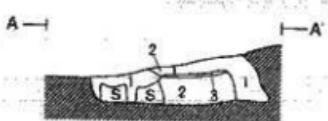
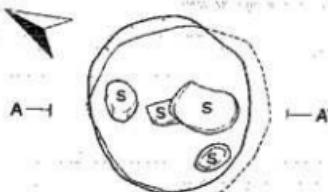


位置 20-H グリッド
層位 1. 黒色(10Y R 5%) 粘性強 白色粒子少量混入
2. 黄褐色(10Y R 5%) 粘性強 白色粒子・黄褐色粒子多量混入
3. 間色(10Y R 4%) 粘性強 白色粒子少量混入
法量 厚 130~144cm
深さ 46.7cm



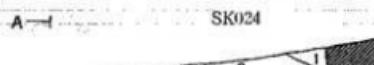
位置 20-K グリッド

層位 1. 黒色(10Y R 5%) 粘性強
2. 間色(7.5Y R 4%) 粘性強 黑色土少量混入
3. 赤褐色(2.5Y R 4%) 粘性強
法量 厚 118~120cm
深さ 30cm

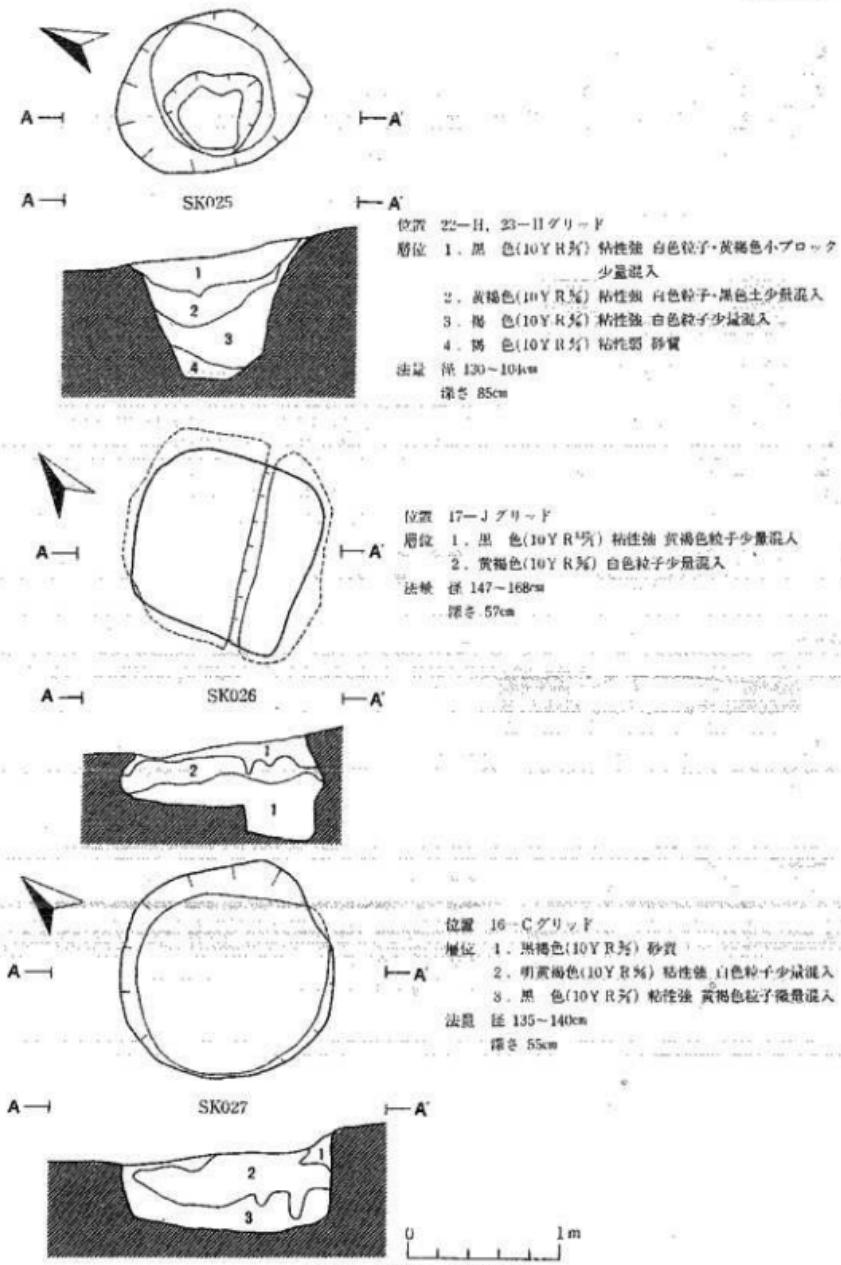


位置 21-G グリッド

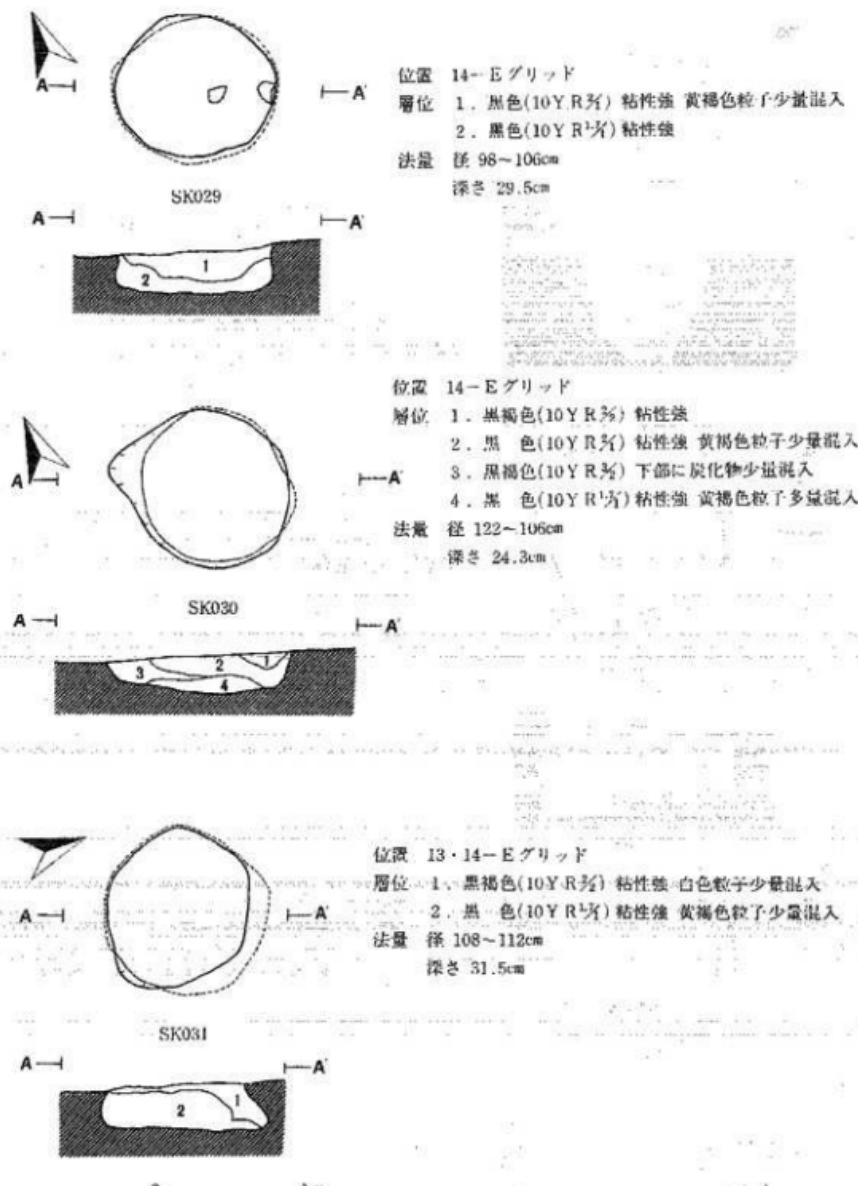
層位 1. 黄褐色(10Y R 5%) 粘性強 白色粒子少量混入
2. 黒色(10Y R 5%) 粘性強 黄褐色粒子少量混入
3. 黄褐色(10Y R 5%) 粘性弱 白色粒子多量混入
4. 黄褐色(10Y R 5%) 黄褐色粒子・明褐色粘質土少量混入
5. 間色(10Y R 4%) 粘性強 白色粒子・黑色土多量混入
6. 黑褐色(10Y R 3%) 粘性強 白色粒子少量混入
法量 厚 192~194cm
深さ 102.5cm



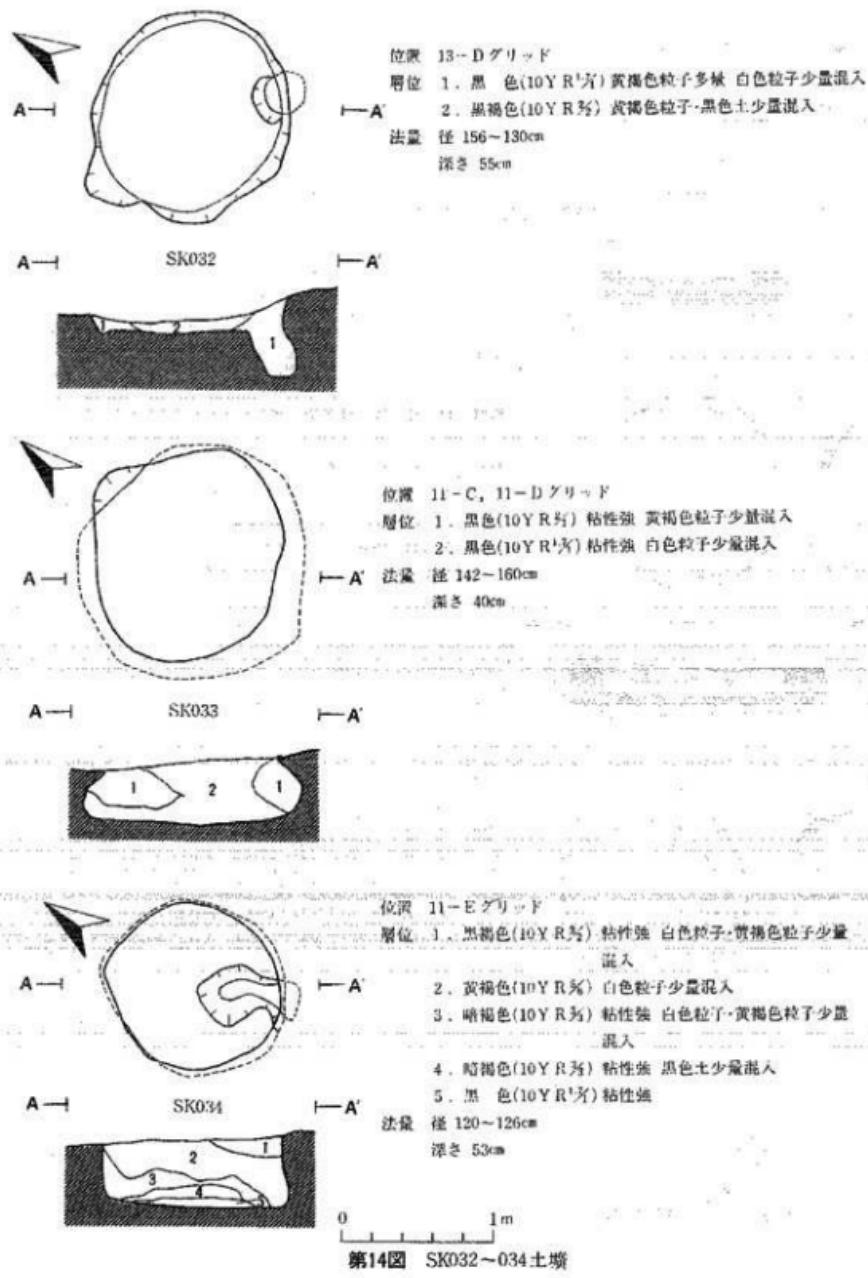
第11図 SK022~024土壤

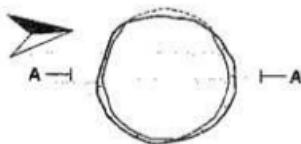


第12図 SK025~027土壤

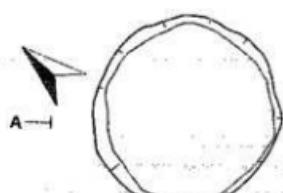


第13図 SK029~031土壤





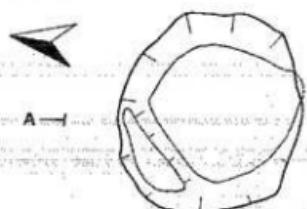
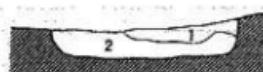
位置 12-G グリッド
層位 1. 黒色(10Y R 1/2) 粘性強 白色粒子・黄褐色粒子少量
混入
法量 径 92~86cm
深さ 21cm



位置 11-G, 12-G グリッド

位置 11-G, 12-G グリッド

層位 1. 暗褐色(10Y R 1/2) 粘性強 黄褐色粒子多量混入
2. 黑・色(10Y R 1/2) 粘性強
法量 径 130~120cm
深さ 22cm

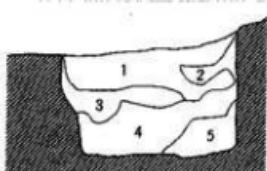


位置 18-C グリッド

層位 1. 黒・色(10Y R 1/2) 粘性強 黄褐色粒子多量混入
2. 紅・色(10Y R 1/2) 粘性強 白色粒子・黒色土少量混入
3. 明黄褐色(10Y R 1/2) 粘性強 砂質
4. 黄褐色(10Y R 1/2) 粘性強 白色粒子・粘質土少量混入
5. 紅・色(10Y R 1/2) 粘性強 白色粒子・輕石・粘質土多量
混入

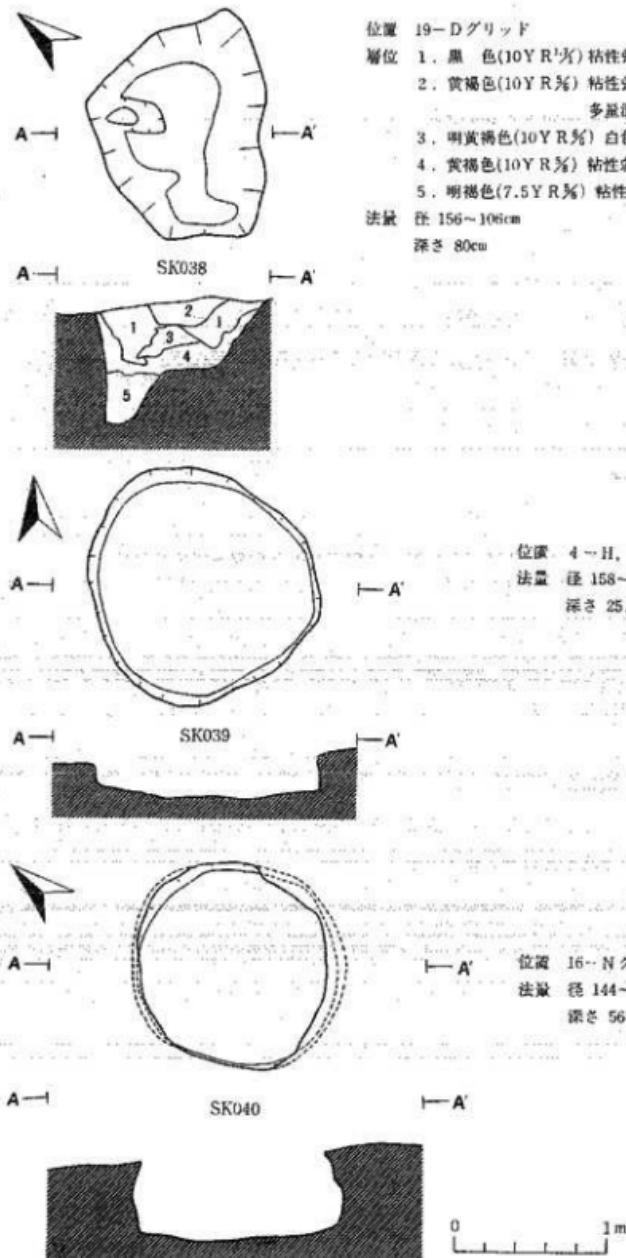
法量 径 120~135cm

深さ 75cm



0 1m

第15図 SK035~037土壤



第16図 SK038~040土壤

②溝 跡

S D 001 (第17図、図版27)

調査区域内北東部に検出された幅約3mの溝で、S K 001・002・004・037を切っている。柏木森遺跡で検出された市道沢口・甘路線に平行して走る廃止道路の延長である。

S D 002 (第17図、図版27・28)

調査区を東西に横切って構築されている。斜面上方では幅1.5~2m、深さ90cm前後であるが、下方では幅、深さとも40cmほどになる箇所がある。西端は北に向きを変え、S D 003がこれに変わる。S K 001~003を切っているが、S K 001との新旧関係は把握できなかった。人為的な溝と考えられる。

S D 003 (第17図、図版28)

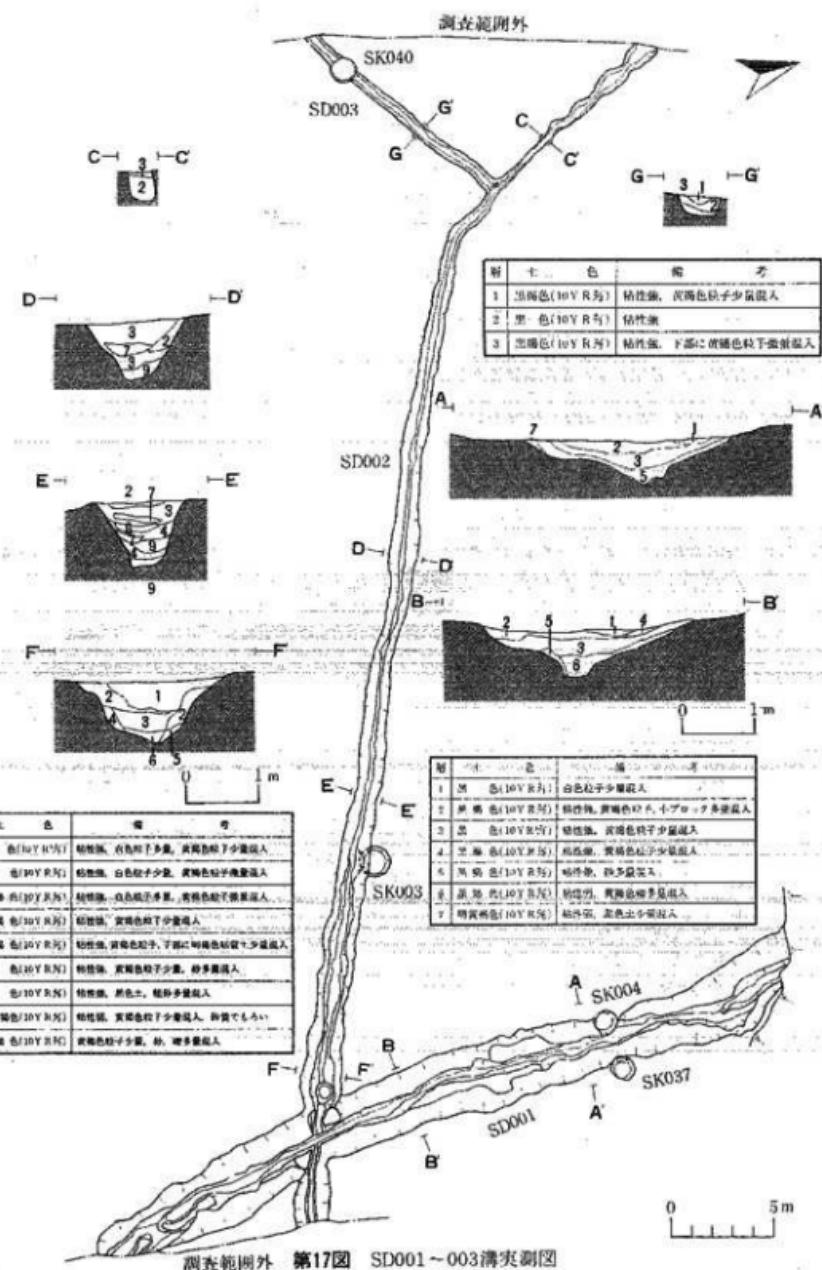
西端に11.5mほど確認された。幅は60~70cmにほぼ一定し、深さ25~35cmであり、S D 002にはほぼ直角に交わっている。S K 040を切っている。人為的な溝であると考えられる。

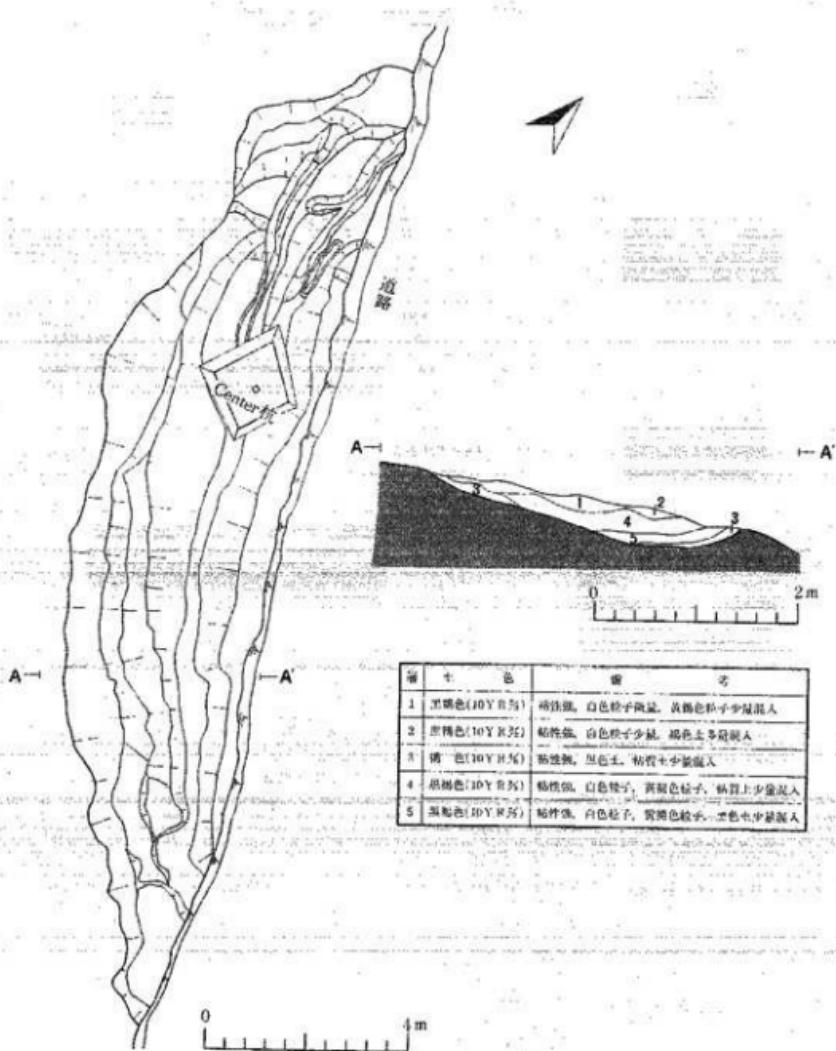
S D 004 (第18図、図版28・29)

北端に検出された弧状に湾曲する溝で、最大幅約4mである。これもS D 001同様、市道沢口・甘路線と関連するものであろう。

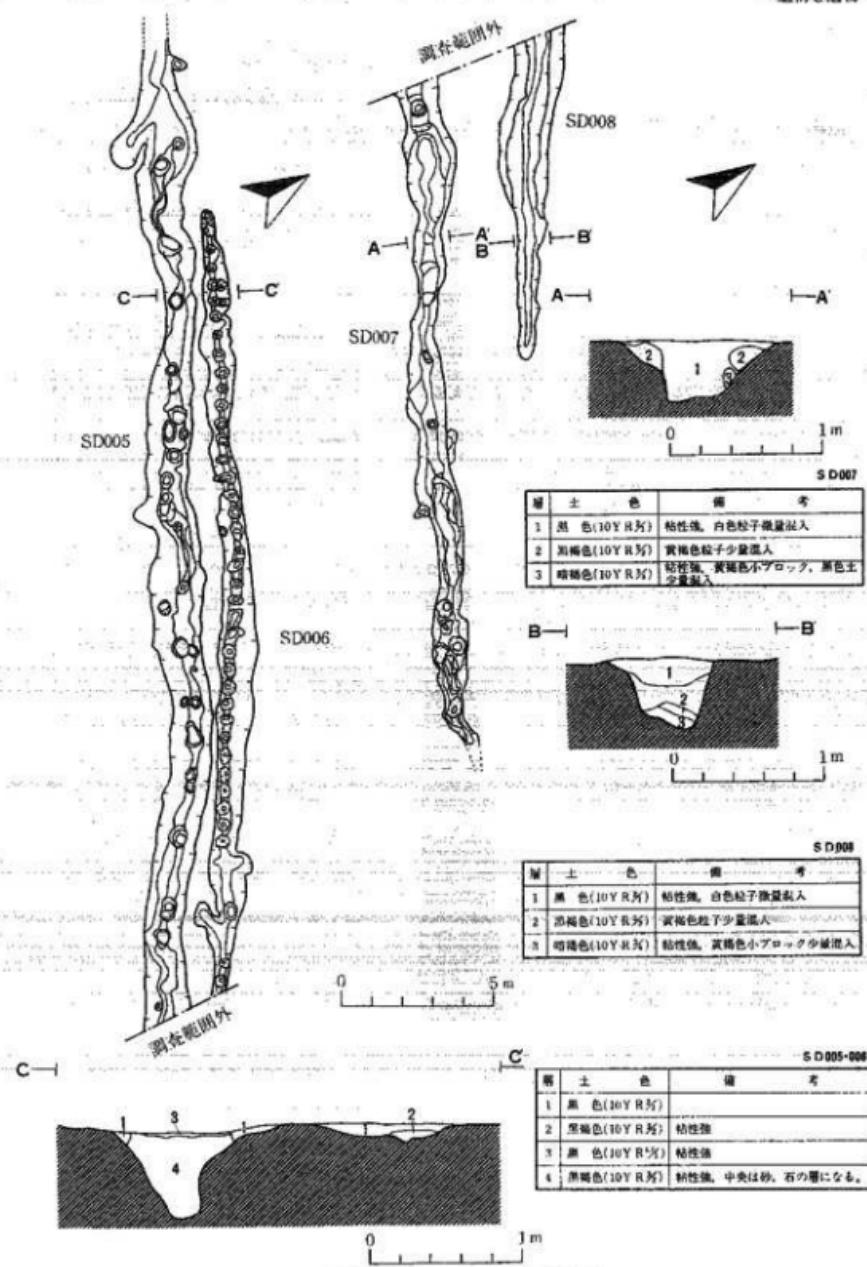
S D 005~008 (第19図、図版29)

南端に検出された東西に平行して走る4条の溝である。底部に凹凸が激しく、中間郭が途切れているが、自然流水による溝であると判断される。

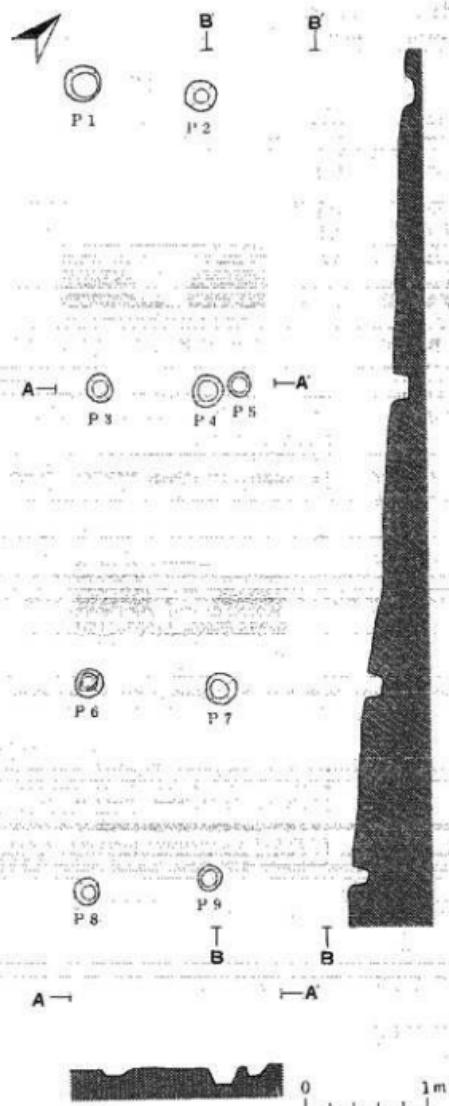




第18圖 SD004溝尖測圖



第19図 SD005～008溝央測図



第20図 SB001掘立柱建物跡実測図

③掘立柱建物跡

SB001掘立柱建物跡（第20図、図版32・33）

17H・18I グリッドに検出された桁行3間、梁行1間の掘立柱建物跡である。桁行柱間は北から246cm、245cm、163cm、梁行柱間は100cmである。遺物はなく、時期は不明である。

Pit No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5
深さ(cm)	18	10	6	21	11
直径(cm)	26	25	24	25	24
Pit No.	P 6	P 7	P 8	P 9	
深さ(cm)	8	15	15	16	
直径(cm)	22	22	21	20	

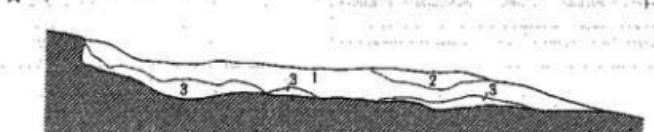
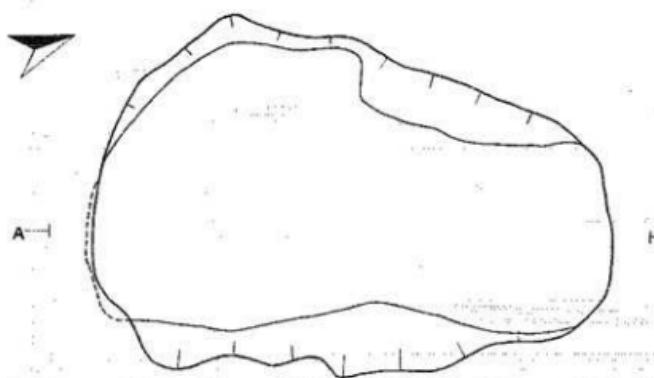
④その他の遺構

SX001 その他の遺構（第21図、図版30）

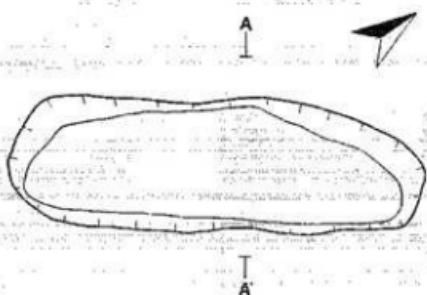
19.1グリッド上にあり、340cm×217cmである。南北に長い長楕円形を呈し、南側の壁は内側に入り込むが、北側には壁は存在しない。底面はわずかに北に傾斜している。遺物は出土しなかった。

SX002 その他の遺構（第21図、図版30）

4Eグリッド内にあり、275cm×88cmの南北に長い長楕円形を呈し、深さ17~35cmである。遺物は出土しなかった。



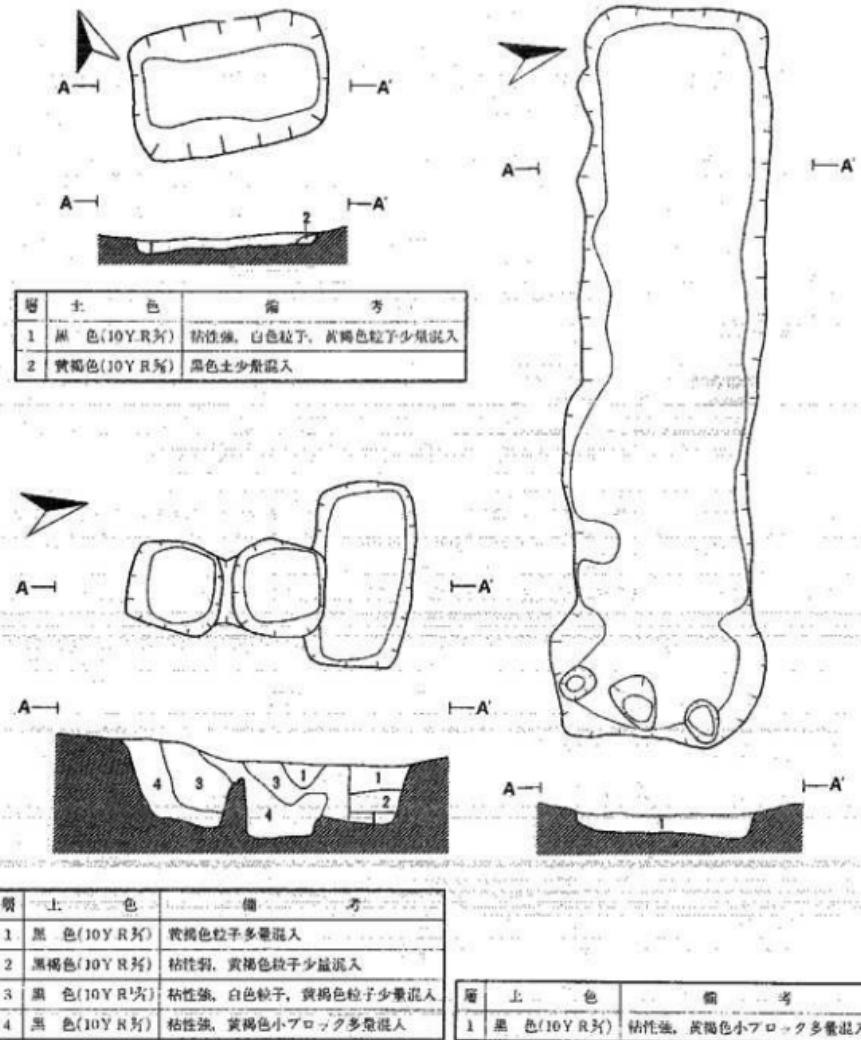
層	土色	備考
1	黒色(10Y R 3/4)	黄褐色粒子少量混入
2	黒褐色(10Y R 3/4)	黄褐色小プロック少量混入
3	黄褐色(10Y R 3/4)	黑色土。明褐色上少量混入



層	土色	備考
1	黒色(10Y R 3/4)	粘性強。黄褐色粒子少量混入
2	黒褐色(10Y R 3/4)	黄褐色粒子多量混入

0 1m

第21図 SX001・SX002その他の遺構実測図



第22図 SX003-005その他の遺構実測図

0 1m

S X 003 その他の遺構（第22図、図版31）

12Hグリッド内にあり、130cm×90cmの方形を呈している。深さは10cmと浅く、壁も外方に緩やかに傾斜している。遺物は出土しなかった。

S X 004 その他の遺構（第22図、図版31・32）

13Kグリッドにあり、單一の掘り込みではなく、3部分に分かれている。南より、60cm四方、深さ50cmのピット状部分があり、その北側に125cm×68cm、深さ40cmの長方形の掘り込みがある。壁の立ち上がりは垂直に近く、両端の掘り込みの底部は極めて堅くしまっている。遺物は出土しなかった。

S X 005 その他の遺構（第22図、図版32）

6・7Lグリッドにあり、485×140cmの長方形を呈している。深さ10~15cmで、遺物は出土しなかった。

(2) 遺 器

① 土 器（第22~27図、図版34~36）

明堂長根遺跡から出土した土器は極めて乏しいが、SK 015からは完形土器が2個出土している。出土土器のうち型式表徴の明確なものは、2のSK 005出土土器、8・9のSK 015出土土器、及び10のSK 018出土土器があげられる。2は大洞BC式、他はB式である。

② 石 器（第27図、図版36）

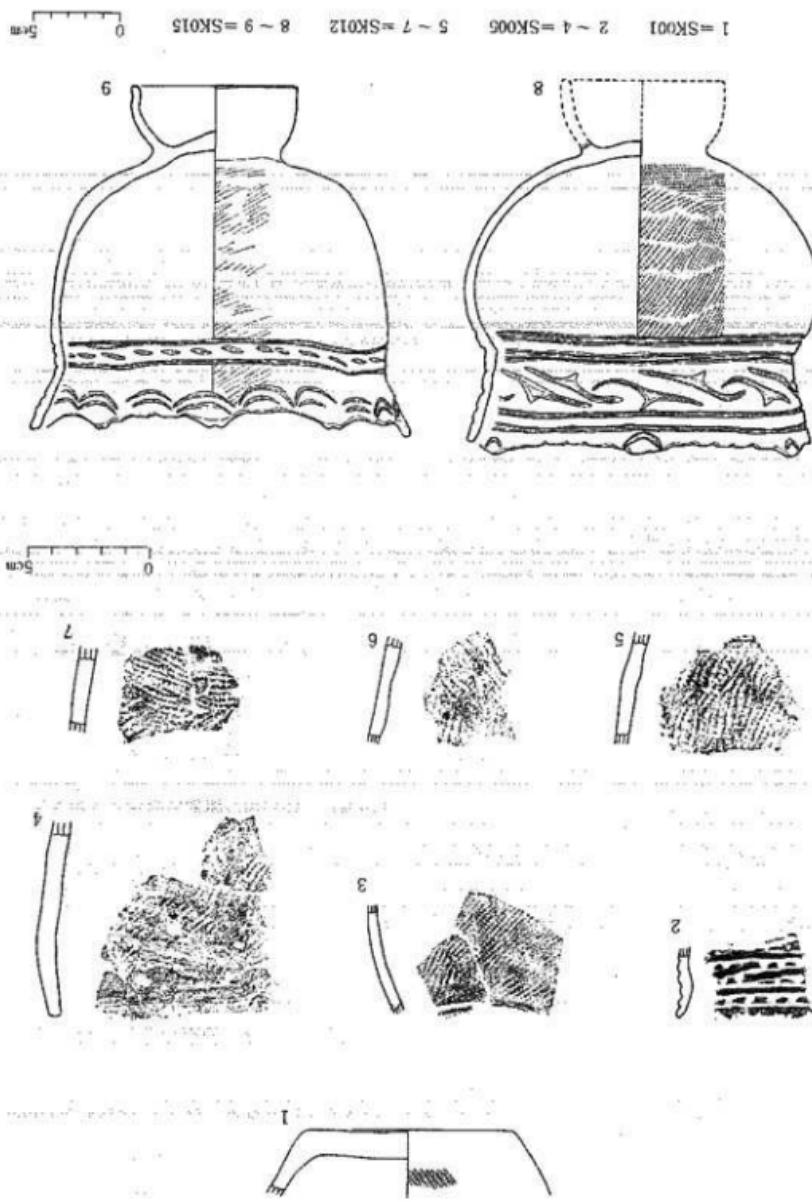
遺構外から2点出土している。

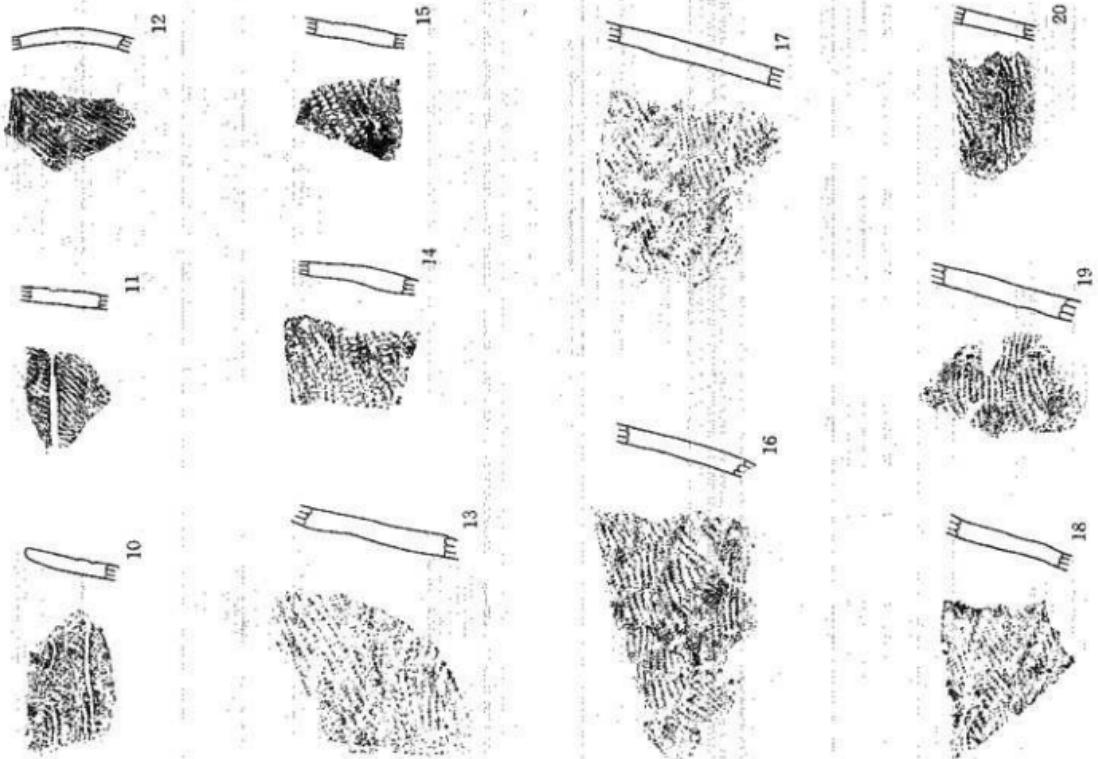
51は橢型石匙である。52は1側辺に調節刻離が施されている。

6. ま と め

明堂長根遺跡は約5,300m²を発掘調査し、縄文時代晩期初頭の土壙を主体とする遺構が検出された。本遺跡の北方に地形的にも連続する形で柏木森遺跡があり、明堂長根遺跡と同時期の60基に及ぶ土壙が検出されている。その分布状態、堆積土の状態、完形土器の出土状況などはよく似ており、両遺跡は縄文晩期初頭の時期において土壙群の構築された同一の遺跡であると言えよう。土壙の性格はいかに考えるべきであろうか。秋田県内において縄文時代晩期の墓壙は数多く検出されているが、本遺跡の土壙からは土壙上面の配石や骨片なども確認されず、積

第23圖 球形內凹土遺物(1)

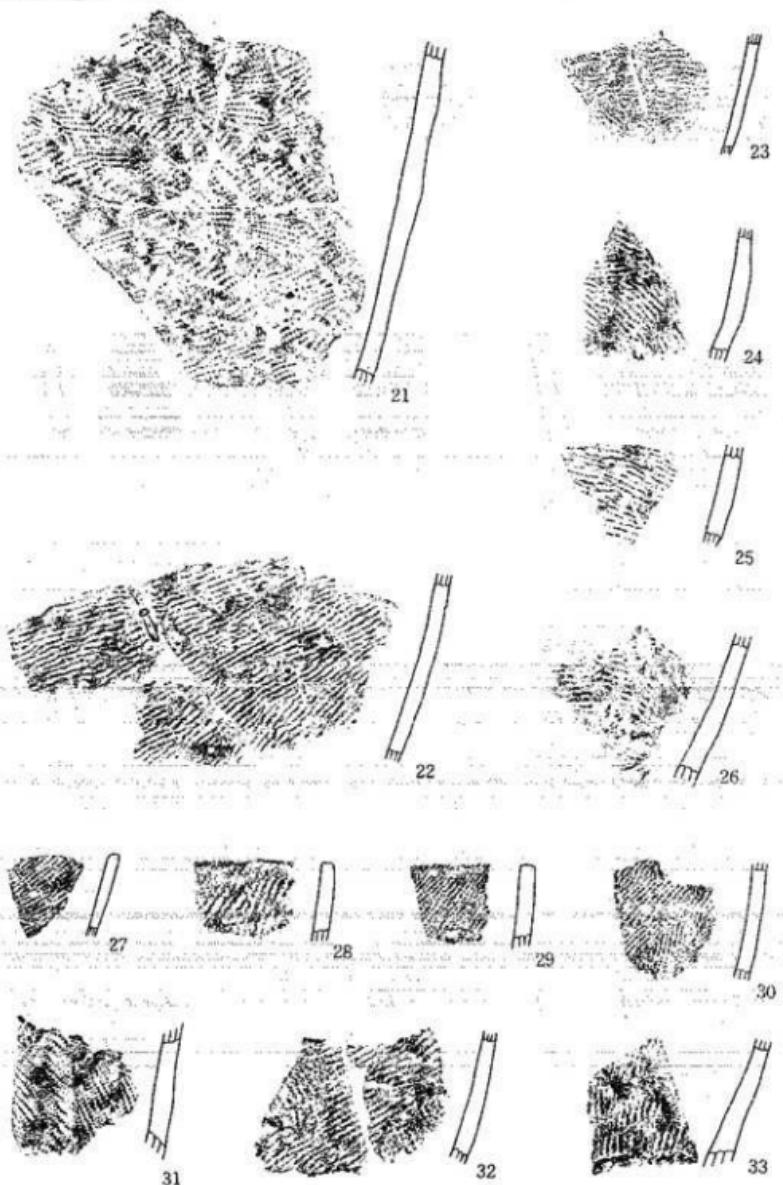




10-20 = SK018

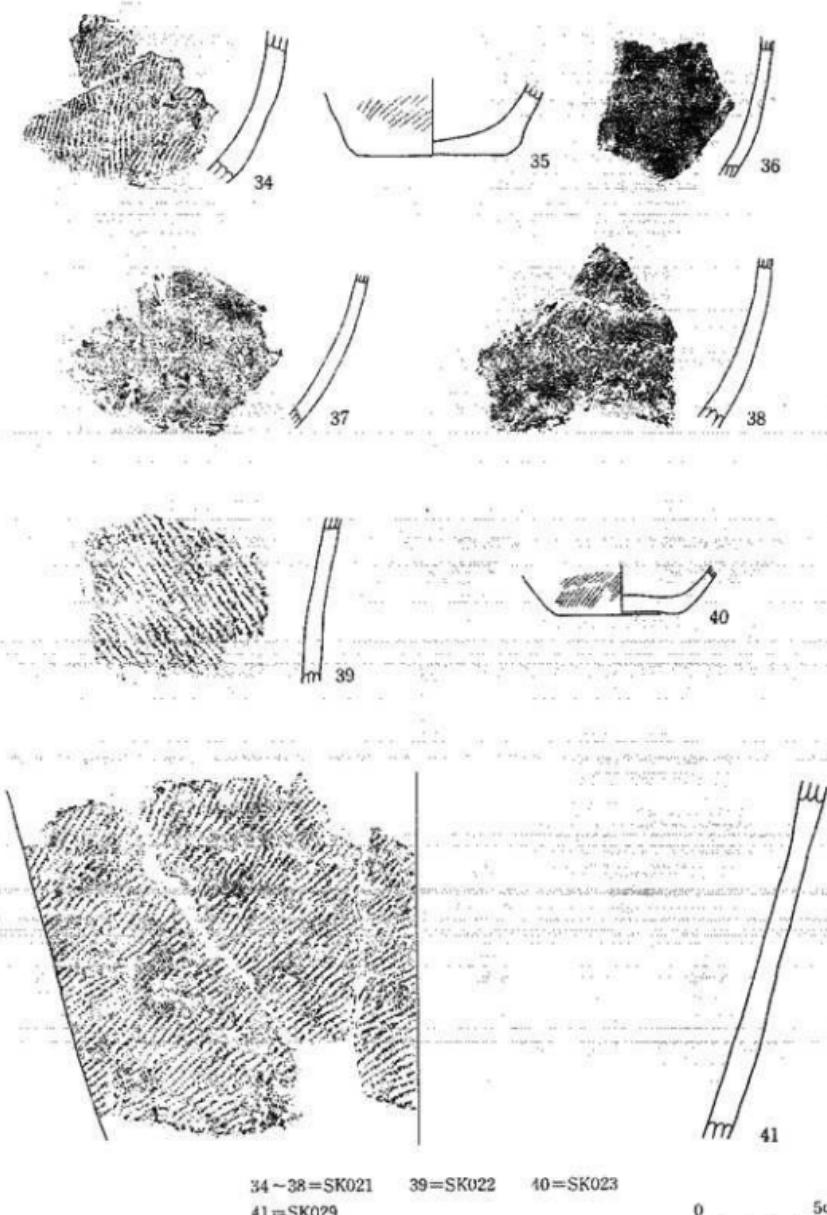
第24図 遺構内出土遺物(2)

5cm

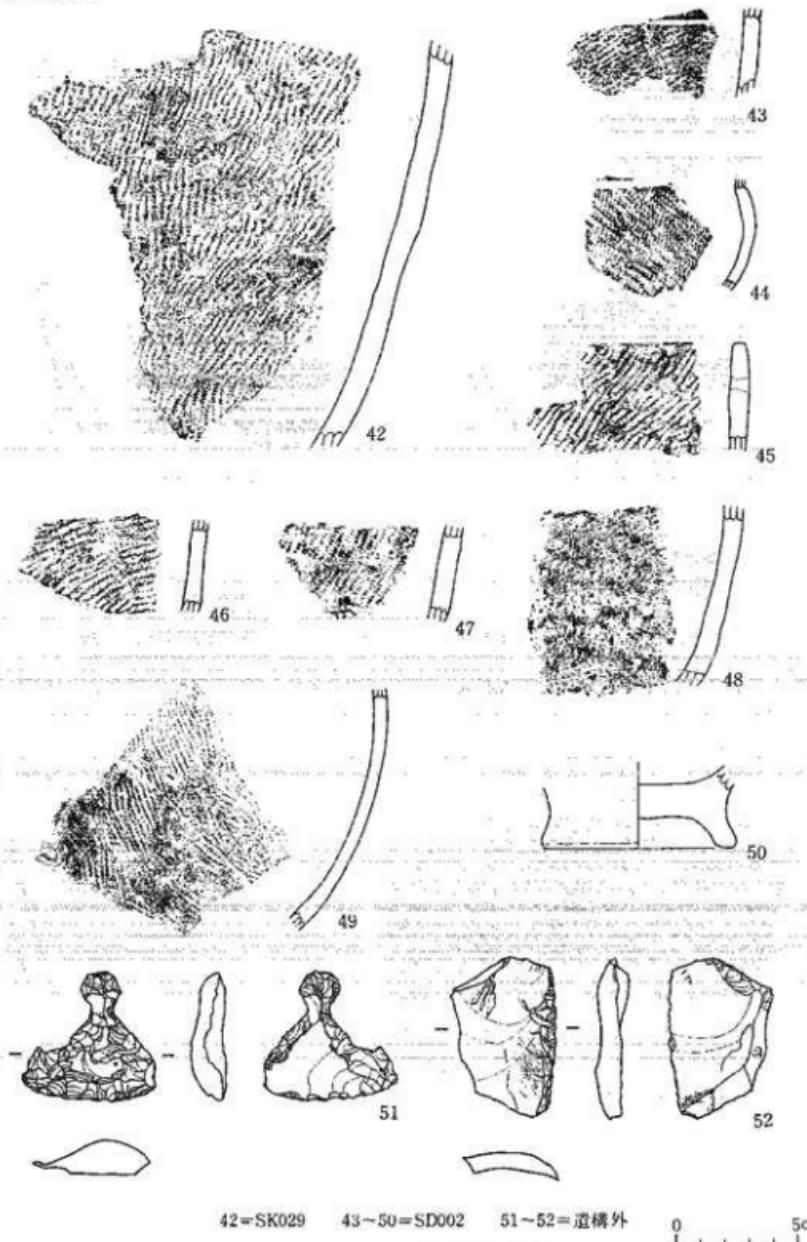


21~26=SK018 27~33=SK021

第25圖 遺構內出土遺物(3)



第26図 遺構内出土遺物(4)



第27図 遺構内・遺構外出土遺物

〔土 器〕

第1表 遺物観察表(1)

種 類 番 号	団 番 号	出 土 地 点	部 位	外 形		内 面 色 調	器 厚 (mm)	胎 土	焼 成	備 考
				文	様					
23-1	34-1	SK001	底 部	R.L.繩文		灰褐色 7.5YR 5%	11	細かい	良好	
2	2	SK005	口 線 部	半円状文		棕 5YR 4%	5	細かい	良好	
3	3	SK005	胴 部	L.R.繩文→沈線		棕 7.5YR 5%	4	細かい	良好	
4	4	SK005	口 線 部	L.撚条文, 檍痕		棕 7.5YR 5%	8	砂, 砂(1~2mm)	良好	
5	5	SK012	側 部	L.R.繩文		灰褐色 10YR 5%	7	砂, 砂(1~2mm)	良好	外面塗少量付着
6	6	SK012	胴 部	L.R.繩文		灰褐色 7.5YR 5%	6	砂, 砂(1~2mm)	良好	
7	7	SK012	胴 部	R.L.繩文		灰褐色 10YR 5%	7	砂	良好	
8	8	SK015	口 線 形	L.R.繩文, 平行沈線文, 三爻文, 弧線文		暗褐色 10YR 5%	5	細かい	良好	右付け
9	9	SK015	光 形	L.撚条文, 平行沈線文, 列点文, 弧線文		黑褐色 10YR 5%	7	細かい	良好	右付け
24-10	10	SK018	口 線 部	L.R.繩文, 沈線文, 弧線文		黑褐色 7.5YR 5%	6	砂	良好	外面塗付着
11	11	SK018	胴 部	L.撚条文, 沈線文		灰褐色 7.5YR 5%	6	砂, 砂(1~2mm)	良好	外面塗付着
12	12	SK018	胴 部	L.R.繩文		灰褐色 7.5YR 5%	6	砂多量	良好	
13	13	SK018	胴 部	L.R.繩文		灰褐色 10YR 5%	8	砂少量, 砂(2mm) 細かい	良好	
14	14	SK018	胴 部	L.R.繩文		灰褐色 7.5YR 5%	8	砂	良好	
15	15	SK018	胴 部	L.R.繩文		灰褐色 10YR 5%	7	砂	細かい	良好
16	16	SK018	胴 部	L.R.繩文		灰褐色 7.5YR 5%	7	砂, 砂(2~3mm)	良好	
17	17	SK018	胴 部	L.R.繩文		灰褐色 10YR 5%	8	砂, 砂(1~3mm)	良好	
18	18	SK018	胴 部	L.R.繩文		灰褐色 10YR 5%	7	砂, 砂(2~3mm)	良好	外面塗少量付着
19	19	SK018	胴 部	L.R.繩文		灰褐色 7.5YR 5%	9	砂, 砂(2~3mm)	良好	外面塗付着
20	20	SK018	胴 部	L.R.繩文		灰褐色 10YR 5%	6	砂少量, 砂(1~2mm)	良好	外面塗付着

〔土 器〕

第2表 遺物観察表(2)

排番号	国版番号	出土地点	部位	外 観		内面 色調	器厚 (mm)	胎 土	焼成	備 考
				文	様					
25-21	34-21	S K018	胴 部	LR織文		黒 7.5YR4/4	10YR4/4	8	砂 砕(1~2mm)	良好 外面煤付有
22	35-22	S K018	胴 部	L捺糸文		浅黄褐 7.5YR4/4	10YR4/4	6	砂少量 細かい	良好
23	23	S K018	胴 部	LR織文		灰黄褐 10YR4/4	10YR4/4	5	砂少量	良好
24	24	S K018	胴 部	L捺糸文		灰 7.5YR4/4	10YR4/4	8	砂少量	良好 内面煤付有
25	25	S K018	胴 部	L捺糸文		浅黄褐 10YR4/4	10YR4/4	7	細かい	良好
26	26	S K018	胴 部	L捺糸文		灰 7.5YR4/4	10YR4/4	8	砂少量 細かい	良好
27	27	S K021	口縁 部	L捺糸文		黒 10YR4/4	7.5YR4/4	5	砂少量 細かい	良好 外面煤付有
28	28	S K021	口縁 部	LR織文		灰 10YR4/4	10YR4/4	7	砂少量 細かい	良好
29	29	S K021	口縁 部	LR織文		黒 7.5YR4/4	10YR4/4	7	砂少量 細かい	良好
30	—	S K021	胴 部	LR織文		灰 7.5YR4/4	7.5YR4/4	6	砂 砕(1~2mm)	良好
31	30	S K021	胴 部	LR織文		灰 10YR4/4	10YR4/4	8	砂 砕(1~2mm)	良好
32	31	S K021	胴 部	LR織文		灰 10YR4/4	10YR4/4	7	砂少量	良好 外面煤付有
33	32	S K021	胴 部	L捺糸文		灰 7.5YR4/4	明赤褐 5YR4/4	9	砂 砕(2~3mm)	良好 アスファルト付有
41-34	33	S K021	胴 部	L捺糸文		灰 7.5YR4/4	7.5YR4/4	10	砂 砕(2~3mm)	良好 内・外面炭化物付有
35	34	S K021	胴~底部	LR織文		灰 7.5YR4/4	10YR4/4	8	荒い	良好
36	35	S K021	胴 部	無 文		灰 10YR4/4	浅黄褐 10YR4/4	6	砂多量 細かい	良好 内・外面煤少量付有
37	36	S K021	胴 部	無 文		淡 黄 2.5YR4/4	10YR4/4	6	砂 細かい	良好
38	37	S K021	胴 部	無 文		淡 黄 2.5YR4/4	浅黄褐 10YR4/4	9	砂 砕(2mm)	良好
39	38	S K022	胴 部	LR織文		灰 7.5YR4/4	10YR4/4	7	砂少量 砕(2mm)	普通
40	36-39	S K023	胴~底部	LR織文		灰 7.5YR4/4	7.5YR4/4	7	細かい	良好

(3) 表 観察 資物 第3表

種 器 番 号	固 定 番 号	出 土 地 点	部 位	外 形		色 調	(mm)	幅 度	土 性	成 分	備 考
				丈	幅						
26-41	40	S K023	胸 部	1.R 鎖文		淡黃褐色 10YR 5/4	10	鋸 齒(2~3 mm)	良好		
27-42	41	S K028	胸 部	L.R 鎖文		深褐色 10YR 5/4	10	鋸 齒(1~3 mm)	良好		
43	42	S D002	胸 部	L.R 鎖文→右鎖文		深褐色 10YR 5/4	7	砂少量 鐵(1~2 mm)	良好	内面炭化物付着	
44	43	S D002	胸 部	R.L 鎖文→左鎖文		棕 5YR 5/6	5	砂少量 鐵(1~2 mm)	良好		
45	44	S D002	口 線 部	L.R 鎖文		黑褐色 10YR 5/4	5	砂少量 鐵(1~2 mm)	良好		
46	45	S D002	胸 部	L.R 鎖文		黑褐色 10YR 5/4	7	砂 (2 mm)	良好		
47	46	S D002	胸 部	1.R 鎖文		深褐色 7.5YR 5/6	8	砂少量 鐵(1~2 mm)	良好		
48	47	S D002	胸 部	高 無 文		黑褐色 10YR 5/4	8	砂 鐵(2~3 mm)	良好	内面炭化物少量付着	
49	48	S D002	胸 部	L.R 鎖文		深褐色 7.5YR 5/6	5	砂少量 鐵(1~2 mm)	良好		
50	—	S D002	右 部	無 文		深褐色 7.5YR 5/6	14	砂少量 鐵(1~2 mm)	良好		

〔石 器〕

種 器 番 号	固 定 番 号	名 稱	出 土 地 点	最 大 尺 寸 (cm)	最 大 幅 度 (cm)	重 量 (g)	6 類 別	考 考
27-51	36-49	石 鏊	16...H	5.3	5.4	1.4	25	良 岩
52	50	石 鏊		6.6	4.3	0.6	28	良 岩

極的に墓場であることを想定することはできない。柏木森遺跡の報告では居住地から離れた堅果類の貯蔵貯穴と見なしているが、こうした見解の方がより実態に適合した解釈であると考える。

調査参加者

浅石 清・浅石林一郎 大信田 学 川又 康彦 木村 留吉 木村 善男 佐藤 由蔵
 関本 芳雄 田中 敏二 田中惟四郎 奈良正次郎 崎山 市助 浅石 イソ 浅石 ヒサ
 浅石 ミヨ 浅石 ヨエ 阿部 妙子 安保 カヨ 安保ハルエ 安保ユキ子 大森 栄子
 金沢実津子 川又 スエ 川又 ソヨ 川又 千代 久慈 チヤ 児毛ハツエ 斎藤 久子
 佐藤 トシ 佐藤フミエ 高橋 ミワ 豊田 コタ 岩代沢良子 中村 陽子 根本 キワ
 根本 シエ 橋場 トシ 古家カツ子 古家 一子 村木 茂子 米田 ノリ 宮沢 カヨ
 柳沢 光子 山口チヨ子



1 遺跡遠景



図版1 遺 跡

2 遺跡全 景

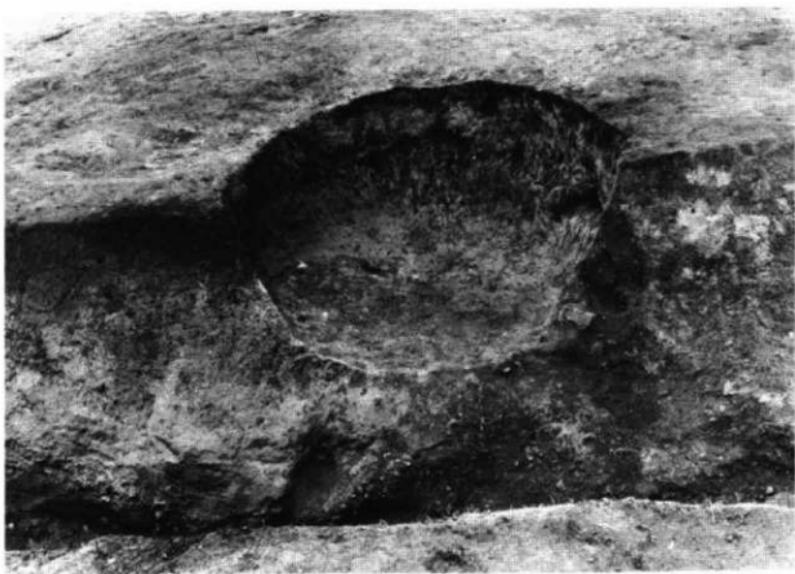
图版2 遗迹

2 SK 002



1 SK 001, 002





1 SK 003



2 SK 003

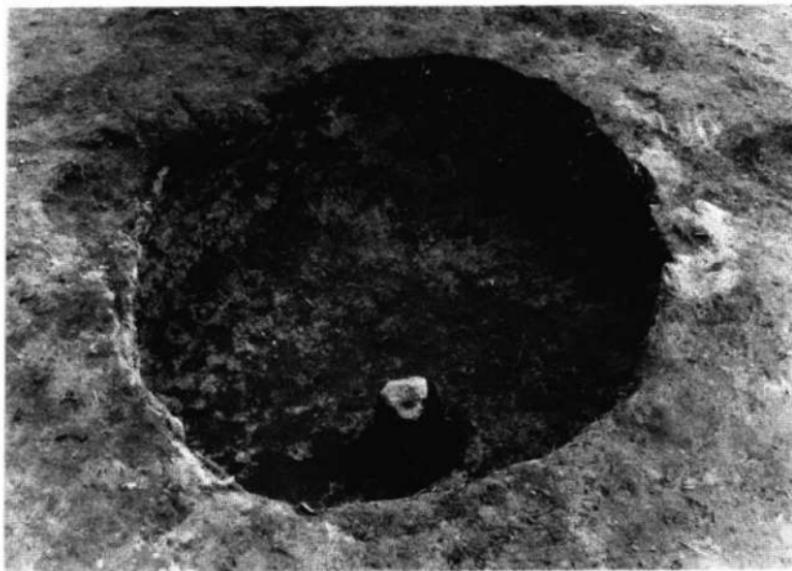


1 SK 004



2 SK 004

図版4 遺 跡



1 SK 005



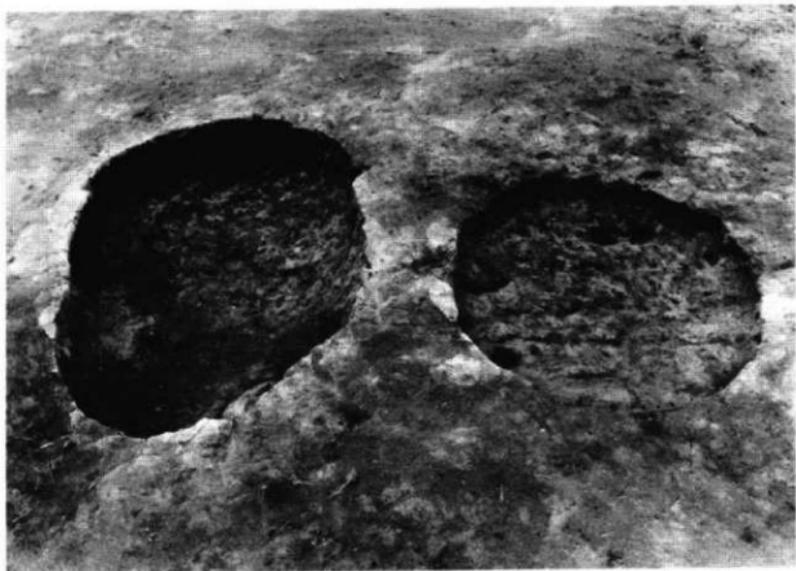
2 SK 006



1 SK 007



2 SK 008



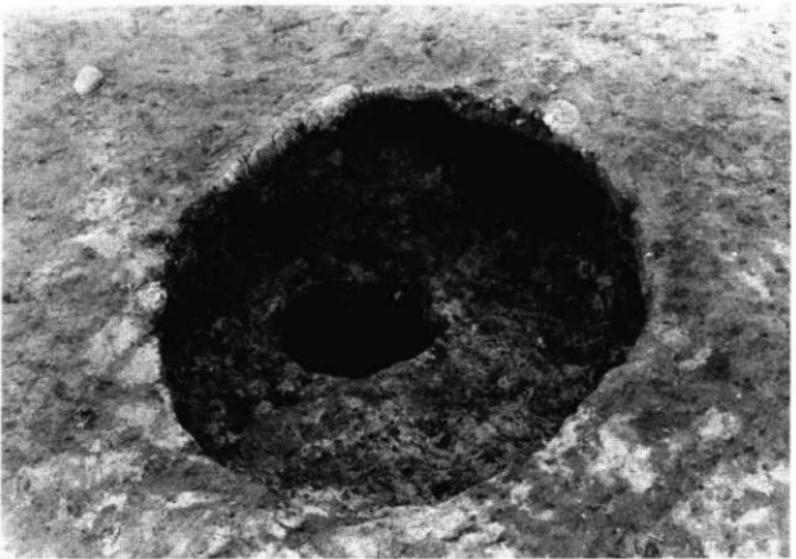
1 SK 009, 010



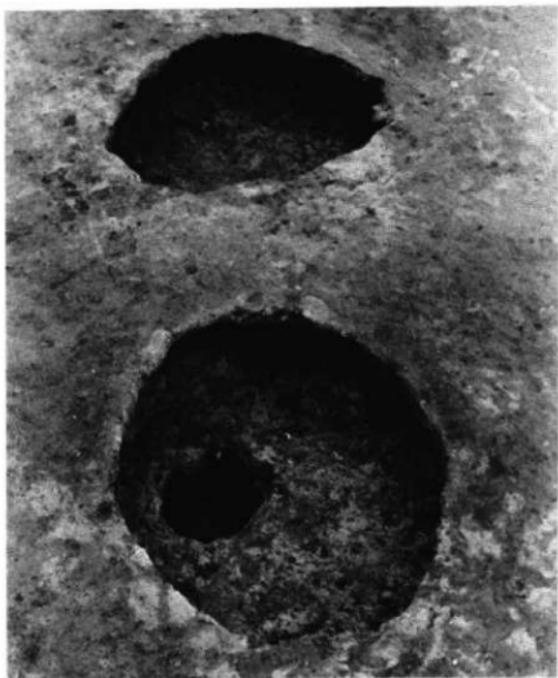
2 SK 011



1 SK 012



2 SK 013



1 SK 013



2 SK 015

図版9 遺 跡



1 SK 015



2 SK 016



1 SK 018



2 SK 018

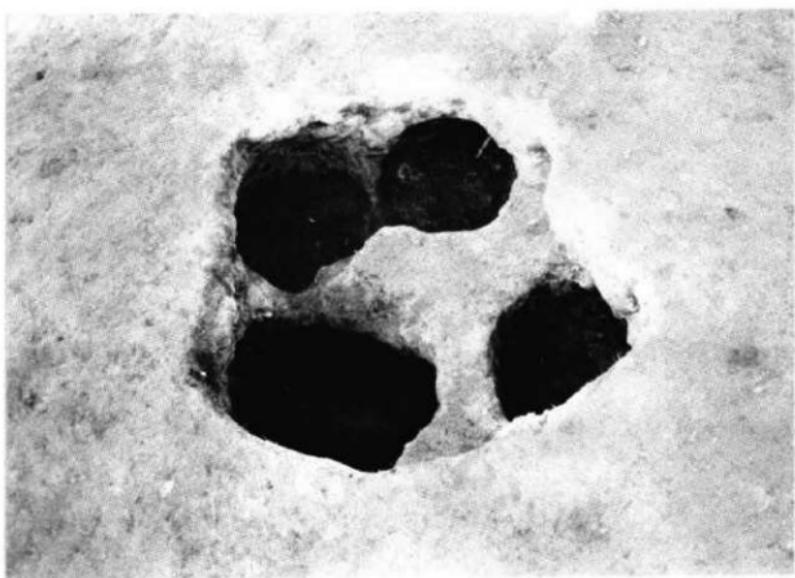


1 SK 019



2 SK 020

図版12 遺跡



1 SK 021



2 SK 022



1 SK 023



2 SK 023



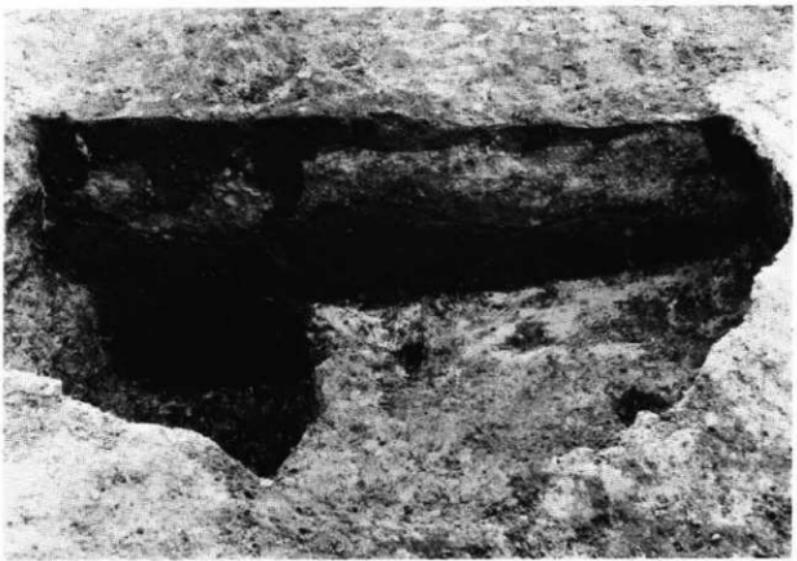
1 SK 023, 024



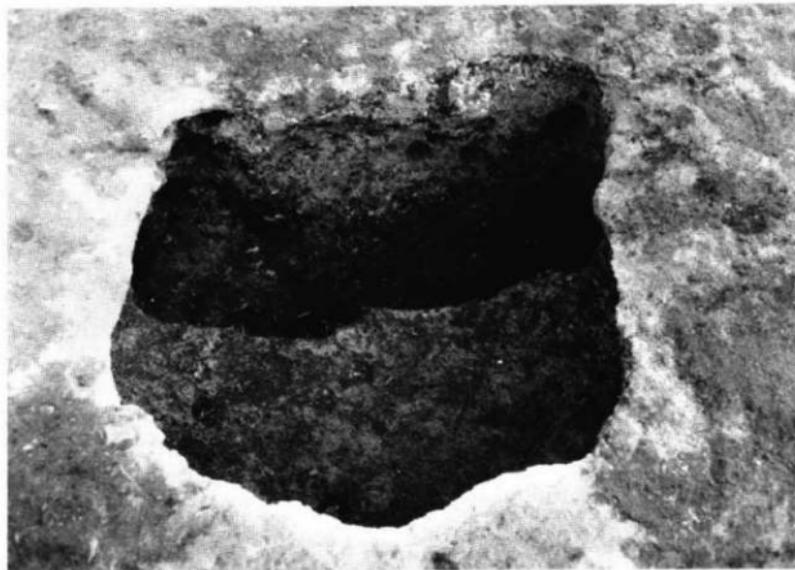
2 SK 024



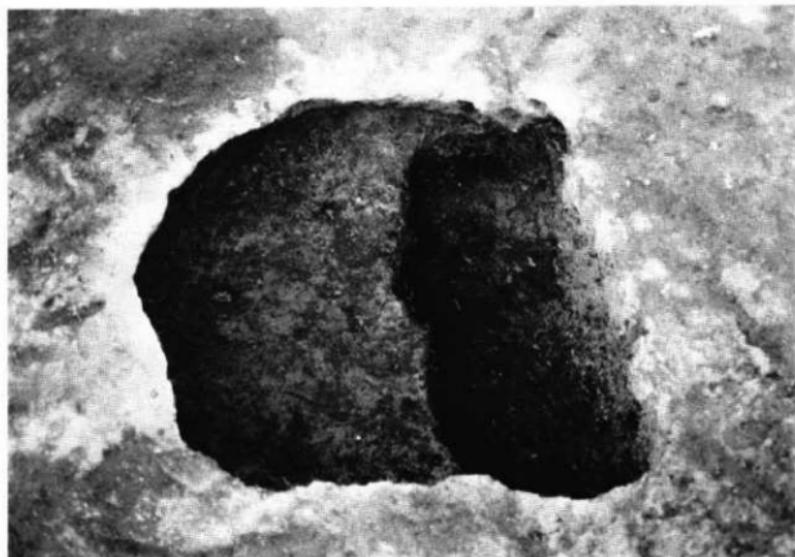
1 SK 025



2 SK 026



1 SK 026



2 SK 026



1 SK 027



2 SK 027



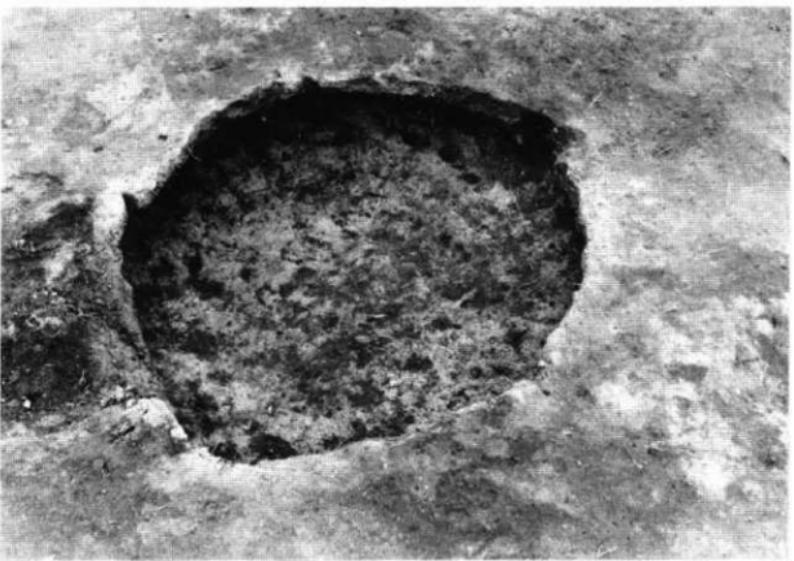
1 SK 029



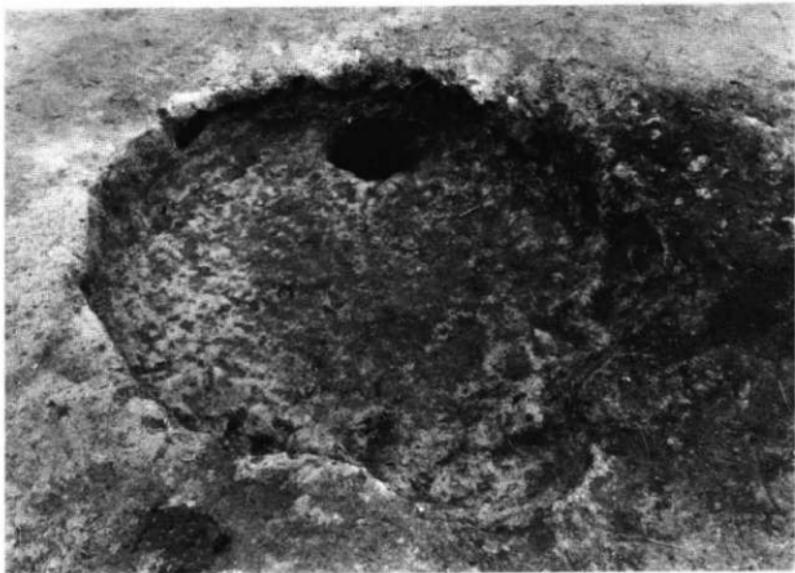
2 SK 029



1 SK 030



2 SK 031



1 SK 032

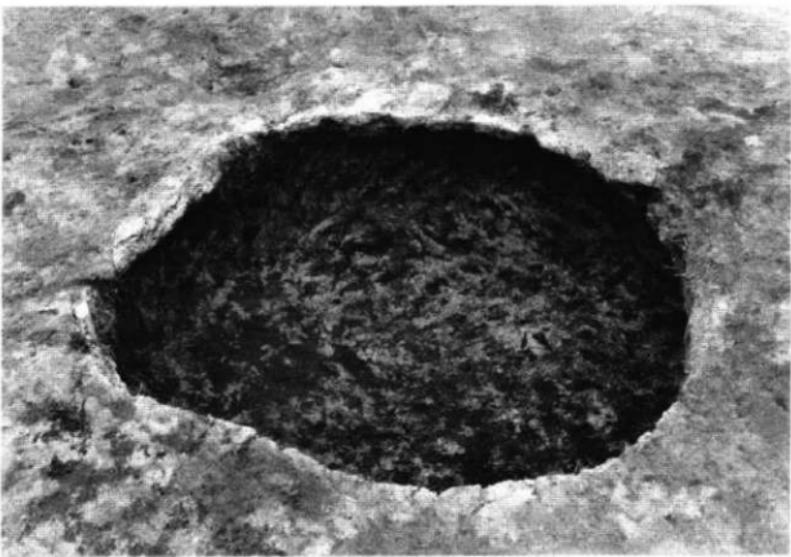


図版21 遺 跡

2 SK 030-032

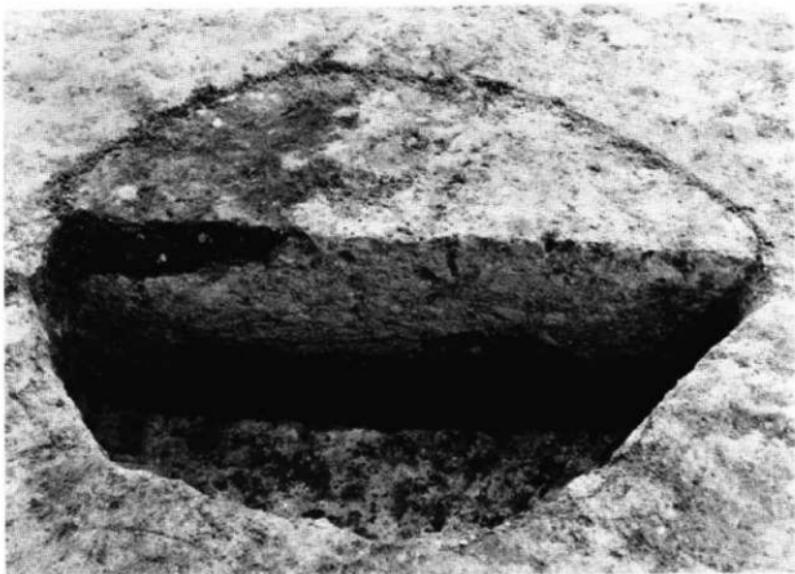


1 SK 030~032



2 SK 033

図版22 通跡



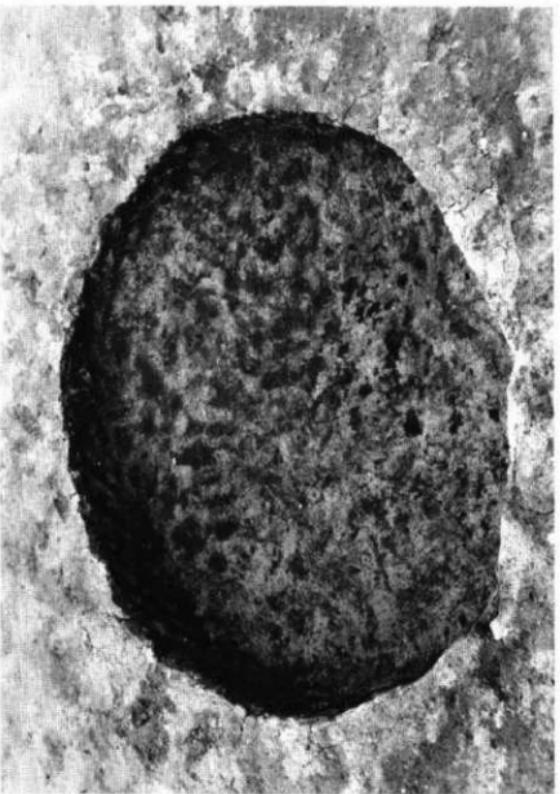
1 SK 034



2 SK 034



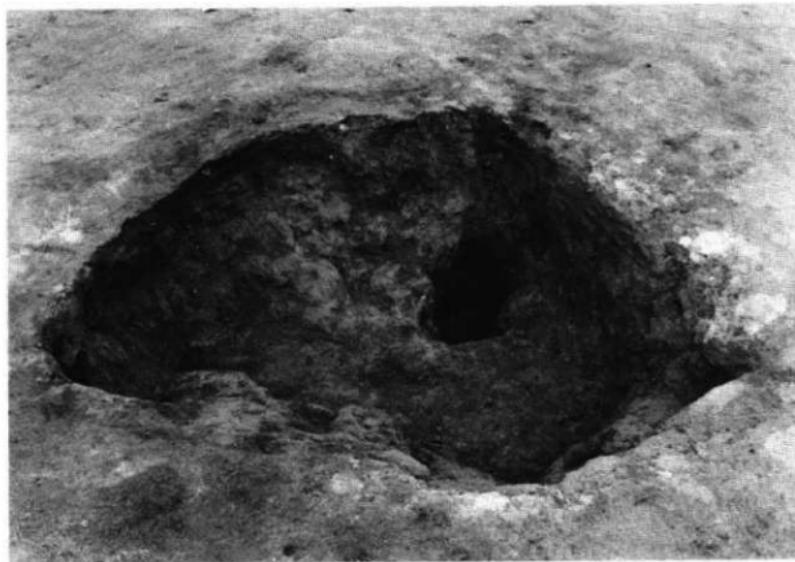
1 SK 035



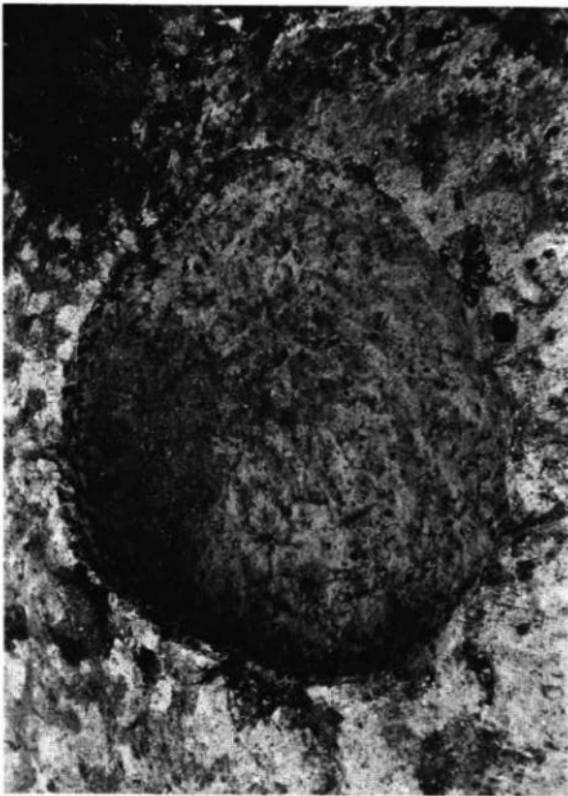
2 SK 036



1 SK 037



2 SK 038



1 SK 039



2 SK 040



1 SD 001



2 SD 001



3 SD 002



4 SD 001, 002



1 SD 002, 003



2 SD 002, 003



3 SD 003



4 SD 004



1 SD 004



2 SD 004



3 SD 005, 006



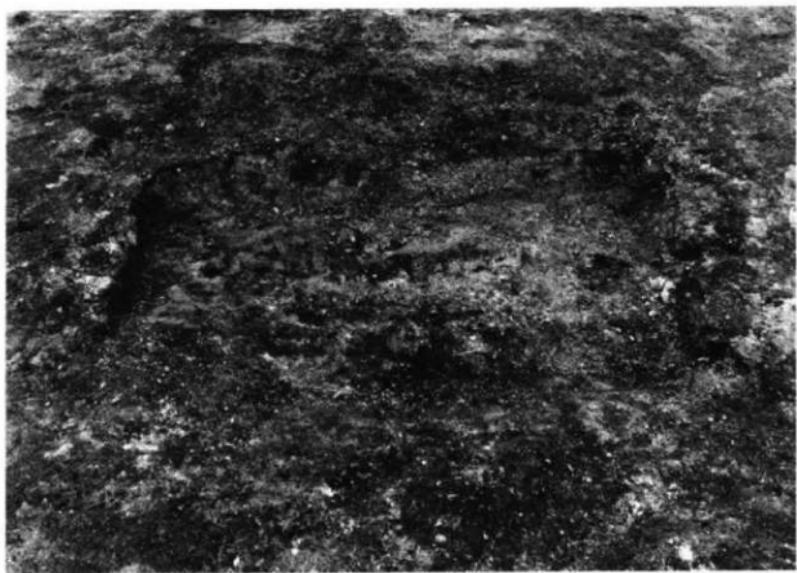
4 SD 007, 008



1 SX 001



2 SX 002



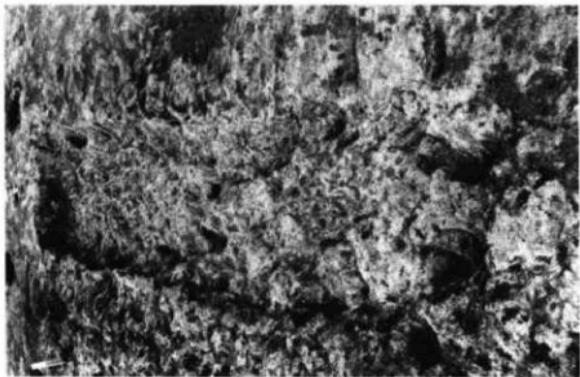
1 SX 003



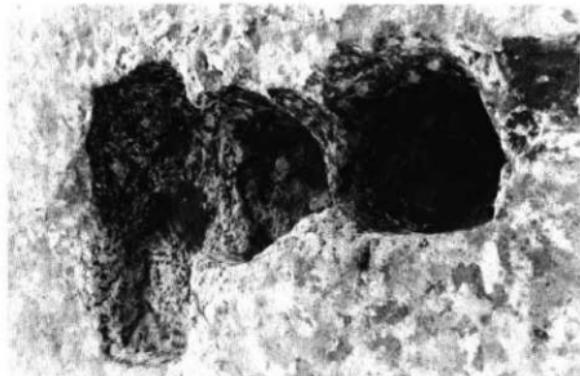
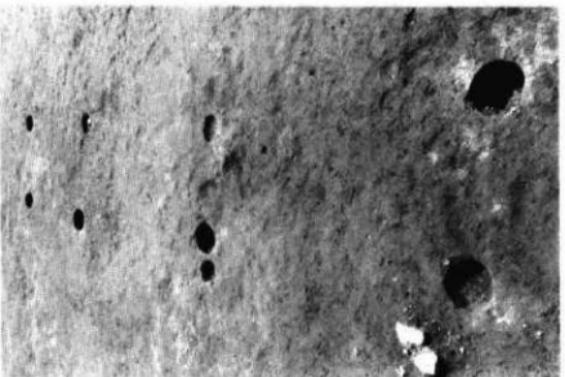
2 SX 004

4 SX 001

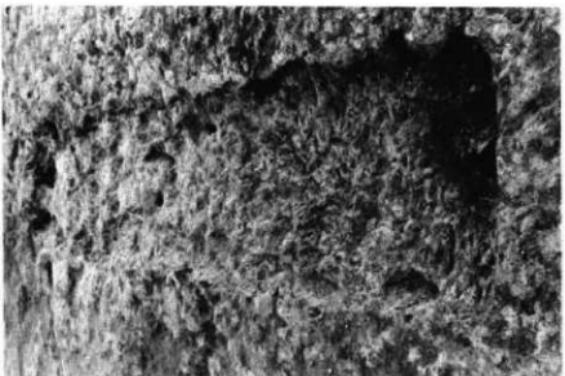
3 SX 005
2 SX 004
1 SX 003



2 SX 005



1 SX 004



圖版32

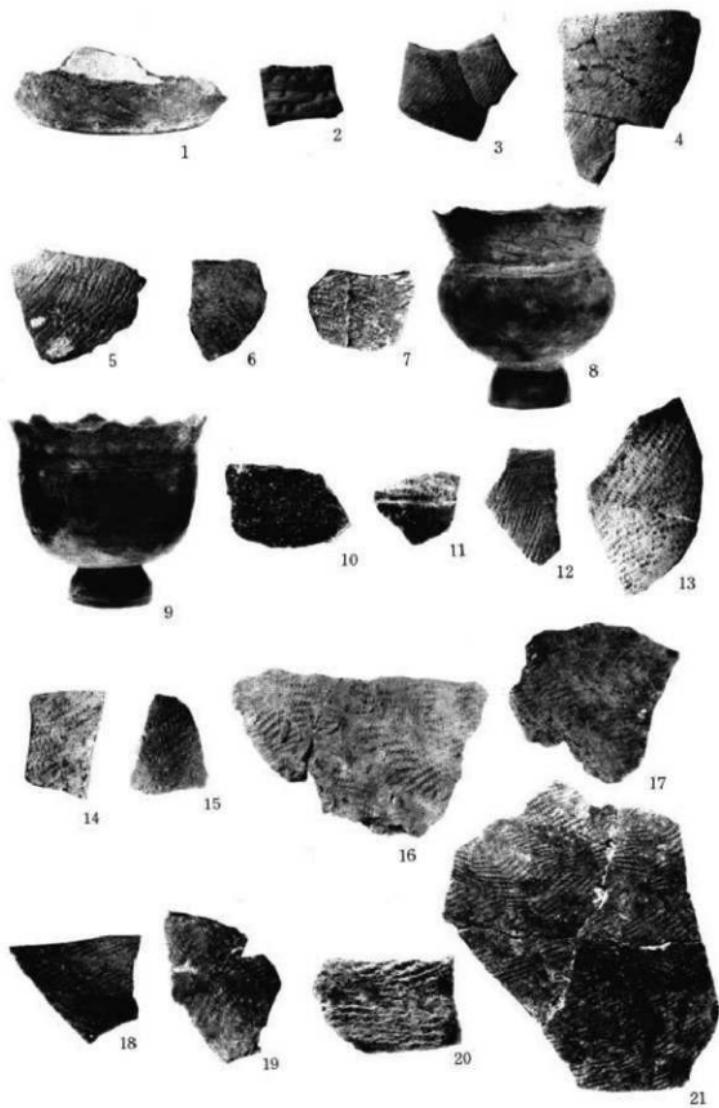


1 SK 015, 018~020, SB 001

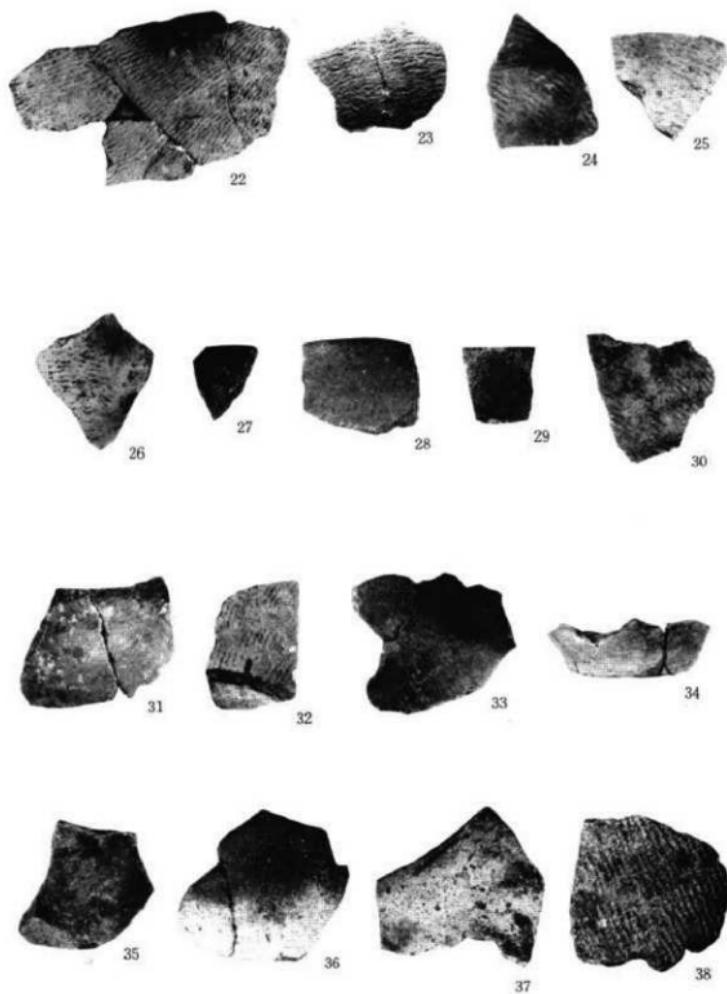


圖版33 遺 跡

2 作 業 風 景

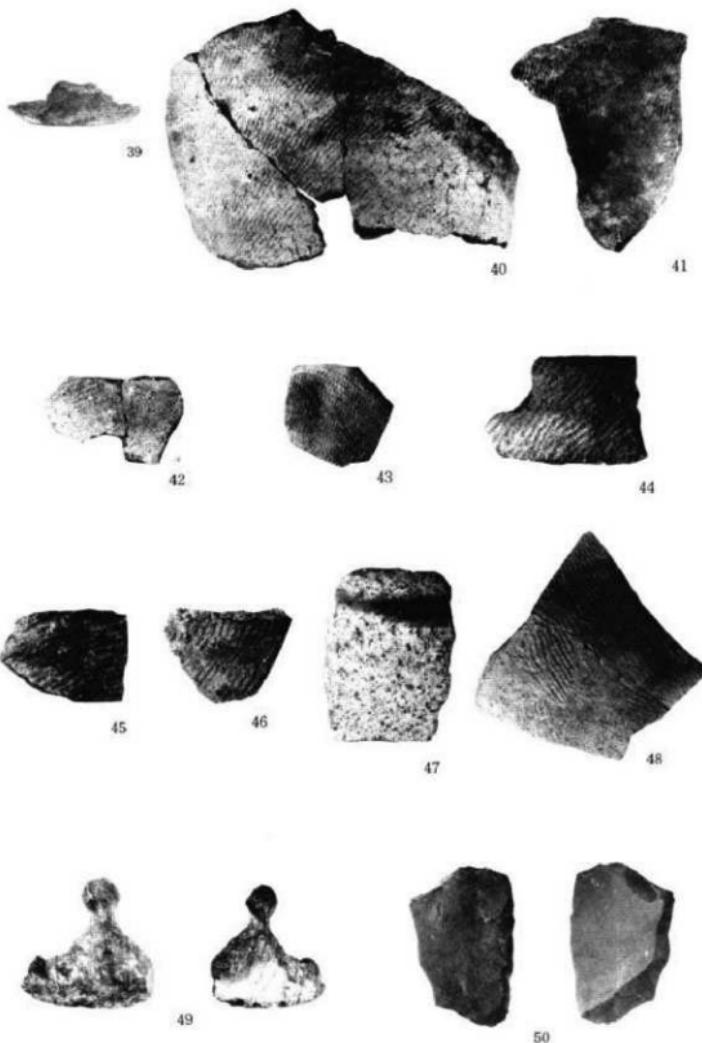


図版34 遺物 1 : SK 001, 2~4 : SK 005, 5~7 : SK 012,
8~9 : SK 015, 20~21 : SK 018



図版35 遺物

22~26: S K 018, 27~37: S K 021, 38: S K 022



図版36 遺物

39 : SK 023, 40・41 : SK 029, 42-48 : SD 002, 49・50 : 遺構外